

野根地区公衆トイレ等整備工事

[illegible]

野根地区公衆トイレ等整備工事

Ⅰ 工 事 概 要

1. 工事場所
高知県安芸郡東洋町大字野根内1848-1

2. 工事種目
建築・電気設備・機械設備

3. 別契約関連工事
・電気設備工事 ・機械設備工事 ・ガス設備工事 ・昇降機設備工事 ・橋載工事
・合併処理装置設置工事 ・外構工事

4. 概成工期
完成期限の()日前 (令和 年 月 日)

Ⅱ 建 築 工 事 仕 様

特記仕様

1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。

3) 特記事項に記載の() 内表示番号は、「公共建築木造工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
() 内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

2. 適用基準等

図面及び特記事項に記載されていない事項は、全て国土交通省(建設)大臣官庁官庁営繕部監修の以下による。
※公共建築木造工事標準仕様書 (令和4年版)
※公共建築工事標準仕様書(建築工事編) (令和4年版)
※公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) (平成31年版)
※建築工事標準詳細図 (令和4年版)
※敷地調査共通仕様書 (平成27年10月改訂版)
・建築物解体工事共通仕様書 (平成31年版)

項 目

特 記 事 項

一般共通事項

1 工事実績情報サービス(CORINS)への登録(請負金額500万円以上)(受注、変更、完成時)

登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズ」への登録(請負金額500万円以上)による。

(1.1.4)

2 総合工程表

原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。

3 総合図

工事の施工に先立ち別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の承認を受ける。

(1.2.3)

4 工事日誌

週ごとに工事の全般的な経過及び欠週の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。
また、工事の経過が明確にわかる写真を貼付すること。

(1.2.4)

5 工事写真

工事写真はし版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し1部提出する。(A4版台紙)
撮影方法は、国土交通大臣官庁官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(平成31年版)・同解説 工事写真の撮り方 建築編」による。
デジタル工事写真の小黒板情報電子化の実施をする場合は、監督職員の承認を受ける。
なお、実施については、国技建第10号(平成29年1月30日付)「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」による。

(1.2.4)

6 下請負者の報告

各下請負者については下請負契約前に監督職員に報告する。

7 電気保安技術者

適用する。

(1.3.3)

8 施工条件

施工日及び施工時間 ※1.3.5(1)(7)による。

(1.3.5)

工事用車両の駐車場所及び資機材の置場所
※ 仮囲内 ・ 図示

(1.3.5)

その他の施工条件
・
・
・
・

9 交通誘導警備員

交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法(昭和47年法律第117号)第4条による認定を受けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させないこととする。
ただし、一時的な作業等で、安全確保に対応できると監督職員が認めたものについては、この限りでないものとする。
配置人員等 ・ 令和 年 月 日から令和 年 月 日までの間は 名常駐する。
・ 作業日は 名常駐する。その他監督職員と協議し、適宜配置する。
○監督職員と協議し、適宜配置する。
配置員の資格
・ 1名以上／1班は交通誘導警備業務に係る検定合格者(1級又は2級)を配置する工事。
※交通誘導に關し、1名以上／1班は専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置する工事。

資格	資 格 要 件	配置人数
1. 2級交通誘導警備(検定合格者)	交通誘導警備に關して、公安委員会が学科及び実地試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの	人
交通誘導に關し、専門的な知識及び技能を有する警備員等(交通誘導警備員A)	警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)に現に受けているもので、交通誘導に關する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの	人

なお、事前に監督職員に検合格証の写し等の資格条件の確認できる資料を提出する。
また、警備員等に変更が生じた場合は、速やかに監督職員に同様の資料を提出する。

特 記 事 項

19 化学物質の室内濃度の測定

化学物質の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告書を監督職員に提出する。
ただし、完成検査前に報告書の提出が困難な場合は、事前に信頼のおける速報等の資料を監督職員に提出する。この場合、後日に正式な報告書を速やかに監督職員に提出しなければならない。
測定する業者の選定にあたっては、あらかじめ監督職員に報告し、測定時期、測定対象品については監督職員と協議する。

(1.5.9)

項 目

特 記 事 項

20 直接仮設の養生

内部養生に合板又は構造用パネルを使用する場合、その合板または構造用パネルのホルムアルデヒド放散量はF☆☆☆☆、又はそれと同等と認められる製品を使用する。

21 建築材料等

本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。(記載順は不同)また、「評価名簿による」と特記されたものについては、「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」によるもの、又は評価の内容についてこれらと同等と認められるものとする。ただし、同等とする場合は、監督職員の承認を受ける。
県内産資材の優先使用
本工事に使用する資材は、機能、品質、価格等が同等であれば、県内産資材を優先して使用するものとする。なお、県外産資材を使用する場合は、使用理由を施工計画書の打合せ事項に記載し、監督職員の承認を受けること。
注1： 県内産資材とは、高知県内で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工した資材、又は高知県外で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工された資材をいう。
ただし、①木材は、高知県内の森林から生産されたもの、②生コンクリートの細骨材に配合する海砂は、高知県内で産出されたものとする。
注2： 県外産資材とは、県内産資材以外の資材をいう。

22 特別な材料の工法

公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承認を受けて当該材料製造所の指定する工法による。

23 風圧力

本工事に使用する材料及び工法は、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応したものとし、速度圧を求める場合の風速(Vo)及び地表面粗土区分は、次の数値とする。
風速(Vo)： ※ 40m/sec ・36m/sec 地表面粗土区分： ※ Ⅲ ・

24 仕上面の出隅処理

内外部とも仕上出隅で利用者の手の届く範囲は、図示が無くとも原則として全て面取りを施す。
木部(家具を含む) 6mm程度
コンクリート、モルタル部 20mm程度
鉄部、金属部 3mm程度
建具類等、上記より強い場合は、監督職員と協議する。

25 事業損失補償

※現場説明書による。

26 完成時の提出図書

○完成図(作成範囲 ○配置図 ○平面図 ○立面図 ○断面図 ○仕上図) (1.7.1) (1.7.2)
○完成図(CADデータの提出 ※する(CD-R等) ・しない)
○保全に関する資料(提出部数 ※2部 ・部) (1.7.3)
※上記のほか、使用材料のメーカー名、品番、色(マンセル値等)をCADデータ等で監督職員に提出する。
また、工種別下請負者の一覧表を提出する。
○施工図、施工計画書 (1.7.2)
提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

27 完成写真

下表のものを監督職員に提出する。

位置	分類・規格	撮影枚数	部 数	原画の大きさ(mm)
○各室	手札版(L版)	※2枚・枚	※1部・部	・100×125以上
○外部	キャビネ版	※4枚・枚	※1部・部	・24×36以上
・外部	半切パネル(木製枠※A4ミラ)	※1枚・枚	※1部・部	
・スライド			※1部・部	

カラー・電子データ化(CD-R等)し、すべて提出する。
撮影箇所は監督職員と協議する。
上表のほか、監督職員指示の箇所をデジタルカメラにて撮影し、CD-R等に提出する。
画像形式等 フォーマット：JPEG 画質：標準 画像サイズ：1024×768ピクセル程度

28 設備工事との取合い

施工範囲
・貫通孔、開口部の補強 ※下表 ・図示
・壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ※下表 ・図示
・駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ
・自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強

補 強 種 別	内 容
貫通孔、開口部の補強	梁
	壁
	スラブ
壁切込み及び補強	
天井切込み及び補強	

特 記 事 項

29 不当要求等への対応

暴力団又は暴力団関係者からの不当要求又は工事妨害(以下この文において「不当介入」という。)の排除については次にによる。
a) 受注者は、暴力団又は暴力団関係者からの工事の施工に關して不当介入を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。
b) 受注者は、不当介入による被害を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。
c) 受注者は、監督職員及び所轄警察署と協力して、不当介入の排除処理を講じなければならない。
d) 受注者は、不当介入の報告を怠った場合は、「高知市競争入札指針停止措置要綱」に基づき、指針停止措置を行うものとする。

30 消防計画

工事の着手にあたり、火災等の災害の予防や、使用部分と工事中の部分の安全を確保するため、別契約の関連工事業者と協議の上、「工事中の消防計画書」を作成し、当該施設の防火管理者の承認を得て届出を行う。

31 工事特性等

受注者は、自ら立案した工事特性、創意工夫、社会性等のそれぞれの評価項目について、実施しようとする場合は、事前に計画内容を所定の様式で監督職員に提出する。
また、実施後、工事完成時までに所定の様式に実施状況の分かる図面や状況写真等を添付して監督職員に提出する。

仮設工事

1 足場その他

本足場を設ける場合は、(2.2.4(2))によるほか、足場の組立、解体、変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。

(2.2.4)

2 監督職員事務所

・設ける ※設けない

(2.3.1)

3 監督職員の備品等

備品等の設置 (2.3.1)

備品の種類	机・椅子	書 棚	黒 板	P C	掛 時 計
数 量	組	台	枚	台	個
備品の種類	温 度 計	ゴ ム 長 尺	雨 が っ ぱ	保 護 帽	懐 中 電 灯
数 量	個	個	足 箱	個	個
備品の種類	衣類ロッカー	冷暖房機器	消 火 器	湯 沸 器	加入電話機器
数 量	人用	台	個	台	台
備品の種類	掃 除 具				
数 量	個				

4 工事用水・電力

構内既存の施設(用水) ○利用できる (※有償 ・無償) ※利用できない
構内既存の施設(電力) ○利用できる (※有償 ・無償) ※利用できない
構内既存の施設を利用できる場合で、無償の場合は、下記a)～c)による。
a) 既存設備の水栓等から直接水を使用する場合は、監督職員と協議する。
b) 既存のコンセントから直接電力を使用する場合は、監督職員と協議する。
c) 工事用電源を既存建築物から分岐する場合は、原則、既設分電盤の共用回路のコンセントからとする。なお、接続する回路の負荷状態を確認し、既設負荷への波及がないようにする。
また、漏電遮断器付コンセント等を使用し、安全の確保を図る。
構内既存の施設を利用できる場合で、有償の場合は、上記a)～c)に下記d)～e)を加える。
d) 工事用水は、既存設備に量水器を設けて、仮設配管を施し使用するものとする。
e) 工事用電力は、原則、既存設備に電力計を設けて、仮設配電盤を設置し、使用するものとする。
※図示 ○シヤ張り
※原形の復旧
・ 良土にて設計地盤まで掘土整地する。範囲(図示) 厚さ() (2.4.1)

土工事

1 掘戻し及び盛土

種別 ・A種(水結めのきく砂質土) (3.2.3)(表3.2.1)
※B種 ・C種 ・D種

2 建設発生土の処理

※構外搬出適切な処理(搬出前に建設発生土の受入証明又は法令による許可書等を提出する) (3.2.5)
・構内指示の場所に敷き均し
・構内指示の場所にたい積
・構外指示の場所に処分(搬出調書等を提出する)
・受入れ施設名：
・受入れ場所：

3 山留め

山留めの工法
山留めの撤去 ※撤去する ・存置する (3.3.3)
抜き跡の処理 ※砂で充填する ・

地業工事

1 試験杭

位置、本数、寸法 ※図示 ・
杭の種類 ※本杭 ・ (4.2.2)

2 杭の載荷試験

試験の種類 ・鉛直載荷試験 ・水平載荷試験 (4.2.3)
試験位置 ()箇所 ※図示 ・
試験深さ ・設計G Lより()m
試験対象土質 ・
最大荷重 ・() t
試験の方法及び報告書の記載事項※図示 ・

3 地盤の載荷試験

試験の種類 ※平板載荷試験 ・
試験位置 ()箇所 ※図示 ・ (4.2.4)
試験深さ ・設計G Lより()m
試験対象土質 ・
最大荷重 ・() t
試験の方法及び報告書の記載事項※図示 ・

4 既製コンクリート杭地業

杭の種類 ※速力カ強度プレストレストコンクリート杭(P H C杭) (4.3.3)
・外設鋼管付きコンクリート杭(S C杭)
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(P R C杭)
種類、性能、曲げ強度等による区分 ※図示 ・
寸法及び継手の箇所数 ※図示 ・ (4.3.3)
杭先端部の形状 ・開放形・半開放形・閉塞形 ※図示 (4.3.3)

特 記		凡	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						意 匠 図	特記仕様書(1)		
		例			製 図	検 印	2025. 04. 30	縮 尺 S=1:	図 番 A-01

特記事項

工法・セメントミルク工法 (4.3.4)
支持層の位置及び土質：※図示・
掘削深さ及び杭の支持層への根入れ深さ：※図示・
杭の精度：水平方向の位置ずれ寸法・杭径の1/4かつ100mm以内・
傾斜・1/100以内・
・特定埋込杭工法 (建築基準法認定工法) (4.3.3) (4.3.5)
工法：
支持層の位置及び土質：※図示・
杭の根入れ長さ：※図示・
杭の精度：水平方向の位置ずれの精度・杭径の1/4かつ100mm以内・
傾斜・1/100以内・
杭の継手工法 ※アーク溶接 (4.3.6)
・無溶接継手 (工法：※性能評価された工法・
・杭頭の処理 杭頭の切断方法 ※ダイヤモンドカッター (4.3.8)

5鋼杭地業 (4.4.3) (表4.4.1)
材料
・鋼管い 種類の記号 (・SKK400・SKK490)
・H形鋼い 種類の記号 (・SHK400・SHK490M)
寸法 ※図示
工法 特定埋込杭工法 (建築基準法認定工法) (4.3.3) (4.3.5)
支持層の位置及び土質：※図示・
杭の根入れ長さ：※図示・
杭の精度：水平方向の位置ずれの精度・杭径の1/4かつ100mm以内・
傾斜・1/100以内・
継手の工法 ※図示
・杭頭の処理 杭頭の切断方法 ※ガス切断・図示 (4.4.6)

6場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1) (4.5.5)
掘削工法・アースドリル工法 (安定液 ※使用する・使用しない)
・リバース工法
・オルケーシング工法 (孔内の水張り・行う・行わない)
併用する工法・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.1) (4.5.6)
・杭底杭工法 (安定液・使用する・使用しない)
帯筋の加工及び組立て：※図示 (4.5.4)
鉄筋の最小かぶり厚さ・100mm・図示 (4.5.4)
鉄筋かごの補強 ※図示 (4.5.4)
鉄筋の節ごとの継手 ※重ね継手 (4.5.4)
セメントの種類 ※高炉セメントB種 (4.5.4)
コンクリートの設計基準強度(Fc) ※図示 (4.5.4)
コンクリートの種類 ※表4.5.1による (4.5.4)
スランブ ※18cm (4.5.4)
構造体強度補正値(S) ※3N/mm2 (4.5.4)
鋼管 (鋼管部分の材料) ※図示 (4.5.4)
支持層の位置及び土質：※図示 (4.5.4～4.5.5)
孔壁の確認・行う (超音波測定器による)・行わない (4.5.4～4.5.5)
杭の精度：水平方向の位置ずれ・杭径の1/4かつ100mm以内・
傾斜・1/100以内・

⑦砂利及び砂地業 (4.6.2)
材料
砂利地業 ※切込砂利又は切込砕石 ※再生クラッシュラン(直接基礎下を除く)
砂地業・山砂・川砂又は砕砂
厚さ ○図示 ※60mm (4.6.3)
捨コンクリート地業 (6.14.1)
コンクリートの種類 ※普通コンクリート・
設計基準強度(Fc) ※18N/mm2・
スランブ ※15cm・
厚さ ※50mm (4.6.4)
9床下防湿層 (4.6.5)
施工範囲 ※建物内土間スラブ及び土間コンクリートの直下(ピット下を除く)
(断熱材がある場合は、断熱材の直下)
・図示
・ポリエチレンフィルムの厚さ ※0.15mm・
・図示(構造図)

10地盤改良

鉄筋工事

①鉄筋の種類 (5.2.1) (表5.2.1)

種類の記号	呼び名	使用箇所
○SD295	D10、D13	図示
・SD295B		
・SD345		
・SD390		
・SR235		
・SR295		

②溶接金網等 (5.2.2)
規格 ※JIS G 3551
種類・溶接金網・鉄筋格子
鉄線の形状、綱目寸法 (図示)
鉄線の径(mm) (図示)

③鉄筋の継手及び定着 (5.3.4) (表5.3.2～5.3.3)

部位	継手方法	呼び名
柱・梁の主筋	※ガス圧接継手・重ね継手・機械式継手・溶接継手	
耐力壁の鉄筋	※重ね継手・	
その他	※重ね継手・	

継手の位置 ※図示・配筋標準図による (5.3.4)
先組み工法等で柱、梁の主筋の隣り合う継手を同一箇所に出せる場合 ※図示・
重ね継手の長さ ※図示・5.3.4(3)による (表5.3.2) (5.3.4(3))
鉄筋の定着の長さ ※表5.3.4による (表5.3.4) (5.3.4(5))

④鉄筋のかぶり厚さ (表5.3.6) (5.3.5)
※表5.3.6による・
※かぶり厚さは目地から算定する。
・塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所の最小かぶり厚さは下表による。(5.3.5)

施工箇所等	表5.3.6の値に加える数値(mm)
柱、梁、壁及び応等の外気に接する打増し面	※10・

・軽量コンクリートで土に接する部分の最小かぶり厚さ (5.3.5)
表5.3.6の値に加える数値(mm) ()
・機械式継手及び溶接継手の場合の鉄筋相互のあき ※図示 (5.3.5)

5各部の配筋 (5.3.7)
※図示・

6圧接完了後の試験 (5.4.10)
試験方法 ※超音波探傷試験・引張試験

6貫通口補強・図示

項目

特記事項

項目

特記事項

項目

特記事項

項目

特記事項

特記事項

国土交通大臣が指定した乾燥処理を施した木材 (6.2.2)
施工箇所：() 含水率：・20%以下 ※15%以下
広葉樹製材「製材の日本農林規格」 (6.2.2)

部位	樹種	等級	寸法	含水率	保存処理	材面の品質
		・特等 ・1等 ・2等	※図示	・13%以下 ・10%以下	・K2 ・K3 ・K4	

基準強度：平成12年告示第1452号第五号に基づくもの
・縦振動ヤング係数測定対象部材 ()
測定数・全数 ※抽出 (抽出方法：・JIS Z 2101による ※無作為に10%)
無等級材「日本農林規格以外の製材」 (6.2.2)

部位	樹種	寸法	含水率	保存処理	材面の品質
図示	図示	※図示	・20%以下 ※15%以下	・K2 ・K3 ・K4	
		※図示	・20%以下 ※15%以下	・K2 ・K3 ・K4	

含水率及び欠点等の確認：5.2.2.(1)。(d)。(2)による
基準強度：平成12年告示第1452号第五号に基づくもの
・縦振動ヤング係数測定対象部材 ()
測定数・全数 ※抽出 (抽出方法：・JIS Z 2101による ※無作為に10%)
枠組壁工法「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」 (6.2.2)

施工箇所	品名	樹種	樹種群	寸法型式	等級	含水率	保存処理
	・甲種枠組材 ・乙種枠組材 ・MSR枠組材					※19%以下	・K2 ・K3 ・K4
	・甲種枠組材 ・乙種枠組材 ・MSR枠組材					※19%以下	・K2 ・K3 ・K4
	・甲種枠組材 ・乙種枠組材 ・MSR枠組材					※19%以下	・K2 ・K3 ・K4

「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。
国土交通大臣の基準強度の数値等の指定を受けたMSR枠組材 (6.2.2)
施工箇所：() 含水率：・20%以下 ※15%以下
たて継ぎ材「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」 (6.2.2)

施工箇所	品名	樹種	樹種群	寸法型式	等級	備考
	・甲種たて継ぎ材 ・乙種たて継ぎ材 ・MSRたて継ぎ材					
	・甲種たて継ぎ材 ・乙種たて継ぎ材 ・MSRたて継ぎ材					
	・甲種たて継ぎ材 ・乙種たて継ぎ材 ・MSRたて継ぎ材					

「枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。
国土交通大臣の基準強度の数値等の指定を受けたたて継ぎ材 (6.2.2)
施工箇所：() 含水率：・20%以下 ※15%以下
木質接着成形軸材料、木質複合軸材料、木質断熱複合パネル、木質接着複合パネル (6.2.2)

施工箇所	形状	寸法	含水率	備考

直交集成板「直交集成板の日本農林規格」 (6.2.2)

施工箇所	品名	樹種	樹種群	種別	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法
					・A ・B ・C	※図示	
					・A ・B ・C	※図示	

「直交集成板の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。
構造用合板「合板の日本農林規格」 (6.2.3)

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	等級	板面の品質	曲げ性能 (強度等級)	接着の程度	備考
外壁	12		・1級 ・2級				○特類 ・1類 ・特類 ・1類	・行う ※行わない ・行う ※行わない

※屋外又は屋内の常時湿潤状態となる場所に使用する接着の程度は特類とする。
「合板の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。

項目

特記事項

項目

特記事項

項目

特記事項

項目

特記事項

特記事項

部位及び工法 ※図示 (4.1.1)
※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるものとする (4.1.3)
木材を用いて耐火構造とする場合の適用 (4.1.5)
・平成12年告示第1399号に基づくもの・国土交通大臣の認定を受けたもの
・処理不要樹種 ※4.2.1(7)による
適用部位 ※図示
○薬剤の加圧注入 ○日本農林規格の保存処理 性能区分 K2・K3・K4
・JIS K 1570又はJIS A 9002
・インサイジング加工 適用部位 ※図示
○薬剤の塗布 ○JIS K 1571またはこれと同等の性能を有するもの
適用部位 ※図示 ○地面から1m以下の部分
・JIS K 1571付圖書A (規定) による
薬剤の種類 ()
適用部位 ※図示・地面から1m以下の部分
処理方法 ※4.2.1.(9).(b)による
処理に使用した薬剤、使用量等の記録を監督職員に提出すること
・薬剤の接着剤への混入 適用部位 ※図示
・含板等の加圧注入 適用部位 ※図示

4枠組壁工法構造用製材 (4.2.3)
薬剤及び使用量 ※図示
○建物基礎下及び土間コンクリート下面(使用量:1 m2当たり薬剤原体換算 30 g 以上散布する。)
・床下換気・ねこ土台・換気孔 (4.2.4)
・小屋裏換気・4.2.4.(3).(c)による(換気孔の大きさ ※図示)
防火被覆材の材料及び厚さ ※図示 (4.3.2)
接合部等の防火被覆処理 (4.3.3)
柱若しくは梁を接合する継手又は仕口の接合金物の防火被覆処理 ※図示
・ボルト、ドリフトピン等の接合具に防火被覆処理を行う

軸組構法(軸組造系)工事

1集成材 (6.2.2)

部位	品名	曲げ性能 (強度等級)	材面の品質	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法	保存処理
		・1種 ・2種 ・3種	・A ・B ・C			※図示	
		・1種 ・2種 ・3種	・A ・B ・C			※図示	

「集成材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、部位ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。
化粧仕り構造用集成柱「集成材の日本農林規格」 (6.2.2)

部位	樹種 (芯材)	品名	化粧薄板の厚さ	見付け材面の品質	寸法
				・1等 ・2等	※図示
				・1等 ・2等	※図示

「集成材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、部位ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。

2構造用単板積層材 (6.2.2)

施工箇所	樹種	品名	曲げ性能 (曲げヤング係数区分)	寸法	接着性能 (使用環境)	水平せん断区分	保存処理
				※図示			
				※図示			
				※図示			

「単板積層材の日本農林規格」以外の材料を使用する場合は、日本農林規格の品質基準に準じて、施工箇所ごとに指定している要求性能を満たしているものとなっていることを証明する資料を監督職員に提出すること。
目視等級または機械等級区分構造用製材「製材の日本農林規格」 (6.2.2)

部位	樹種	強度等級		含水率	保存処理	材面の美観	備考
		目視	機械				
図示	図示			・20%以下 ・15%以下	・K2・K3 ・K4		
				・20%以下 ・15%以下	・K2・K3 ・K4		
				・20%以下 ・15%以下	・K2・K3 ・K4		

各部位の寸法は図示とする。
機械等級区分構造用製材の材面の品質 (節、丸身など)
※目視等級区分2級相当・目視等級区分1級相当

特記事項

①コンクリートの種類・強度・スランブ (6.2.1～6.2.2) (6.2.4) (表6.2.2)

設計基準強度 Fc(N/mm2)	スランブ (cm)	適用箇所
※24	・15 18	基礎
○21	・15 18	土間
・		

・軽量コンクリート
設計基準強度 Fc(N/mm2) スランブ (cm) 適用箇所
※21・15・18
・18・15・18
・
コンクリートの種類※1類・11類 (6.2.1) (表6.2.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1) (6.13.2)
・高炉セメントB種 (適用箇所：外部側溝)
・フライアッシュセメントB種 (適用箇所：
・
アルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (6.3.1)

②セメントの種類 (6.3.1) (6.13.2)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1) (6.13.2)
・高炉セメントB種 (適用箇所：外部側溝)
・フライアッシュセメントB種 (適用箇所：
・
アルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (6.3.1)

③骨材 (6.3.1)
コンクリートの種類※1類・11類 (6.2.1) (表6.2.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.1) (6.13.2)
・高炉セメントB種 (適用箇所：外部側溝)
・フライアッシュセメントB種 (適用箇所：
・
アルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (6.3.1)

④混和材料 (6.3.1)
○混和剤 ※A E剤又はA E減水剤標準形 (JIS A 6204)
・高性能A E減水剤標準形 (JIS A 6204)
・
・混和材・フライアッシュ(・1種・11種・Ⅳ種) (JIS A 6201)
・コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206)
・コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207)
・コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)

⑤構造体強度補正値 (S) (6.3.2)
※表6.3.2による・

⑥打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 (6.6.4) (9.7.3)
打継ぎ目地の寸法 ※9.7.3(1)(7)による・
ひび割れ誘発目地の位置 ※図示 (6.8.1)
ひび割れ誘発目地の形状及び寸法 ※9.7.3(1)(7)による・

⑦打増し厚さ (6.8.1)
外部に面するコンクリートの打増し厚さ(mm)
外壁 ※図示・20・25・
軒天 ※図示・10・15・20
その他 ※図示・20 (基礎立ち上り外面)・15

⑧構造体コンクリートの仕上り (6.2.5) (6.8.2) (表6.2.4)

種別	厚さ(mm)	施工箇所
○A種	※12・	見え掛部(基礎、外構)
・B種	※12・	
・C種	※12・	

・せき板の材料として合板を用いない場合
材料 ()
厚さ ()
適用部位 ※下表・図示 (6.2.5) (表6.2.5) (15.4.2)

⑨コンクリートの仕上りの平たんさ (6.2.5) (表6.2.5) (15.4.2)

種別	コンクリートの内外装仕上げ	平たんさ	適用部位による仕上げの目安	床
a種	コンクリートが見え掛りとなる場合又は仕上り厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平たんさ及び良好な表面状態が必要な場合	3mにつき7mm以下	化粧打直しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗床 木系床材張り 床コンクリート直均し仕上げ フリッパタ7D (置数式)
b種	仕上り厚さが7mm未満の場合その他良好な平たんさが必要な場合	3mにつき10mm以下	仕上塗材塗り 外装タイルタイル張り	タイル張り 防水下地 タイル張り
c種	仕上り厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合	1mにつき10mm以下	タイルタイルによる陶磁器質タイル張り タイル塗り 網線下地	タイル張り タイル塗り 二重床

10スリーブの材種、規格等 (6.8.2) (表6.8.1)
※下記の通り・図示
(i) 外壁の地中部分等水密を要する部分に用いるスリーブは、つば付き鋼管とする。
(ii) 地中部分で水密を要しない部分に用いるスリーブは、硬質ポリ塩化ビニル管とする。
(iii) (i)及び(ii)以外の円形スリーブは、溶融亜鉛めっき鋼板とし、原則として、筒形の両端を外側に折り曲げてつばを設ける。また、必要に応じて、円筒部を筒方から差し込む伸縮形とする。
(iv) 硬質ポリ塩化ビニル管は、防火区画を貫通する場合には使用しない。
なお、柱及び梁以外の箇所、開口補強が必要でない、かつ、スリーブ径が200mm以下の部分は、紙チューブとすることができる。

11床型用鋼製デッキプレート (6.8.3)

評価名簿による	使用箇所	厚さ	備考

12軽量コンクリート (6.10.1) (6.10.2) (表6.10.1)

種類	所要気乾単位容積質量 (t/m3)	スランブ	適用箇所
・1種・2種	※表6.10.1による・	※21・	※図示

10無筋コンクリート (6.14.1)
コンクリートの種類 ※普通コンクリート・軽量コンクリート (6.14.1)
設計基準強度 Fc(N/mm2) スランブ (cm) 適用箇所
※18・スランブ・18 ※6.14.1(4)による・図示

凡例

東洋町

工事名

野根地区公衆トイレ等整備工事

意匠図

特記仕様書(2)

2025. 04. 30

縮尺 S=1:

図番

A-02

[illegible]

特 記 事 項		特 記 事 項	特 記 事 項	特 記 事 項	特 記 事 項	特 記 事 項	特 記 事 項																	
4接合員等	釘 ※10.2.4.(1)。(ア)による釘 ・10.2.4.(1)。(イ)による釘（材質並びに寸法及び形状：※図示） 釘打ち工法 下張材に対する釘の打込み本数 ※図示 斜めに釘を打ち込む場所 ※図示 造作材化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し 木ねじ ※10.2.4.(2)。(ア)による木ねじ ・10.2.4.(2)。(イ)による木ねじ（材質並びに寸法及び形状：※図示）	12外壁造作	・付け土台 樹種及び寸法 ※図示 ・雨押え 樹種及び寸法 ※図示 ・見切り縁・笠木・外部回り縁 樹種及び寸法 ※図示	石工事	石材の割付け ※図示 ※10.1.3(1)(7)及び(4)による 粗面仕上げの場合のみ込み部の仕上げ ※図示 屋内の床のワックスがけ ※図示 ※行わない	6心木なし瓦棒葺の工法	一般部の葺き方 瓦棒及び釘の留付け間隔 ※図示 溝板及びキャップの留付け方法 ※14.3.5(3)(7)(c)による 銅板による屋根一般部分 瓦棒、吊子及び釘の留付け間隔 ※図示 各部工法 横置い 銅板以外の板による心木あり瓦棒葺きの棟部分の工法 釘打ちの間隔 ※図示 銅板による心木あり瓦棒葺きの棟部分の工法 留付け釘の間隔 ※図示 軒先 留付け釘の間隔 ※図示 雪止め ※設けない ・設ける ※特殊工法によるものは各製造所の仕様による																	
	5耐候性、防虫処理	13ひさし	・隠しひさし 製材の樹種及び寸法 ※図示 ・露除けひさし 製材の樹種及び寸法 ※図示 ・腕木ひさし（しころひさし） 製材の樹種及び寸法 ※図示	2天然石	材料 (10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)																			
6屋根回り	6軒先・けらば回り	14内部壁	○内壁木下地 網縁の樹種、寸法及び間隔 ※図示 ・内壁板張り ○横羽目板・縦羽目板張り 樹種及び寸法 ※図示 ・目板付縦羽目板張り 目板及び羽目板の樹種及び寸法 ※図示 ・敷目板張り 樹種及び寸法 ※図示	3テラゾ	種石の種類 ※大理石 種石の大きさ ※1.5～12mm 仕上げの種類 ・研磨き ・水磨き ・本磨き 形状、寸法 ※図示	7横葺きの工法	建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※製造所の仕様による ※図示 一般部の葺き方 釘打ちの間隔 ※図示 各部工法 横置い 留付け釘の間隔 ※図示 軒先 留付け釘の間隔 ※図示 屋根の流れ方向に平行な壁との取合い部 ・雨押えを付ける場合 留付け釘の間隔 ※図示 ・雨押えを用いない場合吊子の間隔 ※図示 雪止め ※設けない ・設ける ※特殊工法によるものは各製造所の仕様による																	
7外部開口部回り	7窓及び出入口の取付け下地材及び受材の樹種及び寸法 ※図示 ・外部出入口木製建具回り木製枠 枠材の樹種及び寸法 ※図示 下枠の材料 ステンレス製（厚さ2mm以上）の寸法及び形状 ※図示 厚さ40mm以上の花こう岩による石材で種類、寸法及び※図示 ○外部網縁 樹種及び寸法 ※図示 ・内部出入口木製建具回り木製枠 樹種及び寸法 ※図示 ・内部窓回り 樹種及び寸法 ※図示	15内部造作	・幅木 樹種及び寸法 ※図示 ・回り縁 樹種及び寸法 ※図示 ○天井下地 吊木受け及び吊木 樹種及び寸法 ※図示 野縁、野縁受け及び板野縁 樹種及び寸法 ※図示 ・天井板張り ・敷目天井板張り 樹種及び寸法 ※図示 ・打上げ天井板張り 樹種及び寸法 ※図示	1タイル工事	位置 ※表11.1.1による ・図示 (11.1.3)(表11.1.1)																			
8内部開口部回り	8窓及び出入口の取付け下地材及び受材の樹種及び寸法 ※図示 ・外部出入口木製建具回り木製枠 枠材の樹種及び寸法 ※図示 下枠の材料 ステンレス製（厚さ2mm以上）の寸法及び形状 ※図示 厚さ40mm以上の花こう岩による石材で種類、寸法及び※図示 ○外部網縁 樹種及び寸法 ※図示 ・内部出入口木製建具回り木製枠 樹種及び寸法 ※図示 ・内部窓回り 樹種及び寸法 ※図示	13和室の造作	・柱 樹種及び寸法 ※図示 ・背割不要の処理を行った製材 ※図示 ・開口部回り 敷居、かもし等の樹種及び寸法 ※図示 ・壁回り 垂込め貫の樹種及び寸法 ※図示 ・床回り 畳下地板の樹種並びに寸法及び厚さ ※図示 畳寄せの樹種並びに寸法及び厚さ ※図示 ・天井回り ・年輪天井板張りの樹種及び寸法 ※図示 ・格縁天井板張りの樹種及び寸法 ※図示 ・特殊吊金具 ※図示 ・床の間回り 床の間に使用する製材等の樹種及び寸法 ※図示 ・掛軸用金物 ※図示 ・床脇欄に使用する製材等の樹種及び寸法 ※図示	2セメントモルタルによるタイル張り	(11.2.2)																			
9内部床回り	9内部床下地 下地用合板 ・10.2.3(7)による下地用合板 厚さ ※12mm ・10.2.3(8)によるパーティクルボード 強度及び接着剤による区分※13Pタイプ又は13Mタイプ・厚さ ※15mm ・構造用合板の上の仕上げ用下地用合板（10.2.3(7)による合板）厚さ ※図示 ・内部床板張り 床材に使用する製材の樹種、寸法及び厚さ ※図示 ・上がりがまち 樹種、寸法及び厚さ ※図示	防水工事	ルーフドレンの種類 ※FRP系塗膜防水用ルーフドレン ・鉄鋳製 下地の構造 ・根太掛 樹種及び寸法 ※図示 ・防腐及び防蟻処理の種類 ・4.2.1.(4)。(a)によるK2 ・根太 樹種及び寸法 ※図示 ・スギ、幅45mm×高さ55mm程度、間隔300程度 ・防腐、防蟻及び防虫処理の種類 ・4.2.1.(4)。(a)によるK2 ・下地合板 ・構造用合板「合板の日本農林規格」 厚さ ※12mm 表板の樹種等 ※図示 防虫処理 ※行方 ・行わない ・普通合板「合板の日本農林規格」 厚さ ※12mm 表板の樹種等 ※図示 防虫処理 ※行方 ・行わない 釘または木ねじの留付け間隔 ※150mm程度 ・コンクリート ・防火板の種類 ※ケイ酸カルシウム板厚さ10mm 防水層の下地の勾配 ※1/100以上 水切り金物及び外装材の取合いの詳細 ※図示 水張り試験 ※行わない ・行方 受注者、施工者、材料製造所連名による 10 年保証（完成届提出日より15日後から）	3有機系接着剤による陶磁器質タイル張り	(11.3.2)																			
10外壁回り	10外壁下地材料 ○網縁 樹種、寸法及び間隔 ※図示 防腐、防蟻処理 ・適用する（4.2.1による） ・ラス下地板 樹種 ※図示 寸法 ※厚さ12mm、幅75mm 防腐、防蟻処理 ・適用する（4.2.1による） 留め付け釘の種類及び寸法 ※図示 ○下地用合板 防腐、防蟻処理 ・適用する（4.2.1による） 留め付け釘の種類、寸法及び留付け間隔 ※図示 ○通気網縁 樹種 ※杉 ○桧 寸法 ※厚さ18mm以上、幅45mm以上 ※仕上げ材縦目部、壁の出隅部及び入隅部：幅90mm以上 防腐、防蟻処理 ○適用する（4.2.1による） ・通気金物の材質、形状及び寸法 ※図示 ○外壁通気構法下地 ※縦通気網縁 ・外壁荷重が大きくなる場合の接合員と留付け間隔 ※図示 ・積雪地域の補強方法及び補強高さ：高さ：※図示 方法：※10.8.2(9)(h)③の特記がない場合による ○横通気網縁 網縁の間隔 ※図示 ・積雪地域の補強方法及び補強高さ：高さ：※図示 方法：※10.8.2(9)(i)③の特記がない場合による ・通気網縁以外の上壁仕上げに適合する下地 ※図示	2保証書	シーリング材の種類 (11.3.2)《表11.3.1》 <table><tr><th>記号</th><th>主成分による区分</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・SR-1</td><td rowspan="3">シリコーン系</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・SR-2</td></tr><tr><td>・MS-1</td></tr><tr><td>○MS-2</td><td>変成シリコーン系</td><td>外壁取合い部</td></tr><tr><td>・PS-1</td><td rowspan="2">ポリサルファイド系</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・PS-2</td></tr><tr><td>・PU-1</td><td rowspan="2">ポリウレタン系</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・PU-2</td></tr></table> シーリング材の目地寸法※図示及び 11.3.3による 接着性試験 ○行わない ・行方 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験（部位）	記号	主成分による区分	施工箇所	・SR-1	シリコーン系		・SR-2	・MS-1	○MS-2	変成シリコーン系	外壁取合い部	・PS-1	ポリサルファイド系		・PS-2	・PU-1	ポリウレタン系		・PU-2	4金属板葺	14.3.1に定める以外金属板葺きの仕様 ※製造所の仕様による (14.3.1)
記号	主成分による区分	施工箇所																						
・SR-1	シリコーン系																							
・SR-2																								
・MS-1																								
○MS-2	変成シリコーン系	外壁取合い部																						
・PS-1	ポリサルファイド系																							
・PS-2																								
・PU-1	ポリウレタン系																							
・PU-2																								
11外壁板張り	11押縁下見板張り（ささら下見板張り） 押縁及び下見板の樹種及び寸法 ※図示 ・南京下見板張り（よりい下見板張り） 下見板の樹種及び寸法 ※図示 ○横羽目板、縦羽目板張り 羽目板の樹種及び寸法 ※図示 ・目板付縦羽目板張り 目板及び羽目板の樹種及び寸法 ※図示 ・敷目板張り 敷目板の樹種及び寸法 ※図示	5ケイ酸質系塗布防水	防水層の種類 (11.5.1) (9.6.1) (9.6.3) (表9.6.1～表9.6.2) <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>種別</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>※C-U-1</td><td></td><td>・C-U-P</td><td></td></tr></table> 下地処理 ※公共建築工事標準仕様書 9.6.4(2)(7)～(9)による	種別	施工箇所	種別	施工箇所	※C-U-1		・C-U-P		5心木あり瓦棒葺の工法	建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※製造所の仕様による ※図示											
種別	施工箇所	種別	施工箇所																					
※C-U-1		・C-U-P																						
特		凡		東	洋	町	工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事																
記		例					意 匠 図	特記仕様書(4)																
							2025. 04. 30	縮 尺 S=1:																
								図 番 A-04																

項目		特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項		
13	とい	材料			③	床コンクリート直均し仕上げ セルフレベリング材塗り	(15.4.1)	塗物、敷物、張物等の下地への適用	(15.5.2) (15.5.3) (表15.5.1)	工工程の種類 ※A種 ・B種 土物仕上げ工法の種類 ・土物仕上げ工法 ・水ごね土物1工法 ・水ごね土物2工法 ・のりさし土物工法 ・のりごね土物工法 ・砂壁仕上げ工法 ・切返し仕上げ工法 大津仕上げ工法の種類 ・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき仕上げ工法	(15.11.5) (表15.11.9) (15.11.7)	ステンレス製建具	鋼板類の種類 ※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 (表16.5.3) ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ※合金等、縦小口包み板等の材質 ※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金押出型材 鋼板類の厚さ ※図示 (図示がない場合は表16.5.1による) ・ (表16.5.4) 製作所 評価名簿による
		(14.8.2)《表14.8.1》											簡易気密型ドアセット ・適用する (表16.5.2) ・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (表16.2.2) ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3
		ステンレスの表面仕上げ (表14.2.1)											ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (表16.6.3 (1)) 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (・a角 ・b角 ・c角) 製作所 評価名簿による
		アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理											ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (表16.6.3 (1)) 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (・a角 ・b角 ・c角) 製作所 評価名簿による
		アルミニウム又は複合皮膜の種類 施工箇所 (成形板、笠木、手すり、建具以外)											ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (表16.6.3 (1)) 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (・a角 ・b角 ・c角) 製作所 評価名簿による
金属工事													
1	あと施工アンカー	施工後の確認試験 (引張試験) (表14.1.3) ・行う 確認強度 () ・行わない											
2	表面処理	ステンレスの表面仕上げ (表14.2.1)											
		表面仕上げの種類	材質	施工箇所 (手すり、タラップ、建具以外)									
		・No2B	※SUS304										
		・#400	※SUS304										
		・鏡面仕上げ	※SUS304										
		・HL程度	※SUS304										
		アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理											
		表面処理の種類	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所 (成形板、笠木、手すり、建具以外)									
		・AB－1種 ・AB－2種	※AA15										
		・AC－1種 ・AC－2種	※AA6										
		・BA－1種 ・BA－2種	※A2 (過酷な環境の屋外)										
		・BB－1種 ・BB－2種	※B (一般的な環境の屋外)										
		・BC－1種 ・BC－2種	※C (屋内)										
		・C種	—										
		陽極酸化皮膜の着色方法 (表14.2.2) ※二次電解着色 (・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー											
		鉄鋼の亜鉛めっき											
		表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)									
		溶融亜鉛めっき	・A種 ・B種 ・C種										
		電気亜鉛めっき	・D種 ・E種 ・F種										
3	軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 屋内 (※19形 ・25形) 屋外 (・19形 ※25形) 屋外の軒天井、ピロティ天井等 野縁等の間隔											
		野縁	野縁受	吊りボルト及びインサート	周辺部の端からの距離								
		・耐風圧性を考慮した補強 適用箇所： ※図示 補強方法： ※図示 (表14.4.4)											
		・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強 適用箇所： ※図示 補強方法： ※図示 (表14.4.4)											
		・天井下地材における耐震性を考慮した補強 適用箇所： ※すべて 図示 (表14.4.4)											
		補強方法： ・国土交通省平成25年告示第777号の基準に適合するもの ※14.4.4(8)による。ただし、ふところ1.5m以下の場合も適用し、 固定方法は専用金具又はボルトとし、溶接は不可とする。 ・天井のふところが3mを超える場合の補強 適用箇所： ※図示 補強方法： ※図示 (表14.4.4)											
4	軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナー等の種類 ※表14.5.1による ・図示 スタッドの高さが5mを超える場合図示											
5	金属成形板張り (天井)	材料											
		材 種	製法	形 状	寸法 (mm)	表面処理 (表14.2.1による)							
		・アルミニウム	・押出し	スバンドレ形	板厚	種別	色合い等						
		・アルミロール	・ロール		板幅		・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー						
		・プレス	バネ形部										
		取付け用下地 ※14章4節による ・図示 (表14.6.3)											
		伸縮調整継手 ・設ける (施工箇所 ※図示 (表14.6.3))											
6	アルミニウム製笠木	部材の種類 ・250形 ・300形 ・350形 隅角部、端部の取物 ※使用する (笠木本体の製造所の仕様による) ・使用しない 表面処理 ・表14.2.1 (・BA-1 ・BA-2) 種 色合い等 ※標準色 笠木の固定金具の固定工法 建築基準法に基づく風圧力 (※1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対して構造耐力上安全である工法 (表14.8.2)											
7	手すり	材料の種類		施工箇所	表面処理	備考							
		・ステンレス (SUS304)	外構	・#400 ・HL									
		・銅		・塗装									
		・アルミニウム (BL認定部品)		・種別 ()	種	色合い等 ()							
8	タラップ	※ステンレス (SUS304) (表面処理 ※研磨なし ・#400 (表14.8.3)) 鋼製 (表面処理 ※溶融亜鉛めっき 種別C種 ())											
左官工事													
1	モルタル塗り	モルタル ※現場調合材料 ・既調合材料 () (表15.3.2) 既製目地材 ・適用する (形状 ※図示 (表15.3.2)) 床の目地 ・適用する (目地割り ※2㎡程度 最大目地間隔3㎡程度 (表15.3.5)) (種類 ※押し目地 ())											
		外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ※行う ・行わない (表15.3.5)											
2	ラス系下地 (木下地の内外壁)	ラス系下地の種類 ・通気工法二層下地 (材料： ※2種波形ラス700 (表15.2.4)) 換気口部の措置 ※公共建築木造工事標準仕様書11.4.3(2) (7)による ・通気工法単層下地 (材料： ※2種防水紙付きラス800 ()) ・直張り工法ラスモルタル下地 ・直張り工法ラスシートモルタル下地 建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造の指定 ()											
特記													
例													

項目		特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項															
10	ロックウール収付け	工工程の種類 ※A種 ・B種 (表15.11.5) (表15.11.9) (15.11.7)		10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)	(15.11.8)	大津仕上げ工法の種類 ・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき仕上げ工法	(15.11.8)	10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)												
		(15.5.2) (15.5.3) (表15.5.1)													10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)								
		(15.6.2) (表15.6.1)																	10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)				
		(15.6.2) (表15.6.1)																					10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)
		(15.6.2) (表15.6.1)																								
建築工事																										
1	防火戸	防火戸の指定等 ※図示 (表16.1.3)																								
2	建具見本の製作	※製作しない ・製作する (表16.1.4)																								
3	防犯建物部品	適用箇所： ※図示 (表16.1.6)																								
4	アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等級等 (コウリト系及び鉄骨下地) (表16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2)																								
		種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	備考																			
		・A種	S-4	A-3	W-4	※図示																				
		・B種	S-5																							
		・C種	S-6	A-4	W-5																					
		外部に面する建具の性能等級 (木下地)																								
		種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	備考																			
		・D種	S-2	A-3	W-3	※図示																				
		・E種	S-3																							
		・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (表16.2.2)																								
		適用箇所 ※図示																								
		・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示																								
		・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示																								
		ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (表16.2.3) (表16.3.1) (16.2.3(5))																								
		種類	材質	線径	網目	適用箇所																				
		・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316)	※0.25mm以上	※16～18メッシュ	※図示																				
		・防鳥網	※ステンレス (SUS304) 線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																				
		外部に面する建具 表面処理の種類 ※BB-1種 ・BB-2種 (表16.2.4) (表14.2.1) 色合い等 ※標準色 () ・特注色 ()																								
		屋内に使用する建具表面処理の種類 ※BB-1種 ・BB-2種 (表16.2.4) (表14.2.1) 色合い等 ※標準色 () ・特注色 ()																								
		結露水の処理方法 ※製作所の仕様による ・図示 (表16.2.4) 水切り板、ぜん板 ※製作所の仕様による ・図示 (表16.2.5) 製作所 評価名簿による																								
		外部に面する樹脂製建具の性能等級等 (コウリト系下地及び鉄骨下地) (表16.3.1) (表16.3.1)																								
		種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	備考																			
		・A種	S-4	A-4	W-4	※図示																				
		・B種	S-5																							
		・C種	S-6	A-4	W-5																					
		外部に面する樹脂製建具の性能等級 (木下地) (表16.3.2) (表16.3.2)																								
		種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	備考																			
		・D種	S-2	A-4	W-3	※図示																				
		・E種	S-3																							
		・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 (表16.3.2) (表16.3.2)																								
		適用箇所 ※図示																								
		・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-4 ・H-5 ・H-6 (表16.3.2) (表16.3.3)																								
		適用箇所 ※図示																								
		網戸等 (表16.2.3(5)) (表16.3.3)																								
		種類	材質	線径	網目	適用箇所																				
		・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316)	※0.25mm以上	※16～18メッシュ	※図示																				
		・防鳥網	※ステンレス (SUS304) 線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																				
		ガラス ・複層ガラス ・単板ガラス ※図示 表面色 ※標準色 ・特注色 () 水切り板、ぜん板 ※製作所の仕様による ・図示 (表16.4.1) 製作所 評価名簿による																								
		簡易気密型ドアセット ・適用する (表16.4.2) (表16.4.1) 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 (表16.4.2) (表16.2.1) ・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (表16.2.2) 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示																								
		鋼板類の厚さ ※図示 (図示がない場合は表16.4.2による) (表16.4.4) ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (表16.6.3 (1)) 製作所 評価名簿による																								
		簡易気密型ドアセット ・適用する (表16.5.2) ・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 (表16.2.2) 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追随性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示																								
7		鋼製軽量建具																								

項目		特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項													
9	こまじょう壁塗り	のり		9	こまじょう壁塗り	(15.11.2)	のり	(15.11.2)	のり	(15.11.2)	のり	(15.11.2)												
		(15.10.1) (15.10.2)											のり	(15.11.2)	のり	(15.11.2)								
		(15.10.1) (15.10.2)															のり	(15.11.2)	のり	(15.11.2)				
		(15.10.1) (15.10.2)																			のり	(15.11.2)	のり	(15.11.2)
		(15.10.1) (15.10.2)																						
建築工事																								
1	モルタル塗り	モルタル ※現場調合材料 ・既調合材料 () (表15.3.2) 既製目地材 ・適用する (形状 ※図示 (表15.3.2)) 床の目地 ・適用する (目地割り ※2㎡程度 最大目地間隔3㎡程度 (表15.3.5)) (種類 ※押し目地 ())																						
		外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ※行う ・行わない (表15.3.5)																						
2	ラス系下地 (木下地の内外壁)	ラス系下地の種類 ・通気工法二層下地 (材料： ※2種波形ラス700 (表15.2.4)) 換気口部の措置 ※公共建築木造工事標準仕様書11.4.3(2) (7)による ・通気工法単層下地 (材料： ※2種防水紙付きラス800 ()) ・直張り工法ラスモルタル下地 ・直張り工法ラスシートモルタル下地 建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造の指定 ()																						
特記																								
例																								

項目		特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項		項目	特記事項															
10	ロックウール収付け	工工程の種類 ※A種 ・B種 (表15.11.5) (表15.11.9) (15.11.7)		10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)	(15.11.8)	大津仕上げ工法の種類 ・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき仕上げ工法	(15.11.8)	10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)												
		(15.5.2) (15.5.3) (表15.5.1)													10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)								
		(15.6.2) (表15.6.1)																	10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)				
		(15.6.2) (表15.6.1)																					10	ロックウール収付け	(15.12.2)	ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの 仕上り収付け厚さ (mm) ・図示 (表15.12.3)
		(15.6.2) (表15.6.1)																								
建築工事																										
1	防火戸	防火戸の指定等 ※図示 (表16.1.3)																								
2	建具見本の製作	※製作しない ・製作する (表16.1.4)																								
3	防犯建物部品	適用箇所： ※図示 (表16.1.6)																								
4	アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等級等 (コウリト系及び鉄骨下地) (表16.2.2) (表14.2.1) (表16.2.1) (表16.2.2)																								
		種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	備考																			
		・A種	S-4	A-3	W-4	※図示																				
		・B種	S-5																							
		・C種	S-6	A-4	W-5																					
		外部に面する建具の性能等級 (木下地)																								

16

オーバーヘッドドア

セクション材料による区分

※ スチールタイプ

・アルミニウムタイプ

・ファイバークラスタイプ

開閉方式による区分

※ バランス式

・チェーン式

・電動式

収納形式による区分

※ スタンダード形

・ローヘッド形

・ハイリフト形

・パーチェカル形

ガイドレールの材料

※ 溶融亜鉛めっき鋼板

・ステンレス鋼板

耐風圧性能区分

・50

・75

・100

・125

電動式に設ける障害物感知装置の設置箇所

※ 図示

製造所 評価名簿による

17

ガラス

ガラスの種類

・熱線吸収ガラス(グリーン)

※ 図示(製作所は評価名簿による)

※ その他のガラス

※ 図示

ガラス溝の大きさ ※ 表16.14.1による

(16.14.3)

熱線反射ガラスの映像調整 ・ 行う

(16.14.4)

18

ガラス留め材

建具の種類

材 質

板ガラスをはめ込む溝の大きさ(mm)

アルミニウム製

※ シーリング材
・ ガスケット
・ グレージングチャンネル形

※ 建具の製造所の仕様による

樹脂製

※ シーリング材
・ ガスケット
・ グレージングチャンネル形

※ 建具の製造所の仕様による

鋼製及び鋼製軽量

※ シーリング材 ・ ガスケット

※ 建具の製造所の仕様による

ステンレス製

※ シーリング材 ・ ガスケット

※ 建具の製造所の仕様による

木製

※ シーリング材 押縁留め

※ 建具の製造所の仕様による

19

ガラスブロック積み

シーリング材 ※ S R-1

(表9.7.1)

ガラスブロック材料

(16.14.5)

表面形状

呼び寸法

厚さ

色調

防火性能

※ なし

・ あり

壁面金属枠及び補強材 ・ 図示 ・ ステンレス(SUS304) ・ アルミニウム

力骨

材 質

寸 法

形 状

※ ステンレス鋼(SUS304)

※ 径5.5mm

※ はしご形状複筋及び単筋

・

・

・

化粧目地モルタルの色 ()

金属製化粧カバー

材質

※ ステンレス製

・ アルミニウム製

寸法

※ 図示

形状

※ 図示

20

建築窓ガラス用フィルム

名 称

種 類、記 号

※ ガラス飛散防止フィルム

※ G 1-1、G D-1

・ G 1-2、G D-2

品質 JIS A 5759による

21

塗装工事

①材料

ホルムアルデヒド放散量※ F☆☆☆☆とする。

(18.1.3)

防火材料

・ 屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする

(18.1.3)

・ 次の箇所を除き、防火材料とする(箇所)

()

②素地ごしらえ

(18.2.2～18.2.7) (表18.2.1～表18.2.7)

下地面等

種別

木部

不透明塗料塗り

※ A種

・ B種

透明塗料塗り

・ A種 ※ B種

鉄鋼面

・ A種

・ B種

※ C種

亜鉛めっき鋼面

・ A種

・ B種

モルタル面及びプラスター面

・ A種

※ B種

コンクリート・ALCパネル面(OPを除く)

・ A種

※ B種

コンクリート(DP)・押出成形セメント板面

・ A種

・ B種

せっこうボード面(継目処理工法)

※ A種

・ B種

せっこうボード面(継目処理以外)・その他ボード面

・ A種

※ B種

22

錆止め塗料塗り

(18.3.2～18.3.3) (表18.3.1～表18.3.4)

塗料

鉄鋼面

屋外

※ A種

・ B種

屋内

※ A種

・ B種

EP-G

※ A種

※ B種

亜鉛めっき鋼面

※ A種

・ B種

・ C種

EP-G

※ A種

・ B種

※ C種

工程

鉄鋼面

見え掛り部分

※ A種

・ B種

見え隠れ部分

※ A種

※ B種

亜鉛めっき鋼面

鋼製建具等

※ A種

・ B種

その他

・ A種

※ B種

23

見本施工

※ 行う

(18.1.5)

24

塗装の略号及び塗り種別等

(18.4.1～18.14.2) (表18.4.1～表18.14.1)

略 号

塗装

種別

塗料の種別

・ SOP

合成樹脂塗合

ベイト塗り

木部

屋外

※ A種

・ B種

※ 1種

・ 2種

屋内

・ A種

※ B種

※ 1種

・ 2種

鉄鋼面

※ A種

※ B種

※ 1種

・ 2種

亜鉛めっき鋼面

※ 1種

・ 2種

・ CL

クリヤラッカー塗り

・ A種

※ B種

・ NAD

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

・ A種

※ B種

・ DP

耐候性塗料塗り

鉄鋼面

上塗り塗料等級・1級

・ 2級

・ 3級

コンクリート面及び

押出成形セメント板面

・ A種

・ B種

・ C種

コンクリート面

・ A種

※ B種

モルタル・プラスター面

・ A種

※ B種

ボード面

・ A種

※ B種

・ EP-G

つや有合成樹脂

エマルション

ベイト塗り

木部

・ A種

※ B種

屋内の鉄鋼面

・ A種

※ B種

屋内の亜鉛めっき鋼面

・ A種

※ B種

○EP

合成樹脂エマルションベイト塗り

・ A種

※ B種

○EP-T

合成樹脂エマルション模様塗料塗り

・ A種

※ B種

・ UC

ウレタン樹脂ワニス塗り

・ A種

※ B種

・ OS

オイルステイン塗り

・ A種

※ B種

○WP

木材保護塗料塗り

・ A種

※ B種

○WP

自然保護塗料塗り(屋内用木部浸透型保護塗料)

・ A種

※ B種

・

フッ素樹脂クリアー塗料

公表価格3,500円/㎡程度

・

4つ化・水性・3つツヤ・高耐候性・低汚染・防藻・防カビ・F☆☆☆☆

・

塗喰塗

ロー塗仕上げ(2回塗) 専用下地1張り 株式会社7 3rd 7

特 記		凡	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						意 匠 図	特記仕様書(6)		
		例			製 図	検 印	2025. 04. 30	縮 尺 S=1:	図 番 A-06

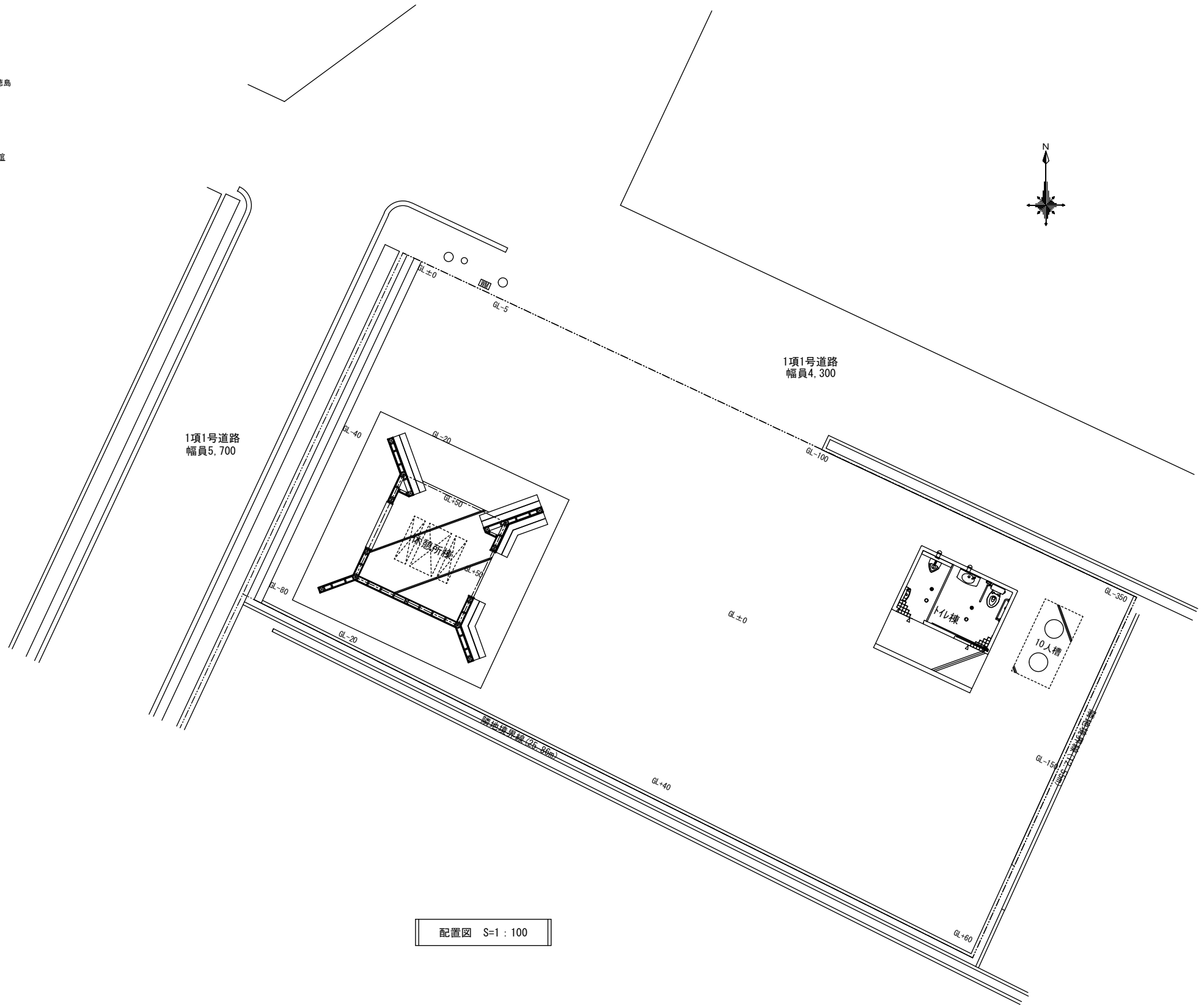
項 目		特 記 事 項		項 目	特 記 事 項		項 目	特 記 事 項		項 目	特 記 事 項																																																																																							
4 A L Cパネル (薄型パネル)		A L Cパネル (JIS A 5416) の種類、形状及び寸法 ※ 図示 (20. 4. 2) 通気胴縁の仕様: ※ 杉 ・ 通気胴縁の寸法: ※ 図示 防蟻処理: ※ 行う ・ 行わない パネルの構法: ・ 通気構法 ・ 直張り構法 (20. 4. 3) パネルの取付: ・ 横張り工法 ・ 縦張り工法 (20. 4. 3) パネル幅最小限度 ※ 150mm ・ 150mm未満 (20. 4. 3)		3 アスファルト舗装 アスファルト舗装の構成及び厚さ ※ 図示 ・ (22. 4. 2) 材料 アスファルト ※ 再生アスファルト (種類 ※ 60～80 ・ 80～100) (22. 4. 3) ・ ストレートアスファルト 骨材 ・ 道路用砕石 ※ アスファルトコンクリート再生骨材 (22. 4. 3) 加熱アスファルト混合物等の種類 (22. 4. 4) (表22. 4. 4) <table><tr><th>部 位</th><th>混 合 物 の 種 類</th></tr><tr><td>表 層</td><td>・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)</td></tr></table> シーリングコート ・ 行う ※ 行わない (22. 4. 5) アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※ 行わない (22. 4. 6) 舗装の平坦性 ※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度 (22. 4. 2)		部 位	混 合 物 の 種 類	表 層	・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)	4 コンクリート舗装 コンクリート舗装の厚さ (22. 5. 2) <table><tr><th>舗 装 の 種 類</th><th>部 位</th><th>舗 装 の 厚 さ (mm)</th></tr><tr><td>・ コンクリート舗装</td><td>・ 車路及び駐車場</td><td>※ 150 ・ 図示 ・</td></tr><tr><td></td><td>・ 歩行者用通路</td><td>※ 70 ・ 図示 ・</td></tr></table> コンクリート舗装に使用するコンクリート (22. 5. 3) (表22. 5. 1) <table><tr><th>部 位</th><th>設計基準強度 (N/mm2)</th><th>所定のスランプ (cm)</th><th>粗骨材の最大寸法 (mm)</th></tr><tr><td>・ 車路及び駐車場</td><td>※ 24 ・</td><td>※ 8 ・</td><td>砂利の場合 ・ 25 ・ 40 砕石の場合 ・ 20 ・ 25</td></tr><tr><td>・ 歩行者用通路</td><td>※ 18 ・ 21</td><td>※ 8 ・ 18</td><td>砂利の場合 ※ 25 ・ 砕石の場合 ※ 20 ・</td></tr></table> 早強セメント ・ 使用する ※ 使用しない (22. 5. 3) 注目地材料の種類 ※ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ (22. 5. 3) (表22. 5. 2) 目地の種類 ※ 表22. 5. 3による ・ 図示 (22. 5. 4) 目地の構造 ※ 図22. 5. 1による ・ 図示 (22. 5. 4)		舗 装 の 種 類	部 位	舗 装 の 厚 さ (mm)	・ コンクリート舗装	・ 車路及び駐車場	※ 150 ・ 図示 ・		・ 歩行者用通路	※ 70 ・ 図示 ・	部 位	設計基準強度 (N/mm2)	所定のスランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	・ 車路及び駐車場	※ 24 ・	※ 8 ・	砂利の場合 ・ 25 ・ 40 砕石の場合 ・ 20 ・ 25	・ 歩行者用通路	※ 18 ・ 21	※ 8 ・ 18	砂利の場合 ※ 25 ・ 砕石の場合 ※ 20 ・	5 カラー舗装 (22. 6. 2) (表22. 6. 1) <table><tr><th>舗 装 の 種 類</th><th>部 位</th><th>着色部の厚さ (mm)</th></tr><tr><td>加熱系 ※ アスファルト混合物 ・ 石油樹脂系混合物 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>常温系 ・ ニート工法 ・ 塗布工法</td><td>車路及び歩行者用通路</td><td>・ 3～5 ・ ・ 1程度以下 ・</td></tr></table> 加熱系混合物に添加する材料 ・ 着色骨材 (材質:) ・ 自然石 (材質:) (22. 6. 3) 結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量 ・ (22. 6. 4) ニート工法及び塗布工法の配合等 ・ (22. 6. 4) 舗装の構成 (歩行者用通路) ※ 図示 ・ (22. 7. 2) 舗装の構成 (車路) ※ 図示 ・ 舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの ・ (22. 7. 2) アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※ 行わない (22. 4. 6) (22. 7. 6) 仕上がり面の平坦性 ※ 22. 8. 2 (b) による ・ (22. 8. 2) ・ コンクリート平板舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) <table><tr><th>種類</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>目地材</th><th>表面加工</th><th>備考</th></tr><tr><td>※ 普通平板 (N)</td><td>※ 300角</td><td>・ 30</td><td>※ 砂</td><td>・ 研ぎ出し</td><td></td></tr><tr><td>・ 透水性平板 (P)</td><td>・ 400角</td><td>・ 60</td><td>・ モルタル</td><td>・ 洗い出し</td><td></td></tr><tr><td>・ 保水性平板 (M)</td><td>・ 450角</td><td>・ 80</td><td></td><td>・ たたき出し</td><td></td></tr></table> ・ インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) <table><tr><th>種類</th><th>厚さ (mm)</th><th>曲げ強度 (N/mm2)</th><th>品質 (色彩、表面加工)</th></tr><tr><td>※ 普通ブロック (N)</td><td>車路 ※ 80 ・</td><td>※ 5. 0 ・</td><td>※ 標準色</td></tr><tr><td>・ 透水性ブロック (P)</td><td>歩行者用通路 ※ 60 ・</td><td>※ 3. 0 ・</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 保水性ブロック (M)</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・ 鋪石舗装 <table><tr><th>種類</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>施工方法</th><th>備考</th></tr><tr><td>※ 小鋪石 (花こう岩)</td><td>・</td><td>・ 80</td><td>・ うろこ張り</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td>・</td><td>・</td><td></td></tr></table> 種別 通路 ※ A種 ・ B種 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 建物周囲その他 ・ A種 ※ B種		舗 装 の 種 類	部 位	着色部の厚さ (mm)	加熱系 ※ アスファルト混合物 ・ 石油樹脂系混合物 ・			常温系 ・ ニート工法 ・ 塗布工法	車路及び歩行者用通路	・ 3～5 ・ ・ 1程度以下 ・	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	表面加工	備考	※ 普通平板 (N)	※ 300角	・ 30	※ 砂	・ 研ぎ出し		・ 透水性平板 (P)	・ 400角	・ 60	・ モルタル	・ 洗い出し		・ 保水性平板 (M)	・ 450角	・ 80		・ たたき出し		種類	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm2)	品質 (色彩、表面加工)	※ 普通ブロック (N)	車路 ※ 80 ・	※ 5. 0 ・	※ 標準色	・ 透水性ブロック (P)	歩行者用通路 ※ 60 ・	※ 3. 0 ・	・	・ 保水性ブロック (M)				種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	備考	※ 小鋪石 (花こう岩)	・	・ 80	・ うろこ張り		・		・	・	
部 位	混 合 物 の 種 類																																																																																																	
表 層	・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13)																																																																																																	
舗 装 の 種 類	部 位	舗 装 の 厚 さ (mm)																																																																																																
・ コンクリート舗装	・ 車路及び駐車場	※ 150 ・ 図示 ・																																																																																																
	・ 歩行者用通路	※ 70 ・ 図示 ・																																																																																																
部 位	設計基準強度 (N/mm2)	所定のスランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)																																																																																															
・ 車路及び駐車場	※ 24 ・	※ 8 ・	砂利の場合 ・ 25 ・ 40 砕石の場合 ・ 20 ・ 25																																																																																															
・ 歩行者用通路	※ 18 ・ 21	※ 8 ・ 18	砂利の場合 ※ 25 ・ 砕石の場合 ※ 20 ・																																																																																															
舗 装 の 種 類	部 位	着色部の厚さ (mm)																																																																																																
加熱系 ※ アスファルト混合物 ・ 石油樹脂系混合物 ・																																																																																																		
常温系 ・ ニート工法 ・ 塗布工法	車路及び歩行者用通路	・ 3～5 ・ ・ 1程度以下 ・																																																																																																
種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	表面加工	備考																																																																																													
※ 普通平板 (N)	※ 300角	・ 30	※ 砂	・ 研ぎ出し																																																																																														
・ 透水性平板 (P)	・ 400角	・ 60	・ モルタル	・ 洗い出し																																																																																														
・ 保水性平板 (M)	・ 450角	・ 80		・ たたき出し																																																																																														
種類	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm2)	品質 (色彩、表面加工)																																																																																															
※ 普通ブロック (N)	車路 ※ 80 ・	※ 5. 0 ・	※ 標準色																																																																																															
・ 透水性ブロック (P)	歩行者用通路 ※ 60 ・	※ 3. 0 ・	・																																																																																															
・ 保水性ブロック (M)																																																																																																		
種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	備考																																																																																														
※ 小鋪石 (花こう岩)	・	・ 80	・ うろこ張り																																																																																															
・		・	・																																																																																															

排水工事		材料 排水管用材料 ※ 表21. 2. 1) による (材種、管の種類、呼び径等は図示による) (21. 2. 1) ・ 側境の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地盤用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャーラン (4. 6. 2) (21. 2. 2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N / mm2 スランプ ※ 15cm ・ 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295 A (21. 2. 1)	種 類	形 式	荷重 (安全荷重 (KN))	鍵		------------	---	---	--------------		鉄筋製マンホールふた	・ 水封形 ・ 簡易密閉形 (パッキン式) ・ 密閉形 (テーパー・パッキン式) ・ 中蓋付密閉形 (テーパー・パッキン式)	・ T- 2用 (5) ・ T- 6用 (15) ・ T- 20用 (50)	・ 有り ・ 無し	製造所 評価名簿による ・ A 種 ※ B 種 ・ C 種 ・ D 種 (21. 2. 1) (表3. 2. 1) ・ 鋼製グレーチング (溶融亜鉛メッキ) (21. 2. 1)	型 式	用 途	適用荷重	メインバーピッチ	メインバー上面の形状		------------	--	---	----------------	----------------		※ 受付付 ・	・ 溝ふた用 ・ ますふた用 ・ かさあげ用 ・ U字溝用	・ 歩行用 ・ T- 2用 ・ T- 6用 ・ T- 14用 ・ T- 20用	・ 普通目 ・ 細 目	・ 平 型 ・ 凹凸型	・ ステンレス製グレーチング	型 式	用 途	適用荷重	メインバーピッチ	メインバー上面の形状		------------	--	---	----------------	----------------		※ 受付付 ・	・ 溝ふた用 ・ ますふた用 ・ かさあげ用 ・ U字溝用	・ 歩行用 ・ T- 2用 ・ T- 6用 ・ T- 14用 ・ T- 20用	・ 普通目 ・ 細 目	・ 平 型 ・ 凹凸型	騒音防止ゴム ○ 適用する 製造所 評価名簿による		6 透水性アスファルト舗装 (22. 7. 2) 舗装の構成 (歩行者用通路) ※ 図示 ・ (22. 7. 2) 舗装の構成 (車路) ※ 図示 ・ 舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの ・ (22. 7. 2) アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※ 行わない (22. 4. 6) (22. 7. 6) 仕上がり面の平坦性 ※ 22. 8. 2 (b) による ・ (22. 8. 2) ・ コンクリート平板舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	表面加工	備考		-------------	---------	---------	--------	---------	----		※ 普通平板 (N)	※ 300角	・ 30	※ 砂	・ 研ぎ出し			・ 透水性平板 (P)	・ 400角	・ 60	・ モルタル	・ 洗い出し			・ 保水性平板 (M)	・ 450角	・ 80		・ たたき出し		・ インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)	種類	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm2)	品質 (色彩、表面加工)		---------------	---------------	--------------	--------------		※ 普通ブロック (N)	車路 ※ 80 ・	※ 5. 0 ・	※ 標準色		・ 透水性ブロック (P)	歩行者用通路 ※ 60 ・	※ 3. 0 ・	・		・ 保水性ブロック (M)				・ 鋪石舗装	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	備考		--------------	---------	---------	---------	----		※ 小鋪石 (花こう岩)	・	・ 80	・ うろこ張り			・		・	・		種別 通路 ※ A種 ・ B種 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 建物周囲その他 ・ A種 ※ B種	
舗装工事		路床の材料 (22. 2. 2～22. 2. 3)	種別	材 料	厚さ (mm)		----------	--	-----------		○ 底土	・ A 種 ○ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	※ 図示 ・		・ フィルター層	・ 砂 (75 μmふるい通過量が6%以下)	※ 図示 ・	・ 路床安定処理 路床安定処理用添加材料 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種・生石灰 (・ 特号 ・ 1号) ・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1号) 添加量 (kg / m3) CBRの目標値 () 試験 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ※ 行わない ・ 行う (22. 2. 5) 路床締固め度の試験 ※ 行わない ・ 行う (22. 2. 5) 現場CBR試験 ※ 行わない ・ 行う (22. 2. 5) ② 路盤 路盤の厚さ ※ 図示 ・ (22. 3. 2) 路盤材料 ・ クラッシャーラン ・ 粒度調整砕石 (22. 3. 3) (表22. 3. 1) ※ 再生クラッシャーラン ・ 再生粒度調整砕石 ・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ ・ 粒度調整鉄鋼スラグ ・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ 締固め度の試験 ※ 行う ・ 行わない (22. 3. 5)		7 ブロック系舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	表面加工	備考		-------------	---------	---------	--------	---------	----		※ 普通平板 (N)	※ 300角	・ 30	※ 砂	・ 研ぎ出し			・ 透水性平板 (P)	・ 400角	・ 60	・ モルタル	・ 洗い出し			・ 保水性平板 (M)	・ 450角	・ 80		・ たたき出し		・ インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)	種類	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm2)	品質 (色彩、表面加工)		---------------	---------------	--------------	--------------		※ 普通ブロック (N)	車路 ※ 80 ・	※ 5. 0 ・	※ 標準色		・ 透水性ブロック (P)	歩行者用通路 ※ 60 ・	※ 3. 0 ・	・		・ 保水性ブロック (M)				・ 鋪石舗装	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	備考		--------------	---------	---------	---------	----		※ 小鋪石 (花こう岩)	・	・ 80	・ うろこ張り			・		・	・		種別 通路 ※ A種 ・ B種 (22. 9. 2) (表22. 9. 1) 建物周囲その他 ・ A種 ※ B種																																				
特						凡																																																																																																																																						
記						例																																																																																																																																						
						東 洋 町		工 事 名		野根地区公衆トイレ等整備工事																																																																																																																																		
								意 匠 図		特記仕様書 (7)																																																																																																																																		
						製 図		検 印		2025. 04. 30 縮 尺 S=1: 図 番 A-07																																																																																																																																		



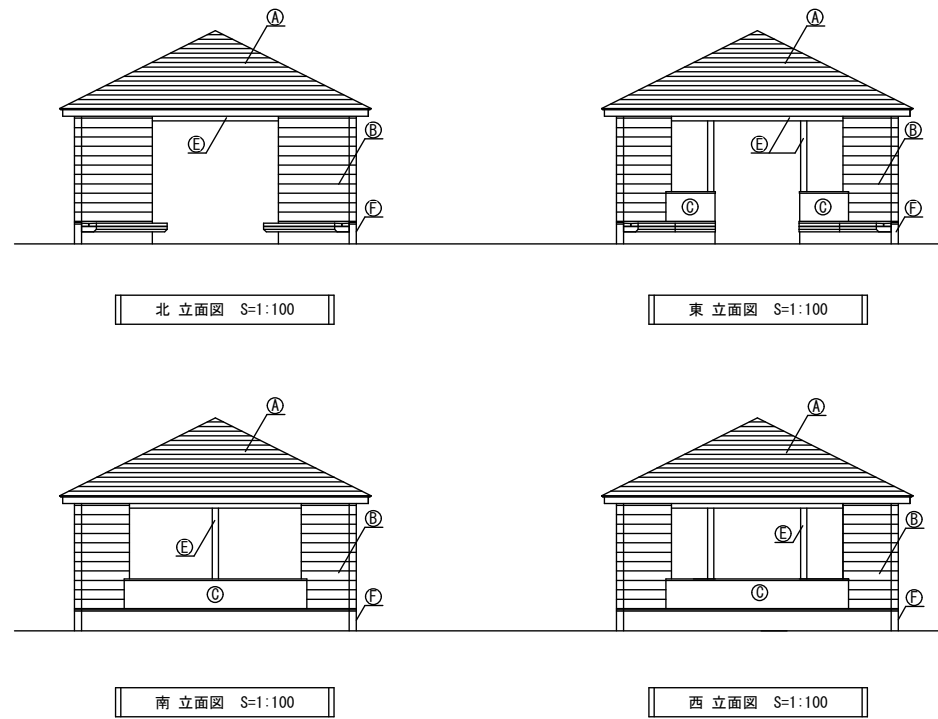
工事場所:高知県安芸郡東洋町野根丙1848-1

付近見取り図



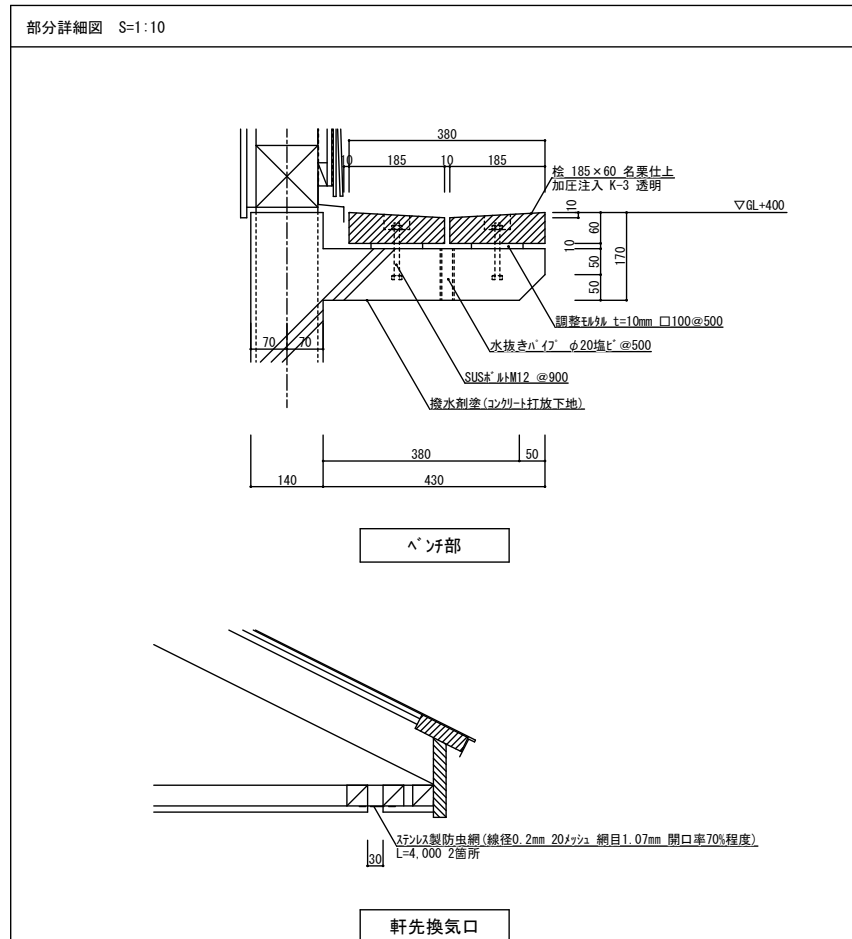
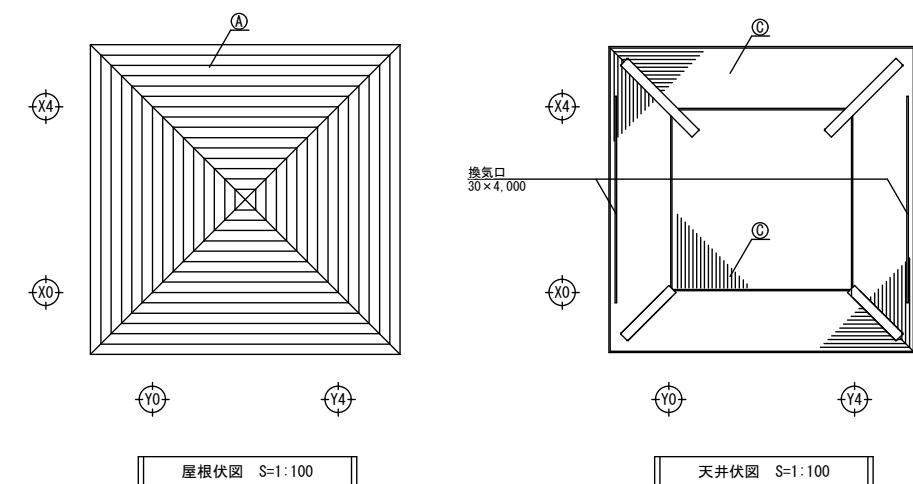
配置図 S=1 : 100

特 記		凡 例	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						意 匠 図	附近見取り図・配置図		
				製 図	検 印	2025.04.30	縮 尺 S=1:100	図 番	A-08

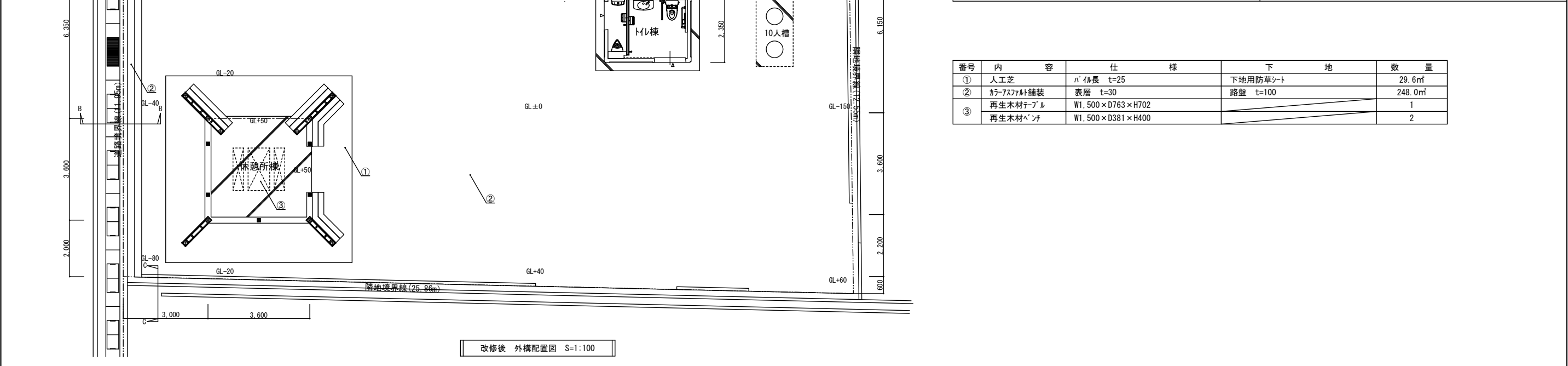
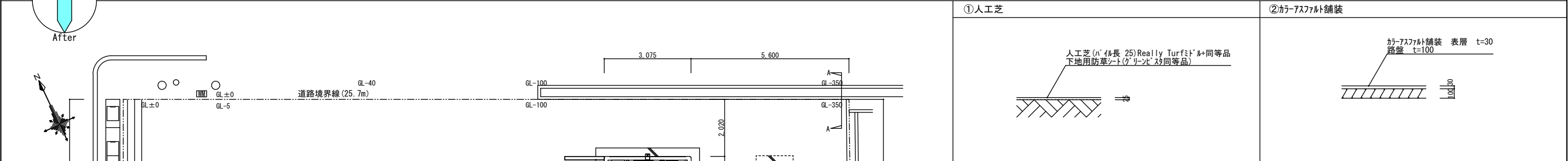
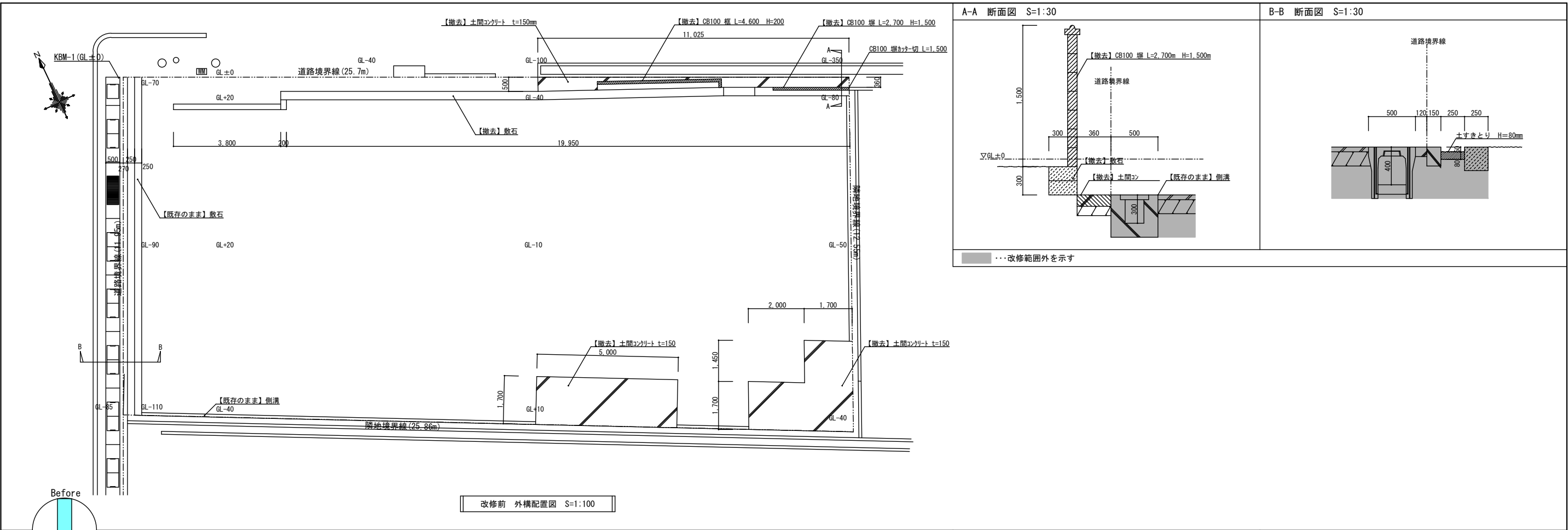


外部仕上表		
屋根	A	横葺き カラーガルバリウム鋼板t=0.4mm・改質アスファルト・フイバーグシートt=1.0mm・耐水合板t=9mm・構造用合板 t=12mm
外壁①	B	横葺き カラーガルバリウム鋼板t=0.35mm・耐水合板 t=9mm + 木製胴縁組18×45@455mm + 透湿防水シート
外壁②	C	桧板張り 幅75mm t=12mm WP塗
軒天	D	ケイ酸カルシウム板 t=10mm EP塗
木部	E	WP塗り ※見出し木部は全て
基礎	F	コンクリート打放

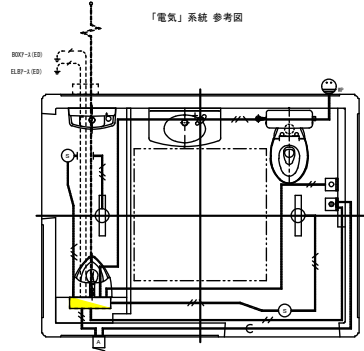
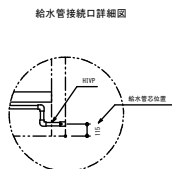
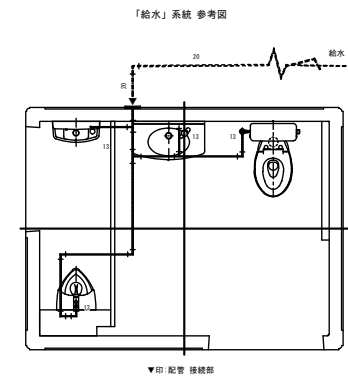
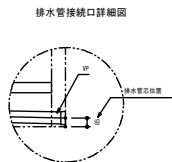
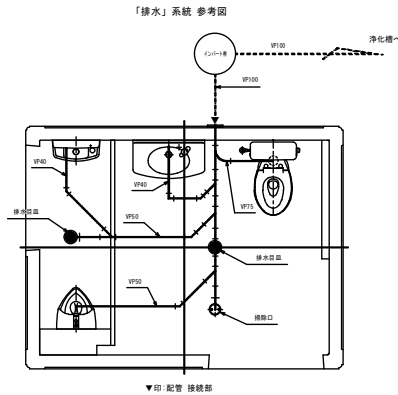
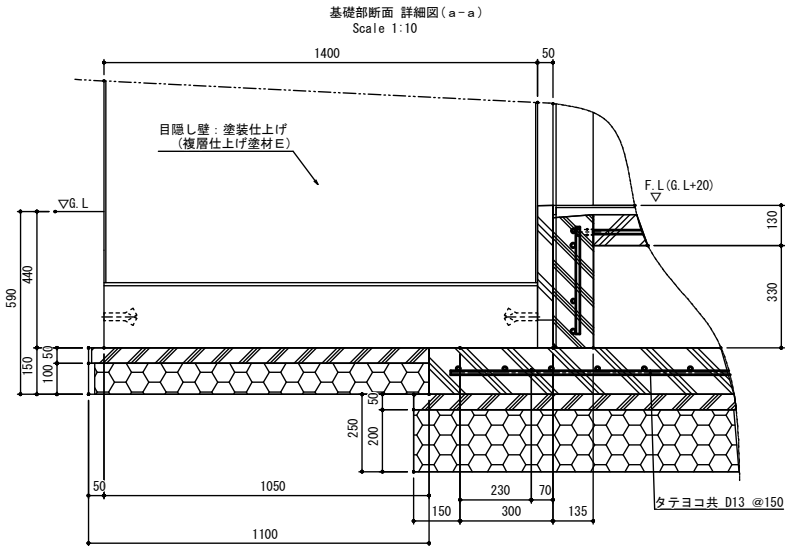
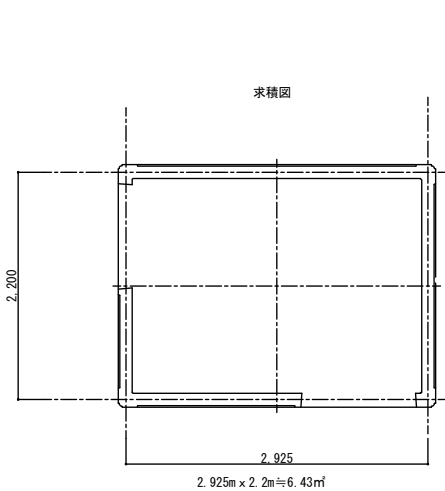
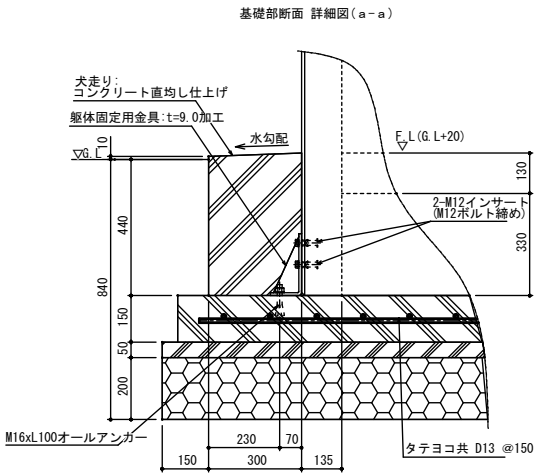
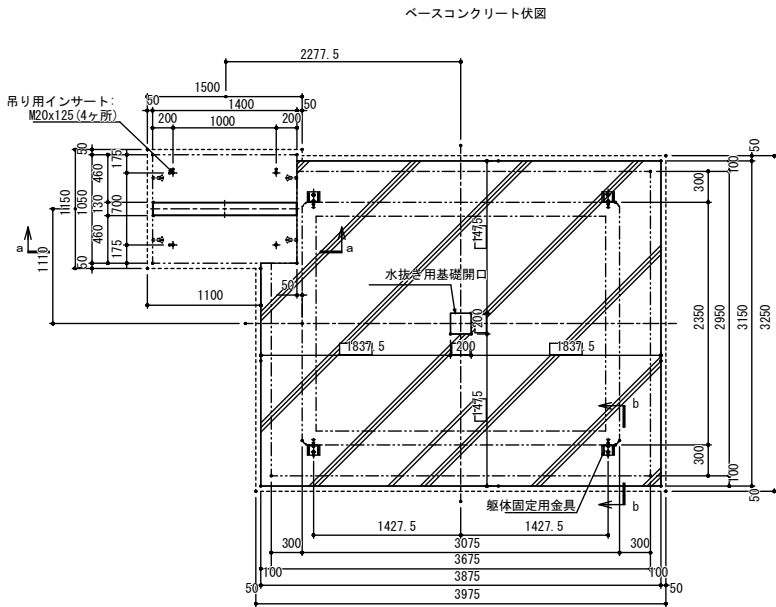
内部仕上表	
天井	桧板張り t=12mm WP塗
壁	桧板張り 幅75mm t=12mm WP塗
巾木	撥水剤塗(コンクリート打放し下地)
床	コンクリート直押え



特 記	外部に面する土台・柱・筋違いは防腐処理材(透明)とする	凡 例	 MS-2 15×10		東 洋 町			工 事 名		野根地区公衆トイレ等整備工事		
				意 匠 図				休憩所棟 平面図・立面図・屋根伏図・天井伏図・矩計図・仕上表・部分詳細図				
								2025.04.30	縮 尺	S=1:10・30・50・100	図 番	A-09



特 記		凡 例	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						意 匠 図	【改修前・改修後】外構配置図		
						2025.04.30	縮 尺 S=1:100	図 番	A-10



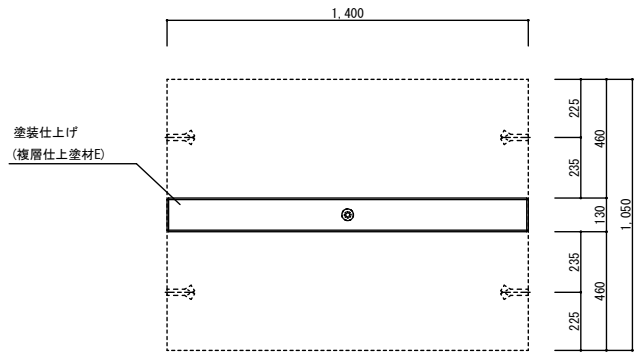
記号	名物	備 考
	電灯分電盤	
	室内照明	LED照明：FL20W相当 *昼白色
	人感知センサー	明るさセンサーON
	非常用警報器	EAS501 (n ナニカ) 同等品
	プルススイッチ付押釦	WS65771 (n ナニカ) 同等品 *常開型
	解除ボタン	WN5460K (n ナニカ) 同等品
	防水コンセント	ブロー用
	1V1.6x2 (PF16)	
	1V1.6x2 E1.6 (PF16)	
	予備用空配管	

特 記		凡 例	MS-2 15×10	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
					製 図	検 印	意 匠 図	エット化詳細図②		
								2025.04.30	縮 尺 S=1:50	図 番 A-12

目隠し壁（塗装仕上げ）

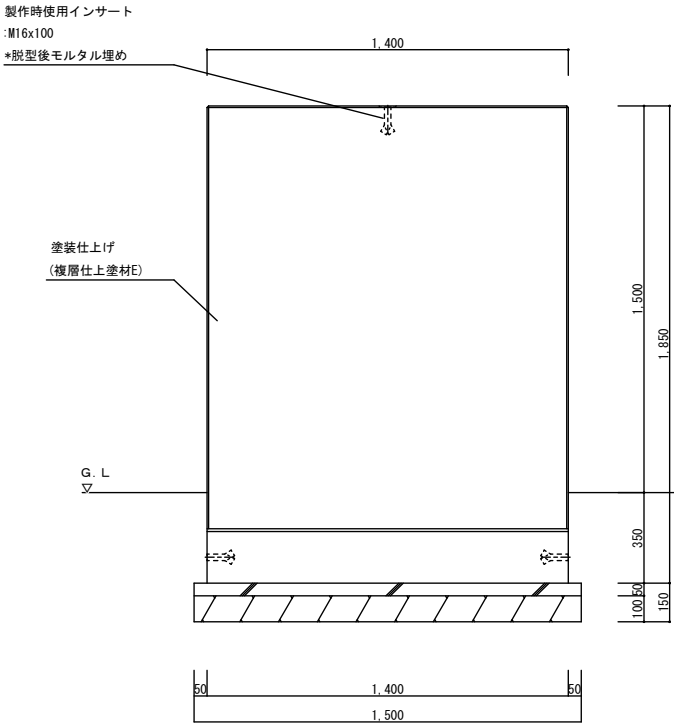
GDT-0001

平面図

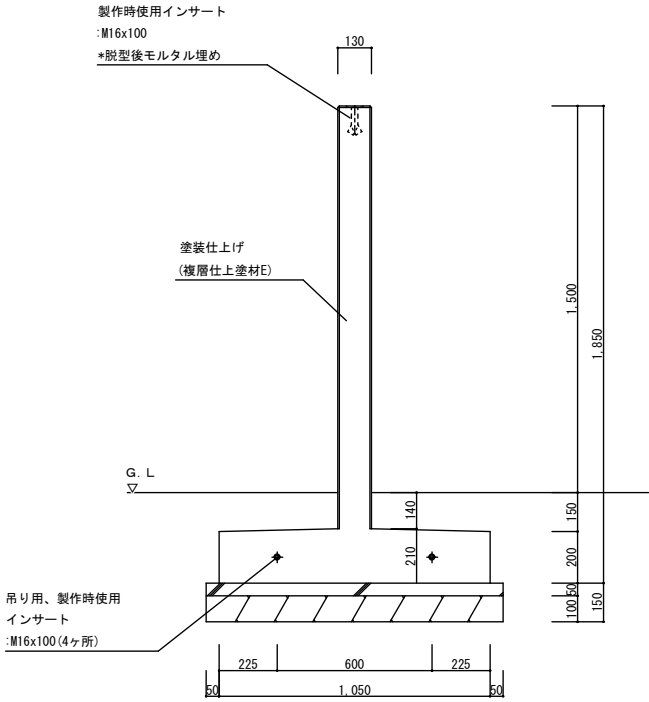


参考重量：1442kg

正面図

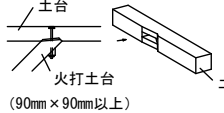
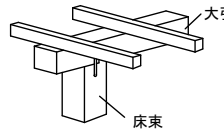
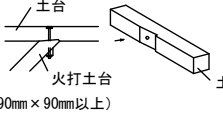
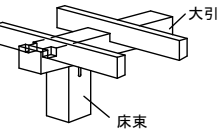
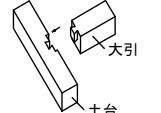
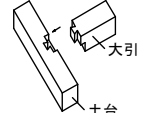
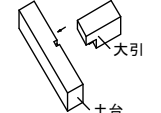
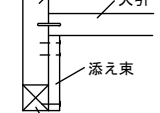
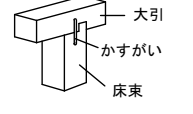
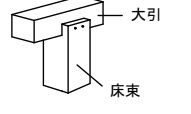
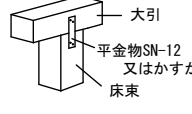
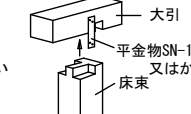
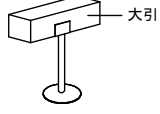
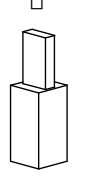
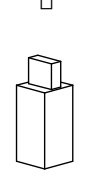
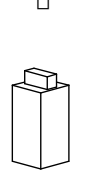
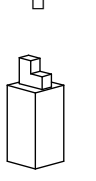
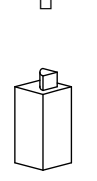


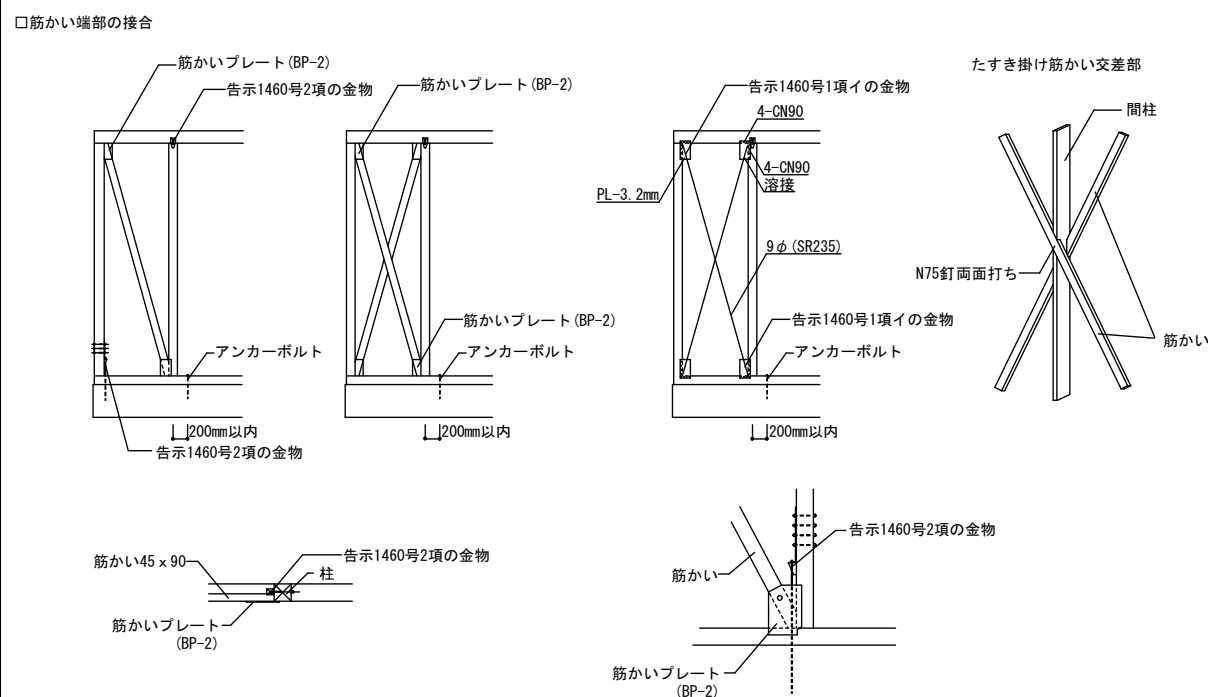
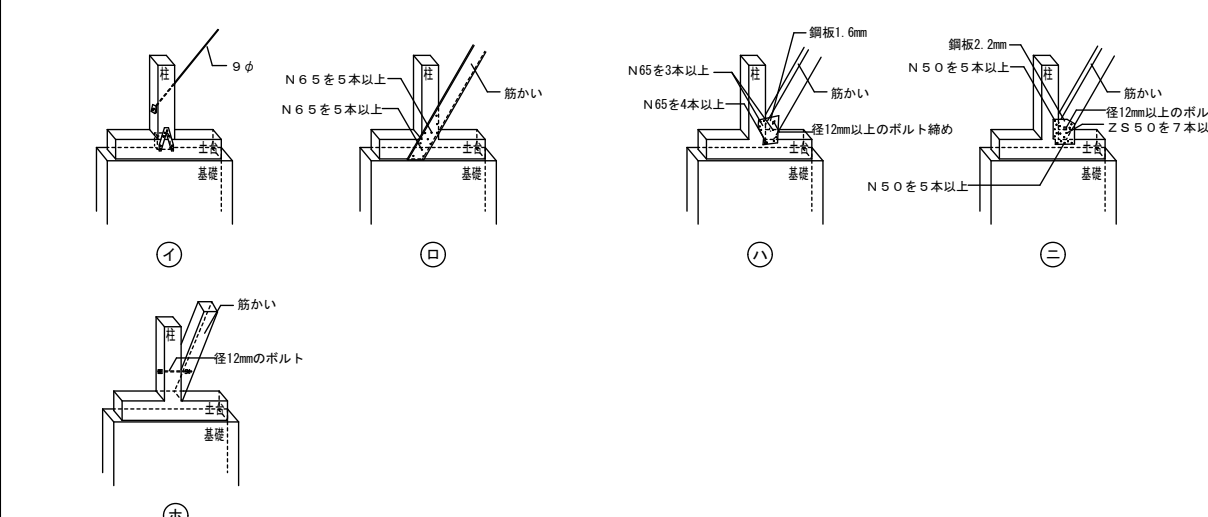
側面図



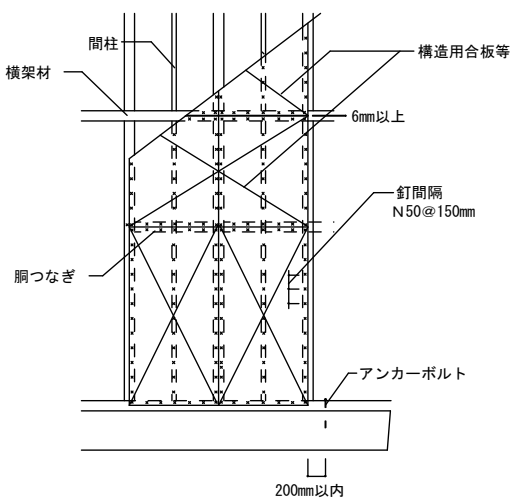
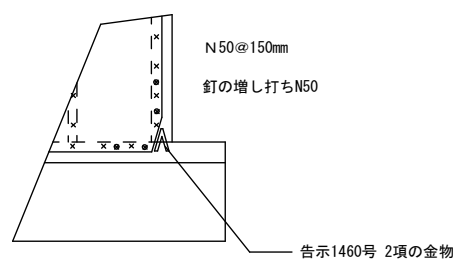
特 記		凡 例	▽MS-2 15×10	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
							意 匠 図	エット目隠し壁詳細図		
				製 図	検 印		2025.04.30	縮 尺 S=1:20	図 番	A-13

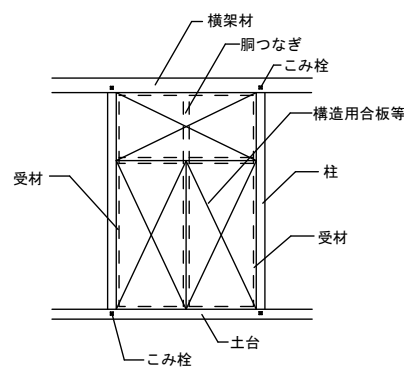
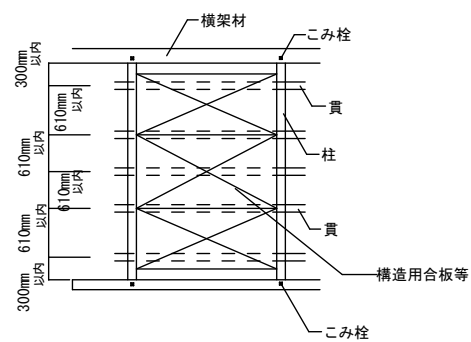
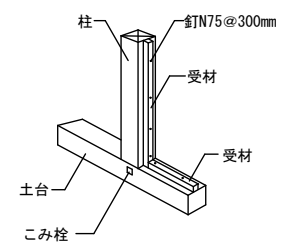
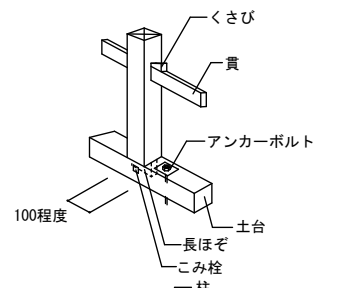
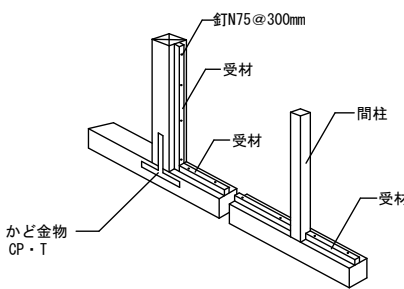
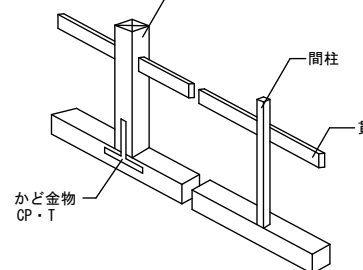
特 記 仕 様 書（木 工 事）軸 組 工 法									
一般事項	本工事における構造の骨組（架構体）、下地骨組、造作、仕上げの木工事に適用する。 特記事項は ■ 印の付いたものを適用する。				部 位				
木材の品質	■ 素材及び製材の品質は、日本農林規格（ＪＡＳ）の規定がある場合は、すべてこの規格に適合したものとする。 ■ 構造材に用いる製材の品質は、構造用製材のＪＡＳに適合したものまたは製材のＪＡＳで定める１等以上とする。 □ 見掛かりの造作用柱、板用製材の品質は、製材のＪＡＳで定める上小節以上のものとし、心持材の場合は背割りを行ったものとする。 □ 目視等級区分の針葉樹構造用製材規格については以下の通りＪＡＳによる。 □ 甲種構造材（構造用Ⅰ）（短辺が9cm未満の横物） □ 一級 □ 二級 □ 三級 □ 甲種構造材（構造用Ⅱ）（短辺が9cm以上の横物） □ 一級 ■ 二級 □ 三級 □ 乙種構造材（柱材など） □ 一級 □ 二級 □ 三級 □ 機械等級区分の針葉樹構造用製材規格については以下の通りＪＡＳによる。 □ 杉 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 □ べいまつ 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 □ 桧 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 □ べいつが 機械等級 □ E50 □ E70 □ E90 □ E110 ■ 仕口を固める楔、栓は堅木とする。又雇い材は骨組材と同材以上または堅木とする。 □ 構造用に用いる集成材は、構造用集成材のＪＡＳに適合若しは化粧ばり集成材のＪＡＳに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 □ 構造部材は、集成材を使用様する。 □ 梁（E105-F300） □ 梁（E120-F330） ■ 無等級製材とする。 木材基準強度は図示とする。 ■ 各種ボード類 ■ 合板の品質は、構造用合板若しくは普通合板等のＪＡＳに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 □ 構造用パネルの品質は、構造用パネルのＪＡＳに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 □ ハードボード、硬質木片セメント板、シージングボード、石膏ボード、及びガラスシートの品質はそれぞれの日本工業規格（ＪＩＳ）に適合するもの又は、これらと同等以上の性能を有するものとする。 □ パーティクルボード、ＭＤＦ（ミディアム・デンシティ・ファイバーボード）の品質はそれぞれの日本工業規格（ＪＩＳ）に適合するもの又は、これらと同等以上の性能を有するものとする。								

特 記 仕 様 書（木 工 事）軸 組 工 法														
部 位							部 位							
火打土台		材 種 ☐ ひのき ☐ べいまつ ☐ ひば ☐ べいひば ☐ べいつが ☐ すぎ					根 太		材 種 ☐ ひのき ☐ べいまつ ☐ べいつが ☐ あかまつ ☐ くらまつ ☐ アビトン ☐ その他（集成材） ☐ すぎ					
		工 法 ☐ 火打金物 火打土台は次のいずれかによる。 ☐ 木材の火打土台とする場合は、次による。 イ. 断面寸法は45mm×90mm以上とする。 ☐ 鋼製火打とする場合は、Zマーク鋼製火打ち、又は同等以上の火打ち金物とする。 ☐ 火打土台を省略する場合は、下記による。 イ. 床下地板の品質は、構造用合板のJASに適合するもので種類は1類とし厚さ12mm以上、パーティクルボードのJISに適合するもので種類は13Pまたは13M以上とし厚さ15mm以上、又は構造用パネルのJASに適合するものとする。 ロ. 床下地板の張り方は、床下地板の長手方向を根太と直交させ、且つ千鳥張りとし土台及び大引に20mm以上のせて釘打ちとする。 床下地板は根太等の受け材上で突付継ぎとする。 ハ. 床下地材の釘打ちは床下地材の4周辺をN50釘を用い釘打ち間隔150mm以下で、根太、大引、土台及び受け材に平打ちして固定する。							工 法 ☐ 断面寸法は45mm×60mmを標準とする。 ただし、2階床の床梁間隔が900mm内外の場合は45mm×60mm以上とし、また2階梁間隔又は1階大引間隔がそれぞれ1,800mm内外の場合は45mm×105mmを標準とする。 ☐ 根太間隔は、畳敷の場合は455mm内外とし、その他の場合は303mm内外とする。					
仕 口		☐ 傾ぎ大入れほぞ差し 					継 手		☐ 置き渡し 					
		☐ 傾ぎ胴付きホルト締め 							☐ 渡あご掛け 					
大 引		材 種 ☐ ひのき ☐ ひば ☐ べいまつ ☐ べいつが ☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ くらまつ ☐ からまつ ☐ その他（集成材）					根太掛け		材 種 ☐ ひのき ☐ べいまつ ☐ べいつが ☐ あかまつ ☐ くらまつ ☐ からまつ ☒ その他（すぎ）					
		工 法 ☐ 断面寸法は90mm×90mmを標準とする。 ☐ 継手は、床束芯から150mm内外持ち出し、腰掛あり継ぎとし、N75釘2本打ちとする。							工 法 ☐ 断面寸法は45mm×90mmを標準とする。 ☐ 継手は、柱芯で突付け継ぎとし、N75釘2本を平打ちとする。 ☐ 留めつけは、柱、間柱当りにN75釘2本を平打ちする。 ☐ コンクリートへの留めつけは、4,0mm×75mmのコンクリートスを平打ちする。					
床 組		仕 口 ☐ 大入れ蟻掛け  ☐ 腰掛け蟻  ☐ 乗せ掛け  ☐ 柱  ☐ その他					柱		材 種（見えがかり） ☒ ひのき ☐ すぎ ☐ べいつが ☐ 化粧貼構造用集成材 ☐ （見え隠れ） ☒ ひのき ☐ べいつが ☐ すぎ ☐ 構造用積層材 ☐ ぼぞ寸法は、（35mm×85mm）とする。					
		註 上記仕口はいずれもN75釘2本斜め打ちとする。							工 法 ☒ 柱の断面寸法は120mm×120mmを標準とする。 ☐ 通し柱の断面寸法は、135mm×135mmを標準とする。 ☐ 階数が2以上の住宅における通し柱の断面寸法は、120mm×120mmとする。 ☒ 隅柱（出隅、入隅）の断面寸法は、120mm×120mm以上とする。 ☒ 横架材との仕口は、特記なき限り上下とも長柄差し込み栓打ちとする。 ☒ 隅柱の下部は、特記なき限り短ほぞ差しとし、かど金物（CP-L）当て釘打ちとする。 ☐ 筋かいの下端部が取り付く柱と横架材との仕口は柱の上下とも長ほぞ差しとし、込み栓打ちとする。					
床 束		材 種 ☐ ひのき ☐ ひば ☐ べいまつ ☐ べいつが ☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ からまつ ☐ べいつが ☐ 鋼製束 ☐ 合成樹脂製束					間 柱		材 種 ☐ すぎ ☒ ひのき ☐ べいまつ ☐ べいつが ☐ くらまつ ☐ からまつ ☐ あかまつ ☐ その他（WWKD）					
		工 法 ☐ 断面寸法は90mm×90mmを標準とする。 ☐ 継手は、上部仕口は、補強金物にて緊結する。 ☐ 鋼製・合成樹脂製等の束とする場合は、各製造所の仕様による。（大引端部の鋼製床束は基礎側面より150mm以内の位置）							工 法 ☐ 横架材との仕口は、上部ほぞ差し下部突付けとし、下部はN75釘2本を斜め打ちする。 ☒ 横架材との仕口は、上下とも大入れ、N75釘を斜め打ちする。 ☐ 筋かい当りは、間柱を欠き、N75釘2本を平打ちする。 ☐ 通し貫当りは、添付てN65釘2本を平打ちする。					
仕 口		☐ 道切りほぞ差し  ☐ ひんた延ばし  ☐ 突付け  ☐ 目違いほぞ差し  ☐ 鋼製束 					仕 口		☐ 長ほぞ  ☐ 平ほぞ  ☐ 短ほぞ  ☐ 小根ほぞ  ☐ 扇ほぞ  ☐ 認定仕口金物					
		N75釘2本斜め打ち N65釘2本平打ち N75釘2本斜め打ち N75釘2本斜め打ち 各製造所の仕様による												
特							凡	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
記							例				図 面 名	特記仕様書（木工事）軸組工法（2）		
								製 図 検 印			2025.04.30	縮 尺	図 番	B-02

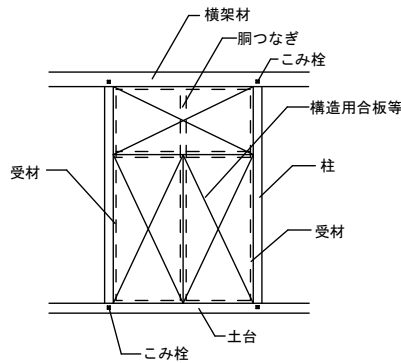
特 記 仕 様 書 （ 木 工 事 ） 軸 組 工 法														
部 位								部 位						
2階床梁 胴 差 け た	材 種	☐ べいまつ ☐ べいつが ☐ くろまつ ☐ からまつ ☐ くろまつ ☐ あかまつ ☐ つが ☒ ひのき ☐ すぎ ☐ 対称異等級構成集成材						接合金物 (BP-2)	□筋かい端部の接合					
	工 法	■ 断面寸法は、荷重の状態、スパン、梁間隔等を勘案して構造計算等により適切なものの特記する。 ■ 継手は梁及び筋違いを受ける柱間を避け、柱より150mm内外持ち出した位置に設ける。 ■ 横架材の中央部分付近の下側に耐力上支障のある欠込みをしてはならない。 ■ 柱又は、横架材との仕口部分は補強金物にて緊結する。												
	仕 口	□ 通し柱:大入れ蟻掛け+羽子板φ12(M12(角座金4.5mm×40角)+ スクリュー釘ZS50 1本を標準とする。 ■ 通し柱以外:大入れ蟻掛け+羽子板φ12(M12(角座金4.5mm×40角)×1を標準とする。						接合金物 (告示1460号1項)	□筋かい端部の接合					
	継 手	■ 腰掛け鎌継ぎ+短ざく金物 □ 追掛大せん継ぎ □ 2階ばり継手（台持継ぎ）							□ イ. 径9mmの鉄筋 □ ロ. 1. 5cm×9cmの木材の筋かい □ ハ. 3cm×9cmの木材の筋かい □ ニ. 4. 5cm×9cmの木材の筋かい □ ホ. 9cm×9cmの木材の筋かい □ 柱又は、横架材（柱や土台）貫通し、三角座金を介してナット締めしたもの。 □ 鋼板添え板を用い柱又は横架材にJIS規定鉄丸釘CN90を8本以上打ち付けたもの。 □ 柱及び横架材に欠き込み、柱及び横架材の双方にJIS規定鉄丸釘N65を5本以上平打ちしたもの。 □ 厚さ1. 6mm以上の鋼板添え板を用い、筋かいに対して径12mm以上のボルト及び釘3本平打ち、柱に対して釘3本平打ち、横架材に対して釘4本平打ちしたもの。 □ 厚さ2. 2mm以上の鋼板添え板を用い、筋かいに対して径12mm以上のボルト及び長さ50mm以上のスクリュー釘7本平打ち、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ50mm以上のスクリュー釘5本平打ちしたもの。 □ 柱又は横架材に、JIS強度区分4. 6の径12mmのボルトを用いて一面せん断接合とすること。					
火打梁	材 種	☐ べいまつ ☐ べいつが ☐ くろまつ ☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ ひのき ■ 火打金物												
筋違い	材 種	☐ ひのき ☐ すぎ ☐ 構造用合板12.0mm以上 ☐ 構造用パネル ☐ パーティクルボード12mm以上 ☐ ハードボード5mm以上 ☐ その他（鉄筋）												
		筋かいによる耐力壁 ☐ 木造筋かい ☐ 断面寸法は30mm×90mm以上とする。(ﾀﾞﾌﾞﾙ) ☐ 断面寸法は45mm×90mm以上とする。(ｼﾝｸﾞﾙ) ☐ 見付け平使いとし、上下端部の仕口は告示1460号に適合した方法とする。 ☐ 筋かいが間柱と取り合う部分は、間柱を筋かいの厚さだけ欠き通して筋かいを通す。 ☐ 鉄筋筋かい ☐ 径9mm以上の丸鋼とする。(SR235N/mm2)												

特 記		凡					東 洋 町			工 事 名		野根地区公衆トイレ等整備工事	
		例								図 面 名		特記仕様書（木工事）軸組工法（3）	
										2025. 04. 30		縮 尺	
							製 図 検 印			図 番		B-03	

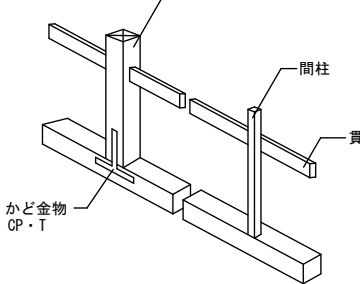
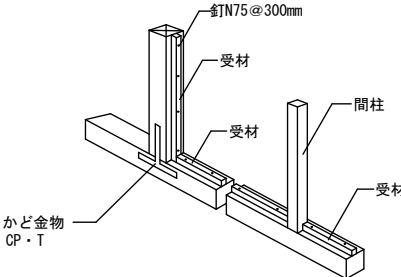
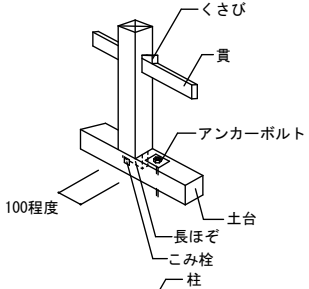
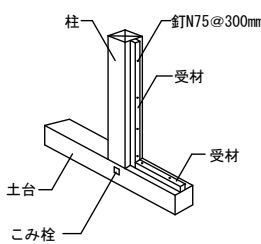
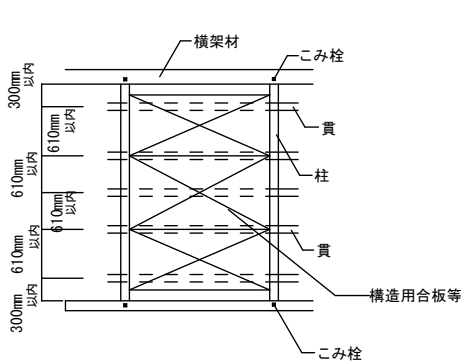
特 記 仕 様 書 （ 木 工 事 ） 軸 組 工 法				
部 位				
面材耐力壁	材 種	■ 構造用合板12.0mm以上 □ 構造用パネル □ パーティクルボード12mm以上 □ ハードボード5mm以上		
	■大壁造の面材耐力壁			
	■ 面材による耐力壁は、面材の種類により釘の種類・間隔が異なるので、告示1100号に適合していることを確認する。			
	■ 柱と横架材の接合部は、特記なき限り 告示 1 4 6 0号による金物等により補強する。			
	□ 構造用面材は横張り又は縦張りとする場合で、やむをえず、梁、柱等以外で継ぐ場合は、受材、胴つなぎ断面は4 5mm(見付)×6 5mm以上とする。			
■ 構造用合板については、屋外に面する壁、及び常時湿潤状態になる恐れのある壁には「特類」を使用し、「1 類」は室内に使用する。				
□ 1 階及び2 階部の上下同位置に構造用面材の耐力壁を設ける場合は、胴差部において、構造用面材相互間に、6mm以上のあきを設ける。				
		大壁造の面材耐力壁において、面材の四隅を切り欠いて山形プレートを柱と横架材に直接釘打ちする場合は 下図のように近傍に釘の増し打ちをする。 		
□真壁造の面材耐力壁				
□ 面材による耐力壁は、面材の種類により釘の種類・間隔が異なるので、告示1897号に適合していることを確認する。				
□ 柱と横架材の接合部は、特記なき限り 告示 1 4 6 0号による金物等により補強する。				
□ 構造用面材のホルムアルデヒド [*] の発散量に関する品質については、特記による。				
■真壁造の面材耐力壁（受材タイプ）				
■ 受材は30mm×40mm以上とする。				
■ 受材は、柱及び梁、桁、土台、その他の横架材にN75以上の釘を30cm以下の間隔で平打ちとする。				
■ 構造用面材は、受け材並びに間柱及び胴つなぎ等に留めつける。				
□ 構造用面材を受材以外で継ぐ場合は、間柱又は胴つなぎ等の断面は45mm×65mm以上とする。				
□真壁造の面材耐力壁（貫タイプ）				
□ 貫は15mm×90mm以上とする。				
□ 貫は5本以上設ける。				
□ 最上段の貫とその直上の横架材との間隔及び最下段の貫とその直下の横架材との間隔は、おおむね30cm以下とし、				
その他の貫の間隔は61cm以下とする。				
□ 貫を柱に差し通す場合は、両面からくさび締め又は釘打ちとする。				
□ 貫の継手は、おおむね柱心で突付けとする。				
□ 柱との仕口は、柱の径の1/2程度差し込みくさび締め又は釘打ちとする。				
□ 構造用面材は、貫に確実に留めつける。				
□ 構造用面材を継ぐ場合は、貫上で行なう。				

部 位			
(受材タイプ)		(貫タイプ)	
			
			

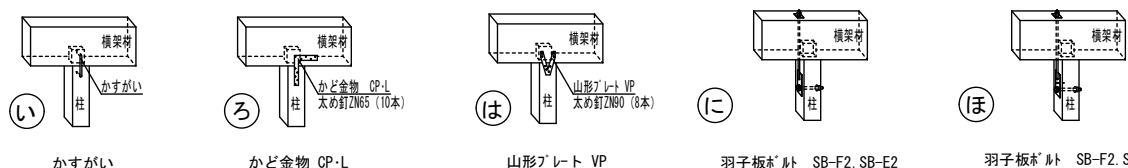
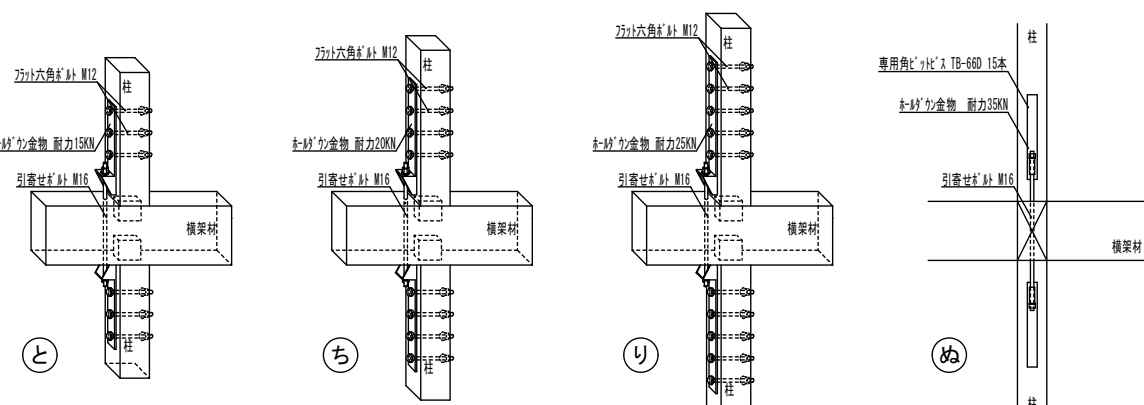
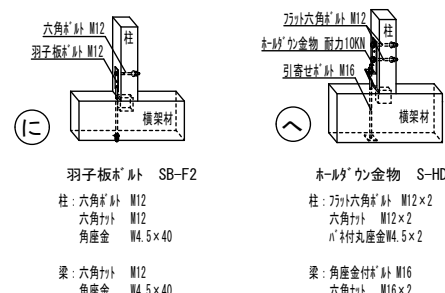
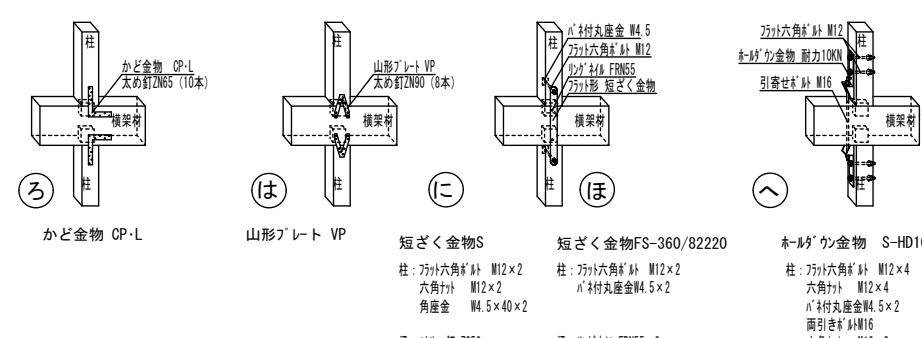
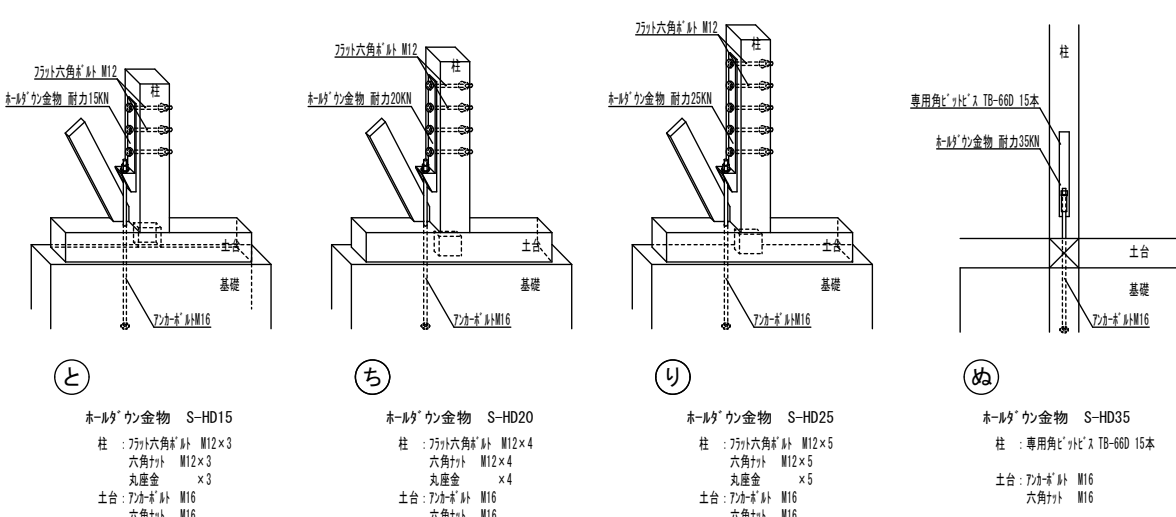
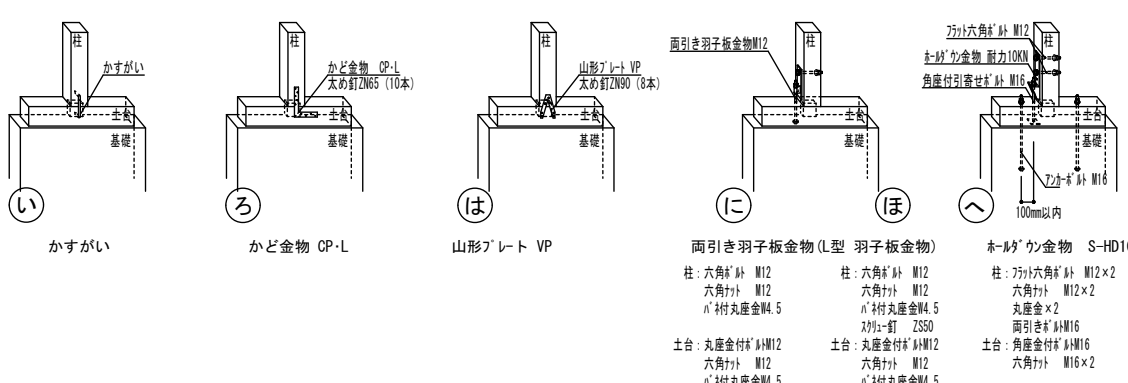
（受材タイプ）



（貫タイプ）



特 記		凡 例		東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事	
							図 面 名	特記仕様書（木工事）軸組工法（4）	
					製 図	検 印	2025. 04. 30	縮 尺	図 番 B-04

特 記 仕 様 書 （ 木 工 事 ） 軸 組 工 法									
部 位					部 位				
柱頭柱脚接合金物									
■柱頭・柱脚接合金物使用条件 ■接合金物の取付・施工は、平成12年建設省告示代1460号を順守し施工する。 ■接合金物は、Zマーク表示金物、又はZマーク表示金物同等認定品とする。									
上端箇所金物施工箇所標準図					中間箇所金物施工箇所標準図				
 かしがい かど金物 CP-L 太め釘ZNG5 (10本) 山形プレート VP 太め釘ZNG0 (8本) 羽子板金物 SB-F2. SB-E2 柱：六角金物 M12 六角ナット M12 角座金 W4.5×40 梁：角座付金物 M12 六角ナット M12 角座金 W4.5×40 羽子板金物 SB-F2. SB-E2 柱：六角金物 M12 六角ナット M12 角座金 W4.5×40 スリット釘 ZSS0 梁：角座付金物 M12 六角ナット M12 角座金 W4.5×40					 ホール金物 S-HD15×2 柱：ワッパ六角金物 M12×6 六角ナット M12×6 ナット付丸座金W4.5×6 両引き金物 M16 六角ナット M16×2 ホール金物 S-HD20×2 柱：ワッパ六角金物 M12×8 六角ナット M12×8 ナット付丸座金W4.5×8 両引き金物 M16 六角ナット M16×2 ホール金物 S-HD25×2 柱：ワッパ六角金物 M12×10 六角ナット M12×10 ナット付丸座金W4.5×10 両引き金物 M16 六角ナット M16×2 ホール金物 S-HD35×2 柱：両引き金物 M16 六角ナット M16×2 専用角ビッドス TB-660 15本 引寄せ金物 M16				
2階隅柱緊結金物施工箇所標準図									
 羽子板金物 SB-F2 柱：六角金物 M12 六角ナット M12 角座金 W4.5×40 梁：六角ナット M12 角座金 W4.5×40 ホール金物 S-HD10 柱：ワッパ六角金物 M12×2 六角ナット M12×2 ナット付丸座金W4.5×2 梁：角座付金物 M16 六角ナット M16×2									
中間箇所金物施工箇所標準図					基礎・土台部分金物施工箇所標準図				
 かど金物 CP-L 太め釘ZNG5 (10本) 山形プレート VP 太め釘ZNG0 (8本) 短ざく金物S 柱：ワッパ六角金物 M12×2 六角ナット M12×2 角座金 W4.5×40×2 梁：スリット釘 ZSS0 短ざく金物FS-360/82220 柱：ワッパ六角金物 M12×2 ナット付丸座金W4.5×2 梁：スリット釘 FRNG5×2 ホール金物 S-HD10×2 柱：ワッパ六角金物 M12×4 六角ナット M12×4 ナット付丸座金W4.5×2 両引き金物 M16 六角ナット M16×2					 ホール金物 S-HD15 柱：ワッパ六角金物 M12×3 六角ナット M12×3 丸座金 ×3 土台：ワッパ金物 M16 六角ナット M16 ホール金物 S-HD20 柱：ワッパ六角金物 M12×4 六角ナット M12×4 丸座金 ×4 土台：ワッパ金物 M16 六角ナット M16 ホール金物 S-HD25 柱：ワッパ六角金物 M12×5 六角ナット M12×5 丸座金 ×5 土台：ワッパ金物 M16 六角ナット M16 ホール金物 S-HD35 柱：専用角ビッドス TB-660 15本 土台：ワッパ金物 M16 六角ナット M16				
基礎・土台部分金物施工箇所標準図									
 かしがい かど金物 CP-L 太め釘ZNG5 (10本) 山形プレート VP 太め釘ZNG0 (8本) 両引き羽子板金物 (L型 羽子板金物) 柱：六角金物 M12 六角ナット M12 ナット付丸座金W4.5 スリット釘 ZSS0 土台：丸座金付金物 M12 六角ナット M12 ナット付丸座金W4.5 ホール金物 S-HD10 柱：六角金物 M12 六角ナット M12 丸座金×2 両引き金物 M16 土台：角座付金物 M16 六角ナット M16×2									

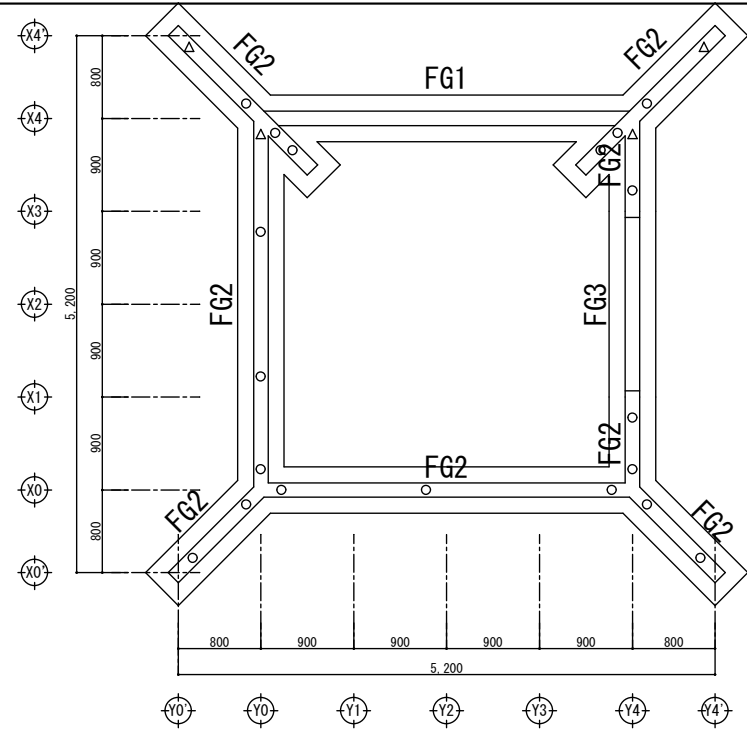
特 記			凡 例		東 洋 町			工 事 名		野根地区公衆トイレ等整備工事	
								図 面 名		特記仕様書（木工事）軸組工法（5）	
					製 図	検 印		2025. 04. 30		縮 尺	図 番 B-05

特 記 仕 様 書 （ 木 工 事 ） 軸 組 工 法				特 記 仕 様 書 （ 木 工 事 ） 軸 組 工 法			
部 位		接 合 金 物		部 位		接 合 金 物	
金 物	種 類 ・ 記 号	形 状 ・ 寸 法 （ 単 位 mm ） 使 用 接 合 具	用 途 ・ 使 い 方	金 物	種 類 ・ 記 号	形 状 ・ 寸 法 （ 単 位 mm ） 使 用 接 合 具	用 途 ・ 使 い 方
	■火打金物 HB	【寸法・形状】 ◎使用接合具 平くぎZF55 小型角座金W2.3×30 六角ボルトM12 六角ナットM12 角座金W4.5×40	◎用途 床組及び小屋組の隅角部の補強		■ひねり金物 ST （右ひねりのみ）	【寸法・形状】 ST-9、ST-12 ◎ 使用接合部 太めくぎ ZN40	【用途】垂木と軒桁、または、母屋との接合 【使い方】
	□ひら金物 SM-12	【寸法・形状】 ◎使用接合具 太めくぎZN65	◎用途 かすがいと同様の用途		□折曲げ金物 SF （右ひねり及び左ひねり）	【寸法・形状】 ◎ 使用接合部 太めくぎ ZN40	【用途】ひねり金物と同様の用途 【使い方】
	□ひら金物 SM-40	【寸法・形状】 ◎使用接合具 太めくぎZN65	◎用途 管柱の連結等		□くら金物 SS	【寸法・形状】 ◎ 使用接合部 太めくぎ ZN40	【用途】ひねり金物と同様の用途 【使い方】
	■羽子板ボルト SB・E	【寸法・形状】 ◎使用接合具 六角ボルトM12L=280・310・340 六角ナットM12 370・400・430 角座金W4.5×40 スクリーくぎZS50	◎用途 小屋ばりと軒桁 軒桁と柱、胴差と通し柱の連結		□かど金物 CP・L CP・T	【寸法・形状】 ◎ 使用接合部 太めくぎ ZN65	【用途】引張りをうける柱と土台・横架材の接合 【使い方】
□かね折り金物 SA	【寸法・形状】 ◎使用接合具 L=210・240・270 六角ボルトM12 300・345 六角ナットM12 角座金W4.5×40 スクリーくぎZS50	◎用途 通し柱と胴差の取合					

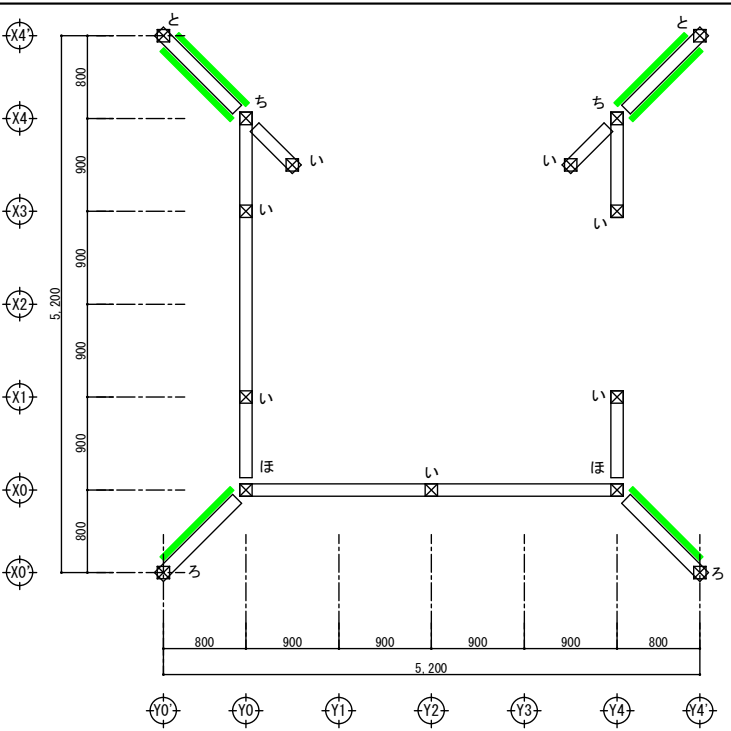
特 記		凡 例		東 洋 町			工 事 名		野根地区公衆トイレ等整備工事	
							図 面 名		特記仕様書（木工事）軸組工法（6）	
					製 図	検 印	2025. 04. 30		縮 尺	図 番 B-06

特 記 仕 様 書（ 木 工 事 ） 軸 組 工 法										
部 位							部 位			
小屋梁	材 種	梁（丸太） ☐ べいまつ ☐ くろまつ ☐ あかまつ 梁（その他） ☒ ひのき ☐ すぎ ☐ くろまつ ☐ あかまつ ☐ からまつ ☐ 構造用集成材（ ☐ ） ☐ その他（ ☐ ）					小屋組	継手及び仕口の参考例 小屋ばりの継手（台持継ぎ） 小屋ばりと軒げたとの仕口 (かぶとあり) （渡りあご） (大入れ蟻掛け) (注) 羽子板ボルトについては、施工性を考えて、軒げたとはり、軒げたと柱を一定間隔ごとに交互に緊結する。 		
	工 法	■ 継手、仕口は伏図特記による ☐ 末口150mm以上の丸太の継手は、受材上で台持継ぎとし、下木に太柄2本を植え込み、 ☐ 六角ボルト (M12) 2本締めとする。受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。 ☐ 末口150mm以下の丸太の継手は、受け材上でやりちがいとし、六角ボルト (M12) 2本締めとする。 ☐ 受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。 ☐ 軒桁又は敷桁との仕口は、かぶと蟻掛け又は渡りあごとし、羽子板ボルト締めとする。								
小屋束	材 種	☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ くろまつ ☐ べいまつ ☐ からまつ ☐ べいつが ☒ その他（ひのき）								
	工 法	上部・下部の仕口は、短ほぞ差しとし、かすがい両面打ちとする。								
棟木・母屋	材 種	☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ くろまつ ☐ べいまつ ☐ からまつ ☐ べいつが ☒ その他（ひのき）								
	工 法	垂木当たりの欠き込みを考慮して適切な断面寸法とし、継手は束の位置を避け、持ち出し腰掛け鎌継ぎとする。								
垂 木	材 種	☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ くろまつ ☐ べいまつ ☐ からまつ ☐ べいつが ☒ その他（ひのき）								
	工 法	■ 継手は乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、釘2本打ちとする。 ただし、垂木のせいが45mm程度の場合は、N100釘を脳天打ちとすることができる。 ■ 軒先部の留め付けは、受け材当たりN75釘で両面を斜め打ちとする。 軒先部の留め付けは、桁に ☒ ひねり金物 (ST) ☐ 折曲げ金物 (SF) ☐ くら金物 (SS) を当て釘打ちとする。 ☐ 瓦棒葺き屋根の場合の垂木間隔は、瓦棒の留め付け幅と同一とする。								
くも筋違い	材 種	☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ くろまつ ☐ べいまつ ☐ からまつ ☐ べいつが ☐ その他（ひのき）								
	工 法	束に添えつけ、N50釘2本打ちとする。断面寸法は貫程度 (15mm×90mm) とする。 								
桁行筋違い	材 種	☐ すぎ ☐ あかまつ ☐ くろまつ ☐ べいまつ ☐ からまつ ☐ べいつが ☐ その他（ひのき）								
	工 法	見付け平使いとし、筋違い金物（BP-2）にて緊結する。桁行筋違い断面寸法は45mm×90mmとする。 								

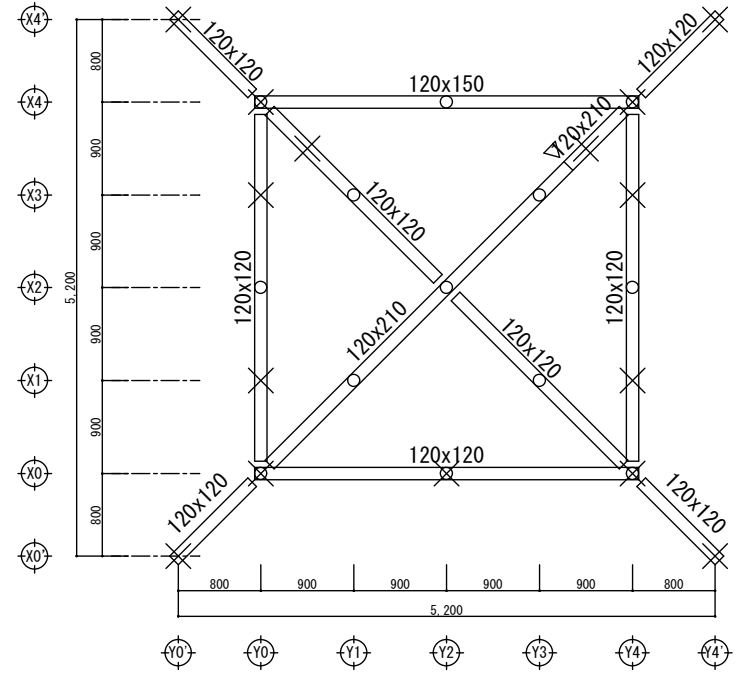
特 記		凡 例		東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
							製 図	検 印	図 面 名	特記仕様書（木工事）軸組工法（7）
							2025. 04. 30	縮 尺	図 番	B-07



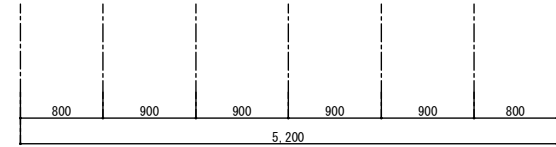
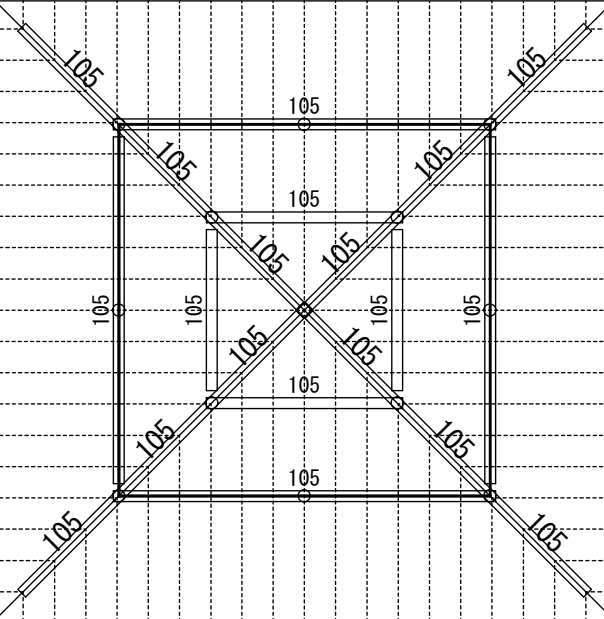
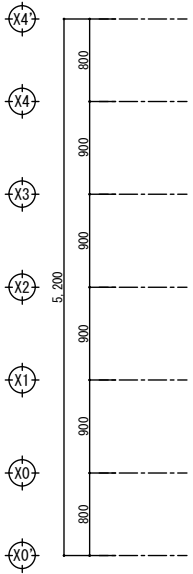
基礎伏図 S=1:50



柱・土台伏図 S=1:50

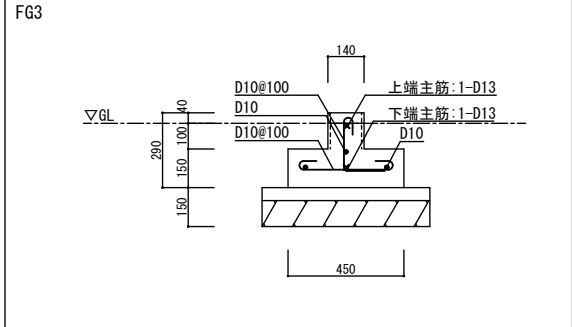
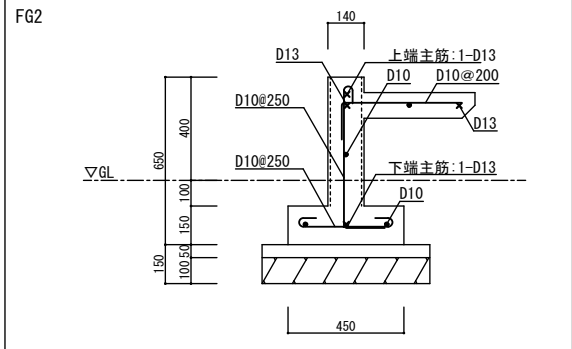
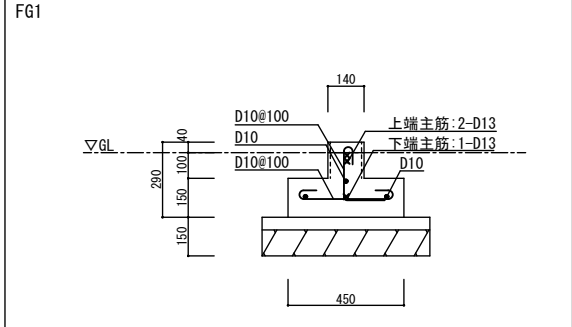


柱・土台伏図 S=1:50



小屋伏図 S=1:50

基礎詳細図 S=1:20



分類	告示表示	必要耐力 (KN)	金物仕様
柱頭柱脚 接 合 部	い	0.0	山形ﾌﾞﾚｯﾄ金物 釘CN90×8本
	ろ	3.4	山形ﾌﾞﾚｯﾄ金物 釘CN90×8本
	は	5.1	山形ﾌﾞﾚｯﾄ金物 釘CN90×8本
	に	7.5	羽子板ﾌﾞﾚｯﾄφ12mm又は短ざく金物
	ほ	8.5	羽子板ﾌﾞﾚｯﾄφ12mm又は短ざく金物＋ｽｸﾘｰｰ釘×1本
	へ	10.0	(10KN)
	と	15.0	(15KN)
	ち	20.0	(20KN)
	り	25.0	(25KN)

※ 金物は、マーク又は同等品とする。

名 称	記 号	材 寸 法	等級	樹種等
梁	＝	120 × 特記	特一	桧 無等級
柱	×	120 × 120	特一	桧 無等級
小屋束	○	105 × 105	特一	桧 無等級
母屋	＝	105 × 105	特一	桧 無等級
垂木	-----	45 × 90 @ 300	特一	桧 無等級 留付け：ひねり金物
転び止め		45 × 90	特一	桧 無等級
野地板		構造用合板 t=12mm 留付N50@150以下		
横架材継手	＝	腰掛け鎌継ぎ+短ざく金物		
横架材仕口		大入れ鎌掛け+羽子板ボルト		

梁伏図特記事項

- ・耐力壁内で継手を設けないこと

小屋伏図特記事項

- ・転び止めは軒桁上及び母屋上全てに設けること

特 記 仕 様 書

I 工 事 概 要

1. 工 事 場 所 東 洋 町

2. 建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延 べ 面 積	消防法施行令 別表第一
休憩所棟	木	1 階建	m ²	
トイレ棟	RC	1 階建	m ²	
		階建	m ²	

3. 工事種目

Ⅱ 工 事 仕 様

1. 共 通 仕 様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共工事標準仕様書（電気設備工事編）令和４年版（ただし、改修工事の場合は公共建築改修工事仕様書（電気設備工事編）令和４年版）及び電気設備工事標準図（令和４年版）による。

2. 特 記 仕 様

1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。

2) 特記事項のうち選択する事項は○印のついたものを適用する。ただし、○印のない場合は印を適用する。

1. 共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版（ただし、改修工事の場合は公共建築改修工事仕様書（電気設備工事編）令和4年版）及び電気設備工事標準図（令和4年版）による。

2. 特記仕様
1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。
2) 特記事項のうち選択する事項は○印のついたものを適用する。ただし、○印のない場合は印を適用する。

⑧	電 線 類	EHケーブルで規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。 耐火ケーブル (FP) 及び耐熱ケーブル (HP) はシースに耐燃性ポリエチレンを用いたものとする。
⑨	呼 び 線	長さ 1 m 以上の入線しない電線管には 1.2mm 以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
⑩	フラッシュプレートの材質	・ 樹脂製 ㊦ 新金属 ・ ステンレス
⑪	カゝ-ﾌﾞﾚｰﾄ の用途別表示	シール等を貼付する。
⑫	接 地 極	下記による。

14 再 使 用 機 器

はつり、穴開け及びあと施工アッラー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場を鉄筋探査器により探査し、鉄筋・配管類の位置に墨出しを行い、施工前に工事監理業務受者もしくは果建策担当による確認後、施工すること。なお、鉄筋・配管類を切断する恐れがある場合は、事前に監督職員と協議すること。コア抜き施工後は鉄筋切断の有無を工事監理業務受者もしくは県の担当の立会により確認すること。

23 照明器具の接地	ケーブルの一心を接地線として使用する場合は、緑色の心線とする。
24 照明器具用位置ボックス	ケーブル配線の位置ボックスは原則としてアウトレットボックスとする。 ケーブル配線で照明器具が送り端子付のもの（定格電流15A以上）及び配線が末端となるものは位置ボックスを設けなくよい。

地中管路には、管下5cm、管上10cm程度保護砂を入れる。

地中配線には電圧、線路長に関係なく標識シート（ダブル）を管頂と地表面の中間に設ける。

建築研究所監修)による。

なお、施工に先立ち、耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。

1) 設計用水平地震力

機器の重量 [N] に、設計用標準水平地震度を乗じたものとする。なお、特記なき場合、設計用標準水平地震度は、次による。

【設計用標準水平震度】		・ 特定の施設		○ 一般の施設	
設置場所	機器種別	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器

【備考】(※1) 水槽類は、オイルタンク等を含む。

注：上層階の定義は次による。

重要機器（ ・ 自立配電盤 ・ 防災用発電装置 ・ 直流電源装置 ）

2) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の2分の1とし、水平地震力と同時に働くものとする。

③ 工 事 ・ 完 成 写 真 写真の撮り方は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 営繕工事写真撮影要領（平成28年版）による 工事写真撮影ガイドブック 電気設備工事編 平成30年版」による。

版による 工事写真撮影ガイドブック 電気設備工事編 平成30年版」による。
下記のものを監督職員に提出する。

区 分	提 出 形 式	備 考
工事写真	A 4 版カラー印刷 画像データ (JPEG形式) ※上記両方を提出	A 4 版カラー印刷には、写真内容説明を記入。
完成写真	A 4 版カラー印刷 画像データ (JPEG形式) ※上記両方を提出	A 4 版カラー印刷には、写真内容説明を記入。 外観1枚を含む内6枚程度。 完成検査時に提出。

A 4 版 黒表紙金文字製本 1 部	※要	・ 不要
A 3 版 2 ツ折り製本 1 部	※要	・ 不要
CAD データ C D - R	※要	・ 不要

③④ 機器 取付 高 壁付、壁掛形の機器等の取付高さは、図面の記載のない場合は原則として下表による。
ただし、監督職員の指示により変更することがある。（住宅は別途協議）

名 称	測 点	取 付 高 (mm)	名 称	測 点	取 付 高
ブラケット (一般)	床下～中心	2 100	縦電線地用端子箱	地上、床下～中心	800

備考 (天井高) $\times 0.9$ は天井高が、2,500～3,000mmの場合に適用する

(揮発性有機化合物)対策	
対象建築材料等	使用製品等

対象建築材料等	使 用 制 限
① 合板 木質系フローリング	

ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エテルベンゲンを含むしていない水性系のものとする。

1) ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを含むものとする。

2) フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-ヘチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑性剤を用いているものとする。

(①②③④の建築材料を使用する場合はF☆☆☆☆を基本とし、該当する材料がない場合はF☆☆☆又は同等品を使用する。)

室内に関わる材料（上記①～④及び建具、シール材、その他でその接着剤や塗料の溶剤まで含む）については、ホルムアルデヒド、アトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、クロロビリホリス、ダイアジン、フェノカルブの有無または成分について一覧表に記入し、その資料を添付して提出するものとする。

R050701

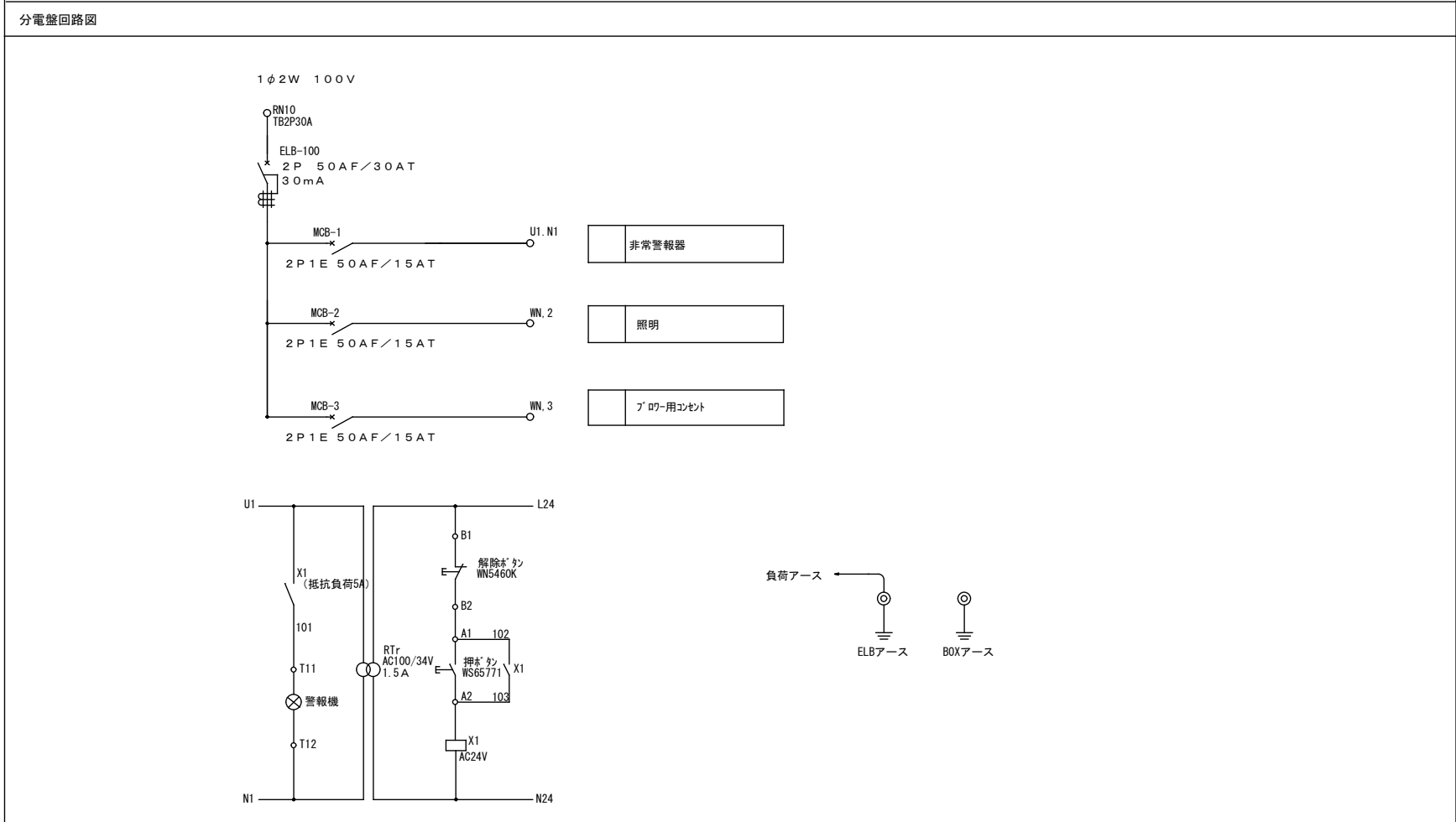
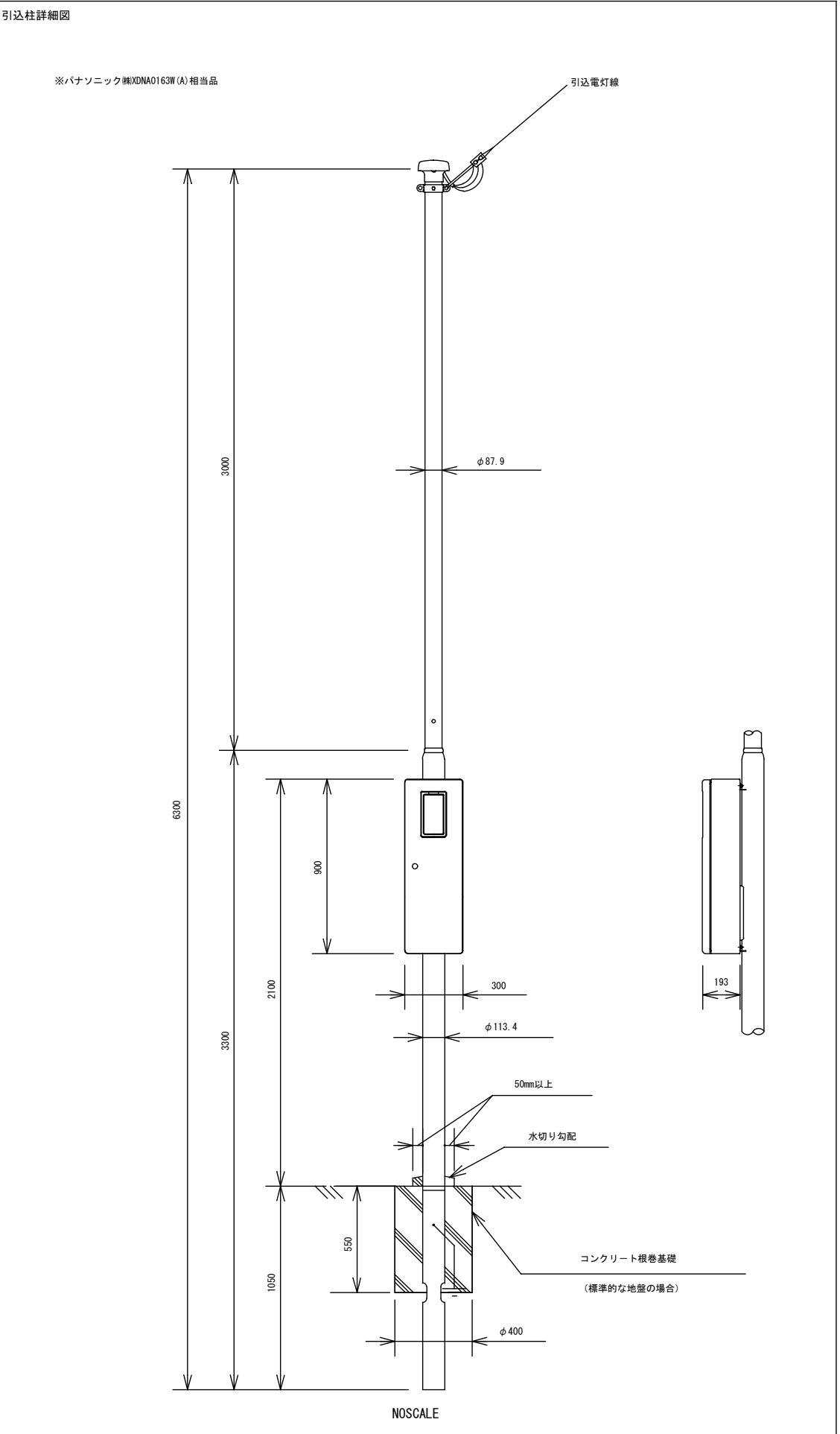
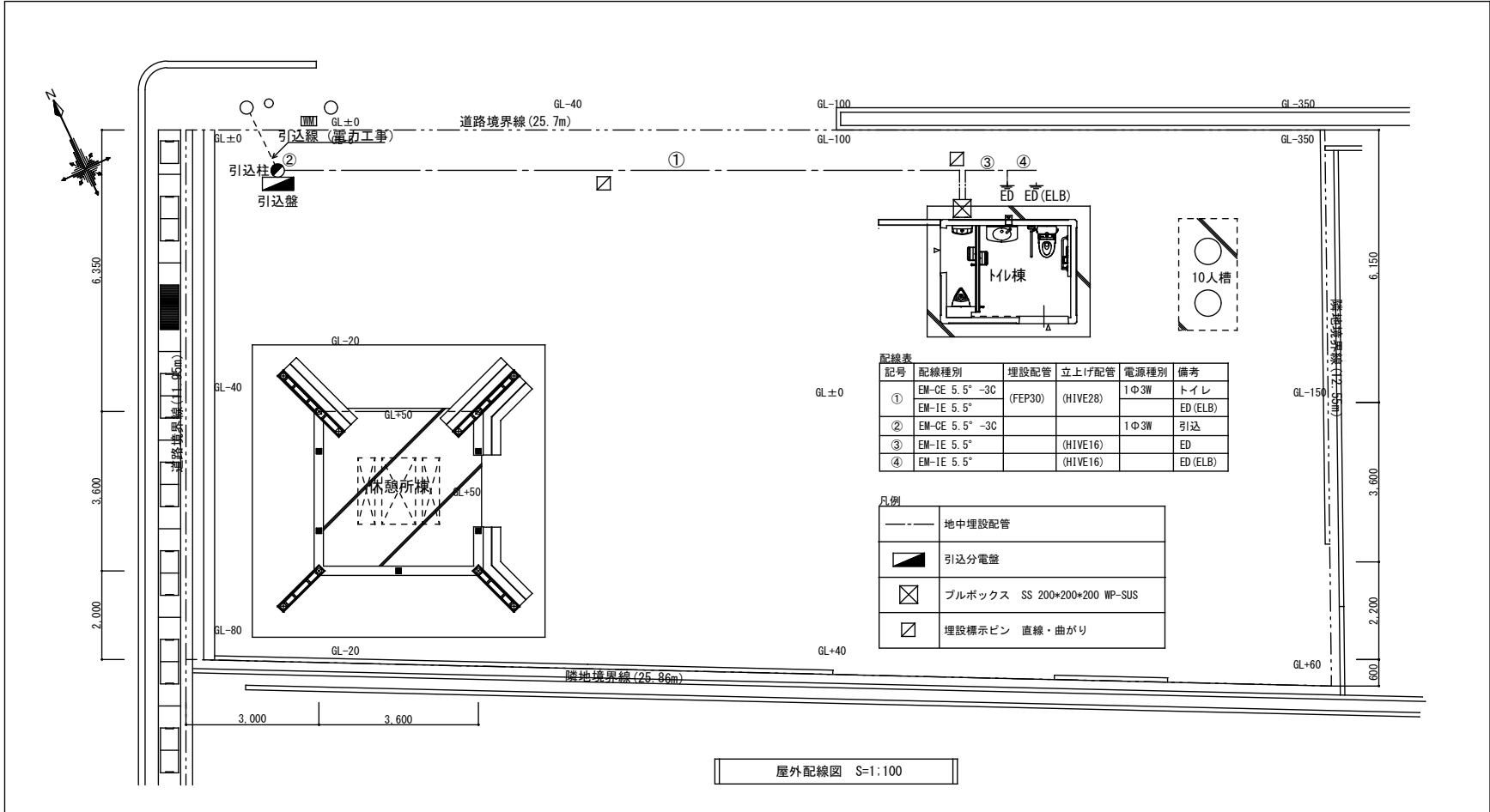
特 記		凡 例	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						電気設備図	特記仕様書		
				製 図	検 印	2025.04.30	縮 尺	図 番	E-01

機材名	指定品	機材名	指定品	機材名	メーカー名	機材名	メーカー名	機材名	メーカー名
電線管類・同付属品	J I S マーク表示品			LED照明器具	アイリスオーヤマ (株) 岩 崎 電 気 (株) (株) 遠藤照明 コイズミ照明株式会社 東芝ライテック (株) パナソニック (株) 三菱電機照明 (株) (株) YAMAGITA 山田照明 (株)	蓄電池 ﾊﾞﾝﾄ形据置鉛蓄電池 制御弁式据置鉛蓄電池 据置ニッケﾙ・ｶﾄﾞﾐｳﾑﾊﾘ蓄電池	エナジーウィズ株式会社 (株) GSユアサ 古河電池 (株)		
電 線 類 等	国土交通省大臣官房官庁 営繕部監修の公共工事標準 仕様書 (電気設備工事編) J I S マーク表示品			照明制御装置	東芝ライテック (株) パナソニック (株) 三菱電機照明 (株)	監視カメラ装置	㈱JVCケンウッド・公共産業システム T O A (株) ﾊﾞﾅｺﾅｯｸｺﾅｸﾄ (株)		
耐火・耐熱ケーブル	耐火・耐熱電線認定機関 の認定または評価された 旨の表示をしたもの			可変速電動機用インバーター装置	(株) 日立産機システム 富士電機 (株) 三 菱 電 機 (株) (株) 安川電機				
配線器具類	J I S マーク表示品			高圧交流遮断機 (真空)	東芝インフラシステムズ* (株) 日 新 電 機 (株) (株) 日立産機システム 富士電機 (株) 富士電機機器制御 (株) 三 菱 電 機 (株) (株) 明 電 舎	盤類 (公共建築工事標準仕様) 分電盤・制御盤 キュービｸﾙ式配電盤	(株) イトウテック 共 栄 電 機 工 業 (株) 光 電 設 (株) 上記の他、令和5年版「建 築材料・設備機材等品質性 能評価事業 設備機材等評 価名簿」に掲載されたもの		
配線用遮断機 JIS C 8201-2-1 に適合するもの 漏電遮断機 JIS C 8201-2-2 に適合するもの	J I S マーク表示品			高圧限流ヒューズ	(株) 宇都宮電機製作所 エナジーサポート (株) 東芝インフラシステムズ* (株) (株) 日立産機システム 富士電機機器制御 (株) 三 菱 電 機 (株)	太陽光発電装置	山洋電気 (株) (株) GSユアサ 東芝インフラシステムズ* (株) パナソニック (株)		
電磁接触器 JIS C 8201-1、JIS C 8201-4-1 に 適合するもの	J I S マーク表示品			高圧負荷開閉器	エナジーサポート (株) 大垣電機 (株) (株) 新愛知電機製作所 (株) 戸上電機製作所 日本高圧電気 (株) (株) 日立産機システム 富士電機機器制御 (株) 三 菱 電 機 (株)	交流無停電電源装置 (UPS)	エナジーウィズ株式会社 山洋電気 (株) (株) GSユアサ (株) GS17ﾎﾟｲﾝﾄﾞｲﾝﾌﾗｽﾄﾘｽﾑｽﾞ* 東芝インフラシステムズ* (株) 富士電機 (株) 古河電池 (株) 三菱電機 (株) (株) 明電舎		
低圧進相コンデンサ JIS C 4901 に適合するもの	J I S マーク表示品			高圧進相コンデンサ	(株) 指月電機製作所 東芝インフラシステムズ* (株) ニ チ コ ン (株) 日 新 電 機 (株) 三 菱 電 機 (株) 利 昌 工 業 (株) ※ 1				
指示電気計器 JISC1102 (指示電気計器)	J I S マーク表示品			※ 1 モールドコンデンサに限る					
非常用照明器具	(社) 日本照明器具工業会 の J I L 適合マークが貼付 されたもの			高圧用変圧器	愛知電機 (株) 四 変 テ ッ ク (株) (株) ﾀﾞｲ ﾍ ﾝ ﾀｶｵｶ化成工業 (株) ※ 2 (株) 東 光 高 岳 東芝インフラシステムズ* (株) 日 新 電 機 (株) (株) 日立産機システム 富士電機 (株) 三 菱 電 機 (株) (株) 明 電 舎 利 昌 工 業 (株) ※ 2				
誘導灯器具	誘導灯認定委員会の認定 証票が貼付されたもの			※ 2 モールド変圧器に限る					
自家発電装置 付属する配電盤をふくむ	日本内燃力発電設備協会 の認定証票が貼付された もの								
防災電源用直流電源装置	蓄電池設備認定委員会の 認定証票が貼付されたもの								
自動閉鎖装置	連動機構・装置等自主評定 委員会の自主評定マークが 貼付されたもの								
非常放送装置の蓄電池	J E A 蓄電池設備認定委員 会の認定証票が貼付された もの								
非常警報装置 (非常ベル)	日本消防検定協会の認定 証票が貼付されたもの								
自動火災報知装置	日本消防検定協会の検定 合格証票が貼付されたもの								
構内交換装置	(財) 電気通信端末機器 審査協会の認定品								

電気設備機材指定表

R050701

特 記		凡 例		東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
			電気設備図				電気設備機材指定表			
						製 図	検 印	2025. 04. 30	縮 尺	図 番 E - 02



特 記 仕 様 書 (1)

工事名称	野根地区公衆トイレ等整備工事			棟 名	構 造	階 数	延床面積 (㎡)	用途地域	消防法施行令別表第一の区分
	設計年度(設計図) 令和 6 年度			休憩所棟	木造	1			
	工事期間(完成図)令和 年 月 日～令和 年 月 日								
	工事場所 高知県安芸郡東洋町			トイレ棟	RC造	1			

I 共通事項

種目

項目

特記仕様

(※及び●印をつけたものを適用する)

一般共通仕様

適用仕様

スリーブ

機器類
区画貫通処理
耐震措置

機器の固定

配管の支持

ねじ接合材

弁類
サヤ管工法
埋設深さ(管上)
埋設管の保護

石綿含有品

建設発生土の処理

建設副産物

コンクリート工事/骨材は
つり・非破壊検査

総合調整

技能士の適用

完成後の提出物

※特記なき事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(機械設備工 令和4年版)」(改修工事の場合は、「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工 令和4年版)」)及び「公共建築設備工事標準図(機械設備工 令和4年版)」による。
※国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック 機械設備工」
※国土交通省仕様
(例：外壁の地中部分 水を要す部分はパイプ側管スリーブ等。地中部分で水を要しない部分はVUSスリーブ。柱・梁以外の箇所では、開口補強が不要でスリーブ径200mm以下は紙スリーブでもよい。)

○国土交通省仕様 ●メーカー仕様
※区画貫通処理が必要な箇所については、箇所別に設置場所・設置状況が確認できる記録を写真及び図面等で残す。
※「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説・平成8年度版」(建設大臣官庁官庁営繕部監修)
※よことしと、施工は「建築設備耐震設計・施工指針」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修 2014年版)による。
建物の種別： ●特定の施設 ○一般の施設 地域係数： 1.0
1)設計用水平地震力は、機器の質量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあつては有効質量)に、地域係数及び設計用標準水平震度を乗じたものとする。重要機器
特記なき場合の設計用標準水平震度は次による。防災機器
2)設計用鉛直地震力は設計水平地震力の1/2とする。火を使用する機器
タンク類
消火設備機器

設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振機器	2.0	2.0	2.0	1.5
屋上及び 塔屋	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
中層階	防振機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

※基礎のアンカーボルト・吊り基礎ボルト・吊り金物及び防振を施す機器類の取付けボルトは、ロックナット又は2重ナットにて固定する。
注)ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。
※機器の固定に使用する金属系アンカーはスリーブ打込み式または、ウエッジ式とする。(県標準図16) ※ケミカルアンカーは、天井方向に使用しない。
※防振架台を設置する場合、耐震ストッパーの調整を製造者の指定どおりに行うこと。
※一般土間コンクリート下部配管は耐蝕性のある吊りボルト(亜鉛ドブ漬又はステンレス製)にてスラブ筋に支持する。
※屋外及びビッド内配管の支持金物・吊り金物は亜鉛ドブ漬又はSUS製とする。屋内外露出部には既製品支持架台は使用しない。
※仕様のとおりにより配管等を施工しても、他の資材配管等と干渉する場合は振れ止めを適宜設ける。

流体種別			給水			給湯			冷水水		
管 材 等 種 別	ｽﾃﾝﾚｽ管	ﾗｲﾆﾝｸﾞ管	水栓金具	弁 類	ｽﾃﾝﾚｽ管	ﾗｲﾆﾝｸﾞ管	弁 類	ｽﾃﾝﾚｽ管	ﾗｲﾆﾝｸﾞ管	鋼管	弁 類
テーパーシール材		(イ)	(イ)								
ベーストシール剤	(ロ)			(ロ)	(ロ)		(ロ)	(ロ)			(ロ)
		(ハ)				(ハ)			(ハ)	(ハ)	

※(イ) テーパーシール材は、JIS K 6885 (シール用四ふつ化エチレン樹脂未焼成テープ(生テープ))によるものとする。
注)水栓類は、防水シール材を用いない。テーパーシール材を使用する。
※(ロ) 一般用ベーストシール剤は、管内の流体に溶出せず、使用目的に適する成分のものとする。
※(ハ) 給水用、給湯用及び冷水水の防食用ベーストシール剤は、JWWA K 161 (水道用ライニング鋼管用液状シール剤) に規定する水道用シール剤とする。
注)水道用シール剤において JWWA K 161 に適合している主なベーストシール剤は下記による。
ステンレス鋼管等防食の必要がないネジ部には水道用シール剤 (ロ)
(例：日本ヘルメチックス株式会社のヘルメシール 403・株式会社ヘルメチックのHERMETIC F-119・山王工業株式会社のヘルメチック No.A0-9など)
ライニング鋼管に使用する防食用ベーストシール剤 (ハ)
(例：日本ヘルメチックス株式会社のヘルメシール55-88・403・株式会社ヘルメチックのHT-Seal F-109・山王工業株式会社のヘルメチックNo.A0-9など)
※ステンレス鋼管に取り付ける弁類は呼び径50以下は青銅製、呼び径65以上はステンレス製とする。
※サヤ管工法で施工する場合、サヤ管施工後に配管挿入を行うこと。(同時施工を行わない。)
●一般敷地300mm以上 ●車両通路600mm以上 ○公道800mm以上 ○公道1,200mm以上。
●埋設管は周囲100mm程度に保護砂を入れる。ただし排水管は別記による。
●量水器以降の埋設給水管はクイックチューブ等で巻く。
※石綿含有分析調査 ○本工事 ●別途 ○無し
アスベスト含有品 (ガスケット、パッキン、たわみ継手、保温材、天井材等) は関係法令に従い適切に処理を行う。
※構外搬出
その他 建設発生土の搬出先は上記を予定している。搬出先が変更となる場合は、設計変更の対象とする。

○構内指定場所に敷き均し ●構内指定場所に堆積
※アスファルト、アスファルト路盤は原則として再生品品を使用する。
※浄化槽・樹類の砂利地盤は原則として再生クラッシュランを使用する。(アスファルト再生品混じりは不可)
※本工事に於いて、細骨材に海砂を配合した生コンクリートを使用する場合、高知県内産海砂を配合したものを優先的に使用するものとする。
※はつり、穴開け及びあて施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場所を鉄筋探査器により探査し、鉄筋・配管類の位置に墨出しを行う。
なお、『コア抜き・はつり工事チェックリスト』を作成し段階確認を行って施工する。
※下記項目の総合調整を行い、測定者を監督職員に提出する。(測定場所等は監督職員の指示による。)
○風量調整 ●水量調整 ○室内外空気の温湿度の測定 ○騒音の測定 ○室内気流及びじんあいの測定
○配管施工(配管工事) ○熱絶縁施工(保温工事) ○建築板金施工(ダクト製作及び取付) ○冷凍空調調和機器施工 ○その他
完 成 図 ※CADデータでCD-Rに保存して提出。 ※画像データ(PDF形式) ※A4版黒表紙文字製本 1部 ※2つ折りA3版製本 1部
工 図 ※CADデータでCD-Rに保存して提出。 ※画像データ(PDF形式) ※2つ折り製本(サイズは原因による)
工事管理資料(写し) ※フラットファイル等に閉じたもの。
工 事 写 真 ※フラットファイル等に閉じたもの。
工 事 日 誌 ※フラットファイル等に閉じたもの。
工 具 類 ●マンホールフック ○制水弁ハンドル ○掃除口ハンドル

●(揮発性有機化合物対策)

室内空気汚染対策

対象建築材料等

使用制限

① 合板、木質フローリング、構造用パネ、集成材、
単板積層材、MDF、パーティクルボード、ユリア樹脂板
壁紙、緩衝材、断熱材、保温材、仕上り塗材

F☆☆☆☆又は同等の大臣認定品とする。

② 塗料

ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを含有していない水性形のものとする。

③ 木材保存剤(防蟻処理、防蟻処理等)

クロルピリホリス、ダイアジノン、フェノプロカルブを含有しない、非有機リン系の薬剤とし、加圧式防蟻・防蟻処理は工場で行い、十分乾燥した後に現場搬入する。

④ 内装用接着剤、木工用接着剤、配管用接着剤、接合剤

1)ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを含有していないものとする。
2)フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものとする。

⑤ 家具、書架、実験台、什器、洗面化粧台、流し台

①、②、③、④の建築材料を使用する場合はF☆☆☆☆を基本とし、該当する材料がない場合はF☆☆☆☆又は同等品を使用する。
室内に關する材料(上記②～④及び建具、シール材、その他その接着剤や塗料の溶剤まで含む)については、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、クロルピリホリス、ダイアジノン、フェノプロカルブの有無または成分について一覧表に記入し、その資料を添付して提出するものとする。

配管材料	① 配管用炭素鋼鋼管 【SGP黒管】 (JIS G 3452)	② 配管用炭素鋼鋼管 【SGP白管】 (JIS G 3452)	③ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 【SGP-VA】 (JWWA K 116・WSP 011)	④ 水道用内外面硬質塩化ビニルライニング鋼管 【SGP-VD】 (JWWA K 116)	⑤ 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 【SGP-PA】 (JWWA K 132・WSP 039)	⑥ 消防用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 【SGP-VS】 (WSP 041)	⑦ 水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 【SGP-HVA】 (JWWA K 140)	⑧ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 【SUS 304 TPD】 (JIS G 3448)・・・60A以下は拡管式	⑨ 配管用ステンレス鋼鋼管 【SUS 304】 (JIS G 3459)	⑩ 水道用ダクタイル鋳鉄管 【3種管】 (JWWA G 113)	⑪ 鋼管 【M】 (JIS H 3300)	⑫ 外面被覆鋼管 【M】 (JIS H 3330) 給湯	⑬ 耐熱性硬質塩化ビニル管 【HTVP】 (JIS K 6776)	⑭ 水道用硬質塩化ビニル管 【VWP】 (JIS K 6742)	⑮ 耐衝撃性硬質塩化ビニル管 【HIVP】 (JIS K 6742)	⑯ 水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管 【RR-VP】 (JWWA K 127)	⑰ 水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 【RR-HIVP】 (JWWA K 129)	⑱ 水道用ポリエチレン二層管 (JIS K 6762)	⑲ 水道配用水用ポリエチレン管 (JWWA K 144)	⑳ 架構ポリエチレン管 (5mm保温付)(水・湯)(先分岐工法,エスロカテット等)	㉑ ポリブテン管 (JIS K 6778)	㉒ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 【D-VA】 (WSP 042)	㉓ 排水用ノントータルエポキシ塗装鋼管 (WSP 032)	㉔ 排水用鋳鉄管 【メカニカル形2種管】 (JIS G 5525)	㉕ 鉛管 (HASS 203)	㉖ 硬質ポリ塩化ビニル管 【VP】 (JIS K 6741)	㉗ 硬質ポリ塩化ビニル管 【VU】 (JIS K 6741)	㉘ 排水・通気用耐火二層管 【内管VP】	㉙ 卵形管 【ゴムリング】 (JAWAS K-3)	㉚ プレキャスト鉄筋コンクリート製品 (JIS A 5372) ヒューム管	㉛ 硬質塩化ビニル被覆鋼管 【ガス】 (JIS G 3452原管) 白	㉜ ガス用ポリエチレン管 (JIS K 6774)	㉝ ガス用ステンレス製フレキシブル管 【原管 (JIS G 4305)によりガス用に製造されたもの】	㉞ 断熱材被覆鋼管 【ポリエチレン保温材】 (JCDA 0009) 冷媒	㉟ 屋外消火栓設備用高性能ポリエチレン管 (日本消防設備安全センターの性能認定取得品)	㊱ 空調用保温材付ドレン管【ポリエチレン保温材 NDD・MDP同等】 (内管JIS規格品)	㊲ カラーパイプ	㊳ -	㊴ -	㊵ -																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	管種使用区分	工種	場所	屋内一般	屋内ビット	屋内コンクリ	屋内土中	屋外埋設	屋外架空																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

特 記		凡 例	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						機械設備図	機械設備 特記仕様書（１）		
				製 図	検 印	2025. 04. 30		図 番	M - 01

特 記 仕 様 書 (2)

II 工事種目

●衛生器具設備	取付位置 大便器 化粧鏡 流量調整 洗濯機パン シール（コーキング）	※ 衛生器具及び周辺機器類の取付位置は総合図・展開図等を作成して、確認後に取付けること。 （特に、便器類と手すり・便器類と操作ボタン類・操作ボタン類と手すり等の位置関係に注意） ※ 和風大便器下面でコンクリートに接する部分はアスファルト塗布（3mm以上）とする。（県標準図1） ※ 和風大便器を防火区画に設置する場合、和風便器用耐火カバーを設ける。 ※ 化粧鏡取付にあたっては落下破損防止のため、表面シール材等による張付にて取付などの処置を施す。 ※ 小便器・大便器等の手動フラッシュ弁流量調整は、下記の流出時間を目安とする。ただし、衛生器具のマニュアル等に記載があれば内容に準ずること。 大便器 8～10秒 小便器 8～10秒 自閉式水栓 7秒 ※ 洗濯機パンを設置する床面は、耐荷重性と平滑性に注意する。 ● 器具類と壁・床のシール（コーキング）打ちは右記の表による。 <table><tr><th rowspan="2">機器種別</th><th colspan="2">設置場所の床が湿式（防水）</th><th colspan="2">設置場所の床が乾式（非防水）</th></tr><tr><th>壁</th><th>床</th><th>壁</th><th>床</th></tr><tr><td>洋風便器</td><td>—</td><td>不</td><td>—</td><td>不</td></tr><tr><td>洗面器類</td><td>不</td><td>—</td><td>要</td><td>—</td></tr><tr><td>掃除流し</td><td>不</td><td>—</td><td>要</td><td>不</td></tr><tr><td>洗濯流し</td><td>不</td><td>—</td><td>要</td><td>不</td></tr><tr><td>洗濯パン</td><td>—</td><td>—</td><td>要</td><td>不</td></tr><tr><td>ステンレス流し台</td><td>要</td><td>不</td><td>要</td><td>不</td></tr><tr><td>化粧棚</td><td>不</td><td>—</td><td>要</td><td>—</td></tr></table> 壁・床の仕様にからかわず、自動水栓装置・コンセント・非常呼出しなど電気機器類に水かかりが好ましくない場合はシール打ちを施す。	機器種別	設置場所の床が湿式（防水）		設置場所の床が乾式（非防水）		壁	床	壁	床	洋風便器	—	不	—	不	洗面器類	不	—	要	—	掃除流し	不	—	要	不	洗濯流し	不	—	要	不	洗濯パン	—	—	要	不	ステンレス流し台	要	不	要	不	化粧棚	不	—	要	—
機器種別	設置場所の床が湿式（防水）			設置場所の床が乾式（非防水）																																										
	壁	床	壁	床																																										
洋風便器	—	不	—	不																																										
洗面器類	不	—	要	—																																										
掃除流し	不	—	要	不																																										
洗濯流し	不	—	要	不																																										
洗濯パン	—	—	要	不																																										
ステンレス流し台	要	不	要	不																																										
化粧棚	不	—	要	—																																										
●給水設備	負担金類 継手類 バルブボックス 隠蔽部の保温 既設給水銅管への接続 水槽類の施工手順 水槽類の衛生管理 引渡前の水質の管理	● 不要 ○ 要（ ） ※ 直圧給水弁は水道事業者の指定品（指定のない場合は、二次側給水に準じた弁） ※ 二次側給水弁（土中）：40A以下は青銅製で蝶ハンドル付止水水栓、50A以上はソフトシール制水弁（内面ライニング） ※ 二次側給水弁（一般）：40A以下は管端防食ねじ込み形青銅弁5K、50A以上は鑄鉄製F付き内面ライニング弁5K ※ 水栓エルボ、水栓ソケットは器具側砲金内ねじ形とする。 ※ ユニツバス付属の水栓エルボへの接続は砲金継手等を使用し、管端の防錆をする。 ※ ビニル管とライニング銅管の接続には水栓エルボ・水栓ソケットは使用しない。 ※ T Sバルブソケットは金属製（砲金）おすネジを打込しているものを使用する。 ※ 水道事業者の指定がない場合の埋設弁のボックスは、県標準図5・6による。 ※ 給水管の細部保温は特記なき場合は下記の通りとする。壁中等で仕様書通りの施工が困難な場合は監督職員の指示により保温を施す。 空間の有る壁中配管 → 要 流し下の空間配管 → 要 ※ 改修工事等で銅管類（ライニング銅管）を切断して、やむを得ずメカニカル継手を使用する場合には、銅管類の切断部の防錆処理として、JWWA K 135規格適合品（エポキシ系DEVCON SF等バイプライニング用）にて処置する。ただし、コア一体型管端防食タイプソケットRC-LA型機リケンを使用する場合は処理不要とする。） ※ 水位設定の協議後に、水位高さ入り施工図を作成し発注・施工を行う。なお、県標準図4を参考とし水位高さを協議する。 ※ 受水槽・高架水槽を新設（改修等含む）施工する場合は、清掃・消毒等後に水張りを行う。 ● 残留塩素濃度の測定を行う。（端末において0.2mg/L以上検出されるまで消毒を行う。） ○ 建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づく水質検査（11項目）について行うこと。採水場所は指定の箇所（ ）（ ）とする。																																												
●排水設備	保護砂砂利 樹脂製排水樹 衛生器具等の接続 排水管の防露 排水管の試験等 その他	● 第1樹以降の屋外ビニル管部分には、保護砂（180度台）を要す。 ○ 遠心力鉄筋コンクリート管部分には砂利台を要す。 ※ 防護蓋を設置する場合は県標準図7による。 ● 洗面器等の排水金具と専用の排水アダプタでビニル管に接続できない場合、VCパッキンを使用する。 ※ 既製流しの排水金具に使用しているジャバラホースはそのまま使用せず、VP配管直結（VCパッキンでも可）とする。県標準図5による。 ○ 雨水立管の下部受部は差込継手を使用する。（但し平屋建は不要とする。） ※ 空間のある壁中配管・集合住宅等のスラブ上配管・受水槽他水槽からドレンバルブまで一必要 流し台下空間配管・実験台等への立ち上がり露出配管一必要 ○ 満水試験 ● 通水試験 ○ 鏡確認 ※ 洗濯機排水金物の床貫通部等は共仕居区画に適合する処理を施す。																																												
○消火設備	消火栓箱	○ 消火栓箱は（○ 県標準図12 ○ 国土交通省仕様 ○ メーカー仕様） ○ 共仕居区画の消防検査受検必要																																												
●給湯設備	弁 絶縁対策 給湯管の保温 大気汚染対策	○ 40A以下は青銅弁5K、50A以上は一般配管用ステンレス鋼弁10K ※ 銅管及びステンレス配管は支持金物との絶縁処理を行う。 ※ 銅板製ボイラー及び銅管との接続等、異種管との接続には絶縁継手を使用する。 ※ 給湯配管に簡易保温筒（クイックチューブ）を使用する場合は耐熱性のものを使用する。 ※ 被覆銅管の継手カバーは保温付きのものを使用する。 ※ 給湯器の配管化粧カバー内は凍結破損防止を考慮した保温（簡易保温筒）施工を行う。 ○ 排ガス監視装置を要す。 ○ ばい煙濃度測定口を要す。																																												
●ガス設備	ガス集合装置 給湯器用止水弁 その他	※ ガス集合装置は県標準図9・10・11を参照し、漏洩検知装置・耐震遮断装置・転倒防止金具等の必要有無に注意する。 ※ スプリングチャッキ内蔵ボール弁を使用する。 ※ ガス用フレキシ管とガスコック等（ヒューズコック）との接続は、コック等の固定が出来る部材等を使用して接続する。 ※ ゴムホース接続なきコックはゴムキャップを付ける。 ※ ボンベ支持クサリ用のアンカーボルトは、10mm以上のもので、下記のいずれかとする。 ※ 増込アンカー・雄ネジ形メカニカルアプワナー・接着系アンカー（ケミカルアンカー）なお、チェーン、フックも同様の強度を持つものとする。 ※ 自記記録計によるガス圧テスト表の写しを県に提出し、正本は施工業者で5年間保存する。																																												
○浄化槽設備	種汚泥 試運転調整 その他	※ 使用開始時には必要に応じて種汚泥を投入する。 ※ 浄化槽の使用開始後おおむね3ヶ月間の試運転調整を行うもので、浄化槽法による「保守点検及び清掃等」を行うほか下記の事項を言う。 ① 維持管理を管理業者から引継ぐ場合は直前に水質検査（BOD、SS、PH、大腸菌、塩素イオン）を行い、そのコピーを維持管理業者、施設管理者、工事監督者に渡し、設計・施工・現状の注意事項を申し送ること。 ※ 見やすい場所に型式、施工者名、設置年月、処理能力、放流水質を入した銘板を設置する。 ※ コンクリート頂版スラブを施工する場合、モルタルの浮き上がり、及び、水たまりが出来ないように仕上げ勾配に注意する。 ○ 補助金申請設備																																												

● 空気調和・換気設備	空調機器の仕様 パッケージエアコン等 自動空気抜き弁装置 冷媒配管のラッキング ダクト 消音内貼り 厨房等の排気フード 送風機（大型） エアコン類の電気工事 防振ハンガー 耐震対策措置 機器付属の制御盤 大気汚染対策	※ グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成十二年法律第百号））の判断基準適合品とする。 なお、パッケージ及びマルチエアコン等については、各メーカーの最高効率機種とする。 ○ 屋外機はJRA耐重塩害仕様とする。 ○ 屋外機は耐塩害仕様とする。 ※ パッケージエアコン屋内機の施工については県標準図13を参考にして注意する。 ○ 天カセ形室内機の取付等による天井の開口及び補強・補修を行う。（建築工事標準詳細図参照） 1）補強野縁は野縁と、補強野縁受及び取付け用補強材は野縁受と同材とする。 2）野縁受のはね出しが300mm以上の場合は、増し吊りを設ける。 ※ 室外機には設置場所を問わず、溶融亜鉛メッキ製またはSUS製の転倒防止金具もしくは転倒防止ワイヤーを設ける。 ● 不要 ○ 要（ ）ヶ所 自動空気抜き弁にはGⅤ及びストレーナーを取付ける。 ※ 配管ラッキング（溶融アルミニウム・亜鉛鉄板・配管化粧カバー）は室外機の直近まで施す。 ※ 配管樹脂化粧カバー（スリムダクト）も室外機の直近まで施す。なお、屋外スリムダクト最終部は閉塞処理を行う。（コーキング処理、またはエンドキャップ処理）（フリーコーナー（ジャバラ）は使用しない。） ○ アルミフレキ（不燃材料認定品） ○ ステンレスフレキ（不燃材料認定品） ※ 内貼りチャンパの寸法表示は、外法寸法とすること。サブライチャンパにはその上に銅きつ甲金網押えを行う。 ※ 消音材はグラスウール（吹出口チャンパー・吸込口チャンパー・レターンチャンパーは25mm厚、サブライチャンパーは50mm厚）とし、ガラスクロス押えとする。 ※ 排気フードは、SUS430製とする。（1.0mm厚） ※ フィルターは分解掃除が出来るものにする。 ※ 黄銅製コックは20mmのものとする。（キャップ止でもよい） ※ 火器使用機器が確定後にフードの形状寸法を変更して、投影面積が変わる場合はフードの面風速もチェックする。 （参考：フードの面風速は一般的に0.3m/sとして設計している。） ※ 送風機の機器表にファン番号（#）を明記している場合、小さい番手にしない。 ※ エアコン設置に必要な一次側電源送り以降の、室内外配り電源線、制御線、アース（CE2sq/4C・CE3.5sq/4C程度）を要す。 ※ リモコン線はEM-AEO.9mm/2C～3C、又はVCTFO.75sq/2C～3Cとする。（但し延長が10m以下のリモコン線は機器付属品でもよい。） ※ 室内外の配り配線で、冷媒配管と同じルートで施工する場所は同保温外装内に納める。（電源・制御配線の最低離隔距離は機器メーカーの基準に準ずる。） ※ 表示窓の付いたリモコンの取付場所は視認性の良い高さ（1,300～1500h）照明SWの上を標準とするが、総合図で充分打合せ調整を行う。 ※ 防振ハンガーの設置判断基準は県標準図14による。 ※ 震災後の設備機能確保を図る実務的設備耐震対策措置は県標準図15による。 ※ 冷水水発生機、ボイラ及び温風暖房機の壁の始動スイッチの二次側に煤煙濃度計用電源端子を設ける。 ○ 排ガス監視装置を要す。 ○ ばい煙濃度測定口を要す。
● 別工 別工 別工	別 途 工 事	● スリーブ、箱入れの補強筋 ○ ガラリ ● 天井および壁貫通に対する下地補強 ○ ブロバンポンペ庫 ● 点検口 ○ ○

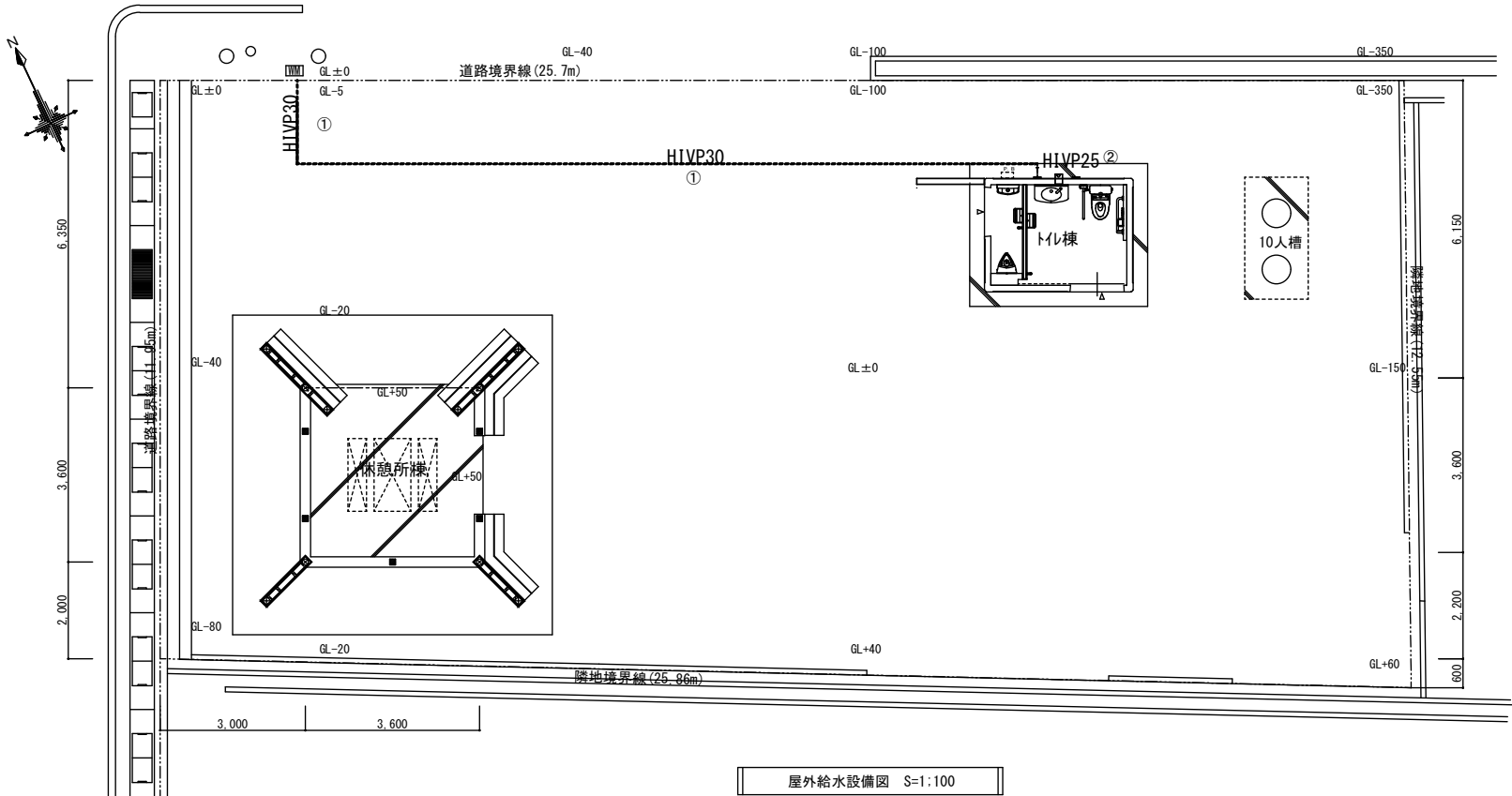
III 材料メーカ一表

材 料	材 料 メ ー カ ー
衛 生 陶 器	TOTO、LIXIL(INAX)、ジャニス工業
水 栓 金 具 類	TOTO、LIXIL(INAX)、ジャニス工業、三栄水栓
F R P 水 槽	三菱、日立、積水
う ず 巻 ポ ン プ	荏原、日立、ﾌｼﾞﾊﾞ、川本
水 中 モ ー タ ー ポ ン プ	荏原、日立、ﾌｼﾞﾊﾞ、川本、鶴見
汚 水 ・ 汚 物 ポ ン プ	荏原、日立、ﾌｼﾞﾊﾞ、川本、鶴見、新明和
電 気 温 水 器	三菱、日立、パナソニック、東芝、日立
厨 房 機 器	日本調理、フジマック、北沢、ホシザキ四国、タニコー、マルゼン
小 型 鋼 板 ボ イ ラ ー	巴、昭和、愛知、ネボン、ヒラカワ
F R P 膨 張 タ ン ク	日立化成、三菱樹脂、ホーコス
ル ー ム エ ア コ ン	ダイキン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア
パ ッ ケ ー ジ エ ア コ ン	ダイキン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア
冷 温 水 発 生 機	矢崎、日立、荏原、川重、三菱重工、パナソニック
エ ア ハ ン ド リ ン グ ユ ニ ッ ト	新見、ダイキン、三菱、昭和、日立、木村、東芝キャリア、三菱重工
送 風 機	日立、テラル、荏原、パナソニック、谷山、ミツヤ、旭電業
冷 却 塔	矢崎、日立、荏原シンワ、空研、日本スピンドル
自 動 制 御 機 器	アズビル、ジョンソンコントロールズ
ロ ー ル フ ィ ル タ ー	日本スピンドル、東洋空気調和、日本エアフィルタ
全 熱 交 換 形 換 気 扇	三菱、パナソニック、テラル、東芝、日立、ダイキン
そ の 他	国土交通省仕様適合品

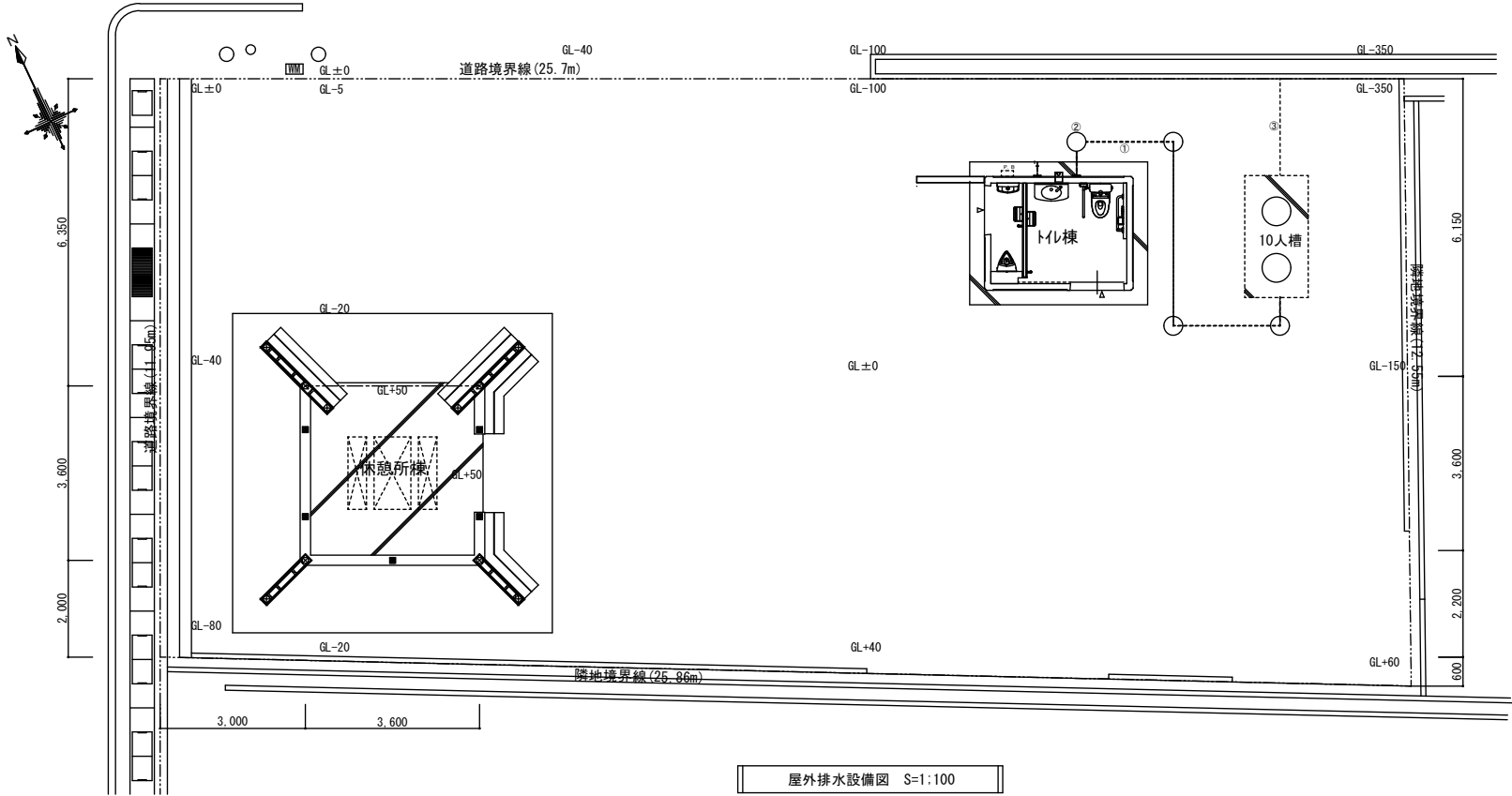
完成後必要な 取扱資格者	ボ イ ラ	○ 資格不要 ○ 特別教育修了者（小型ボイラ） ○ 講習修了者 ○ （ ） 級ボイラ技士		
	危 険 物	○ 資格不要 ○ 危険物取扱主任者		
	冷 凍 機	○ 資格不要 ○ 第（ ） 種冷凍機械作業主任者		

		官公庁等	打 合 せ 事 項		確 認 日			
給	水				令和	年	月	日
排	水				令和	年	月	日
消	防				令和	年	月	日
浄	化 槽				令和	年	月	日
ガ	ス				令和	年	月	日
そ	の 他				令和	年	月	日
					令和	年	月	日

	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
				機械設備図	機械設備 特記仕様書（２）		
		製 図	検 印	2025.04.30		図 番	M - 02

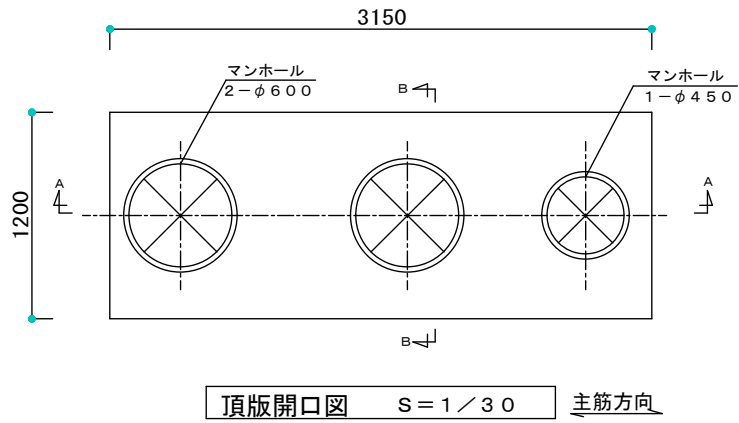


番号	内 容	仕 様	数 量
①	HIVP30	耐衝撃性硬質塩化ビニル管	17.0m
②	HIVP25	耐衝撃性硬質塩化ビニル管	0.4m

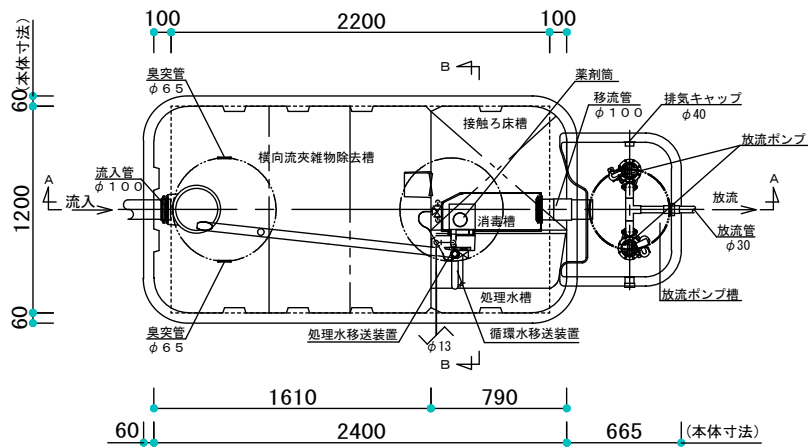


番号	内 容	仕 様	数 量
①	VP100	硬質塩化ビニル管	9.3m
②	小口径90° L	耐衝撃性硬質塩化ビニル管	4個
③	VP30	硬質塩化ビニル管	2.0m

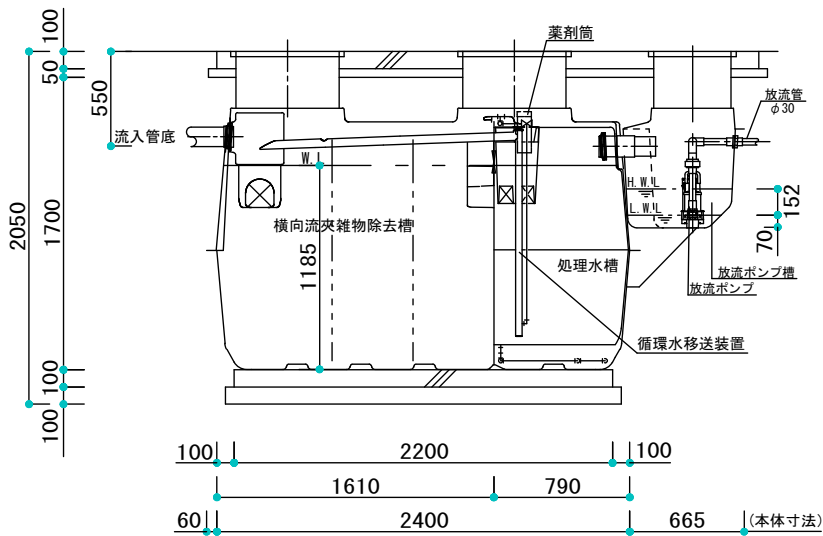
特 記		凡 例	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						構 造 図	給排水設備図		
			製 図	検 印		2025.04.30	縮 尺 S=1:100	図 番	M-03



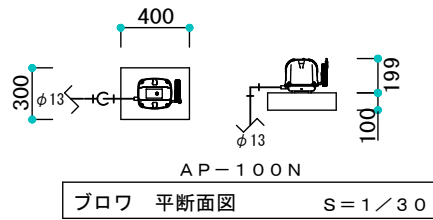
頂版開口図 S=1/30 主筋方向



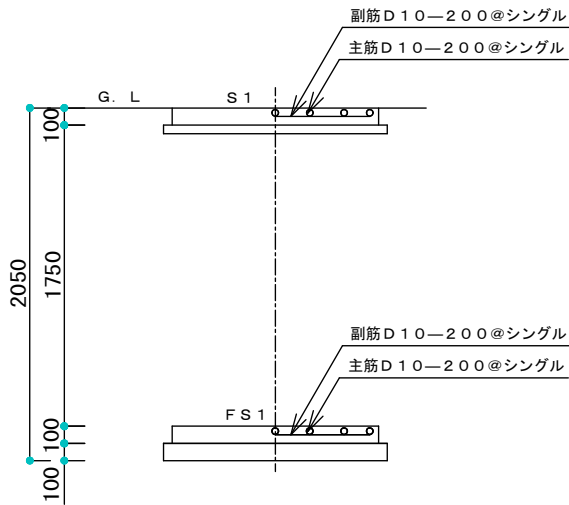
平面図 S=1/30



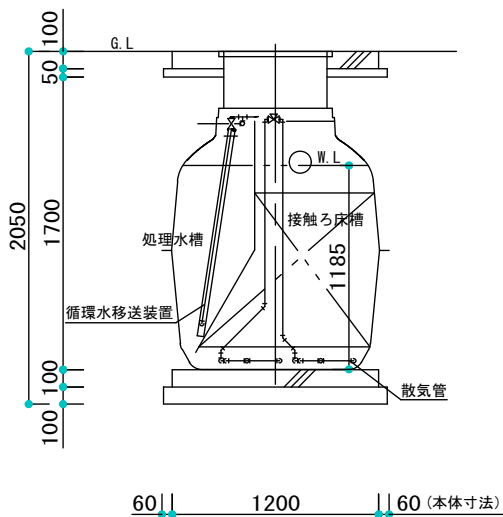
A-A断面図 S=1/30



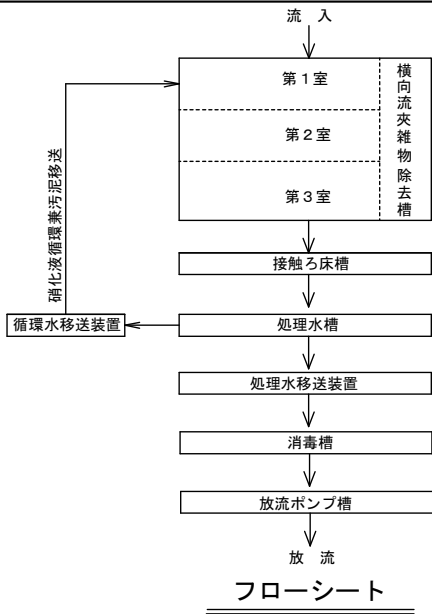
ブロウ 平断面図 S=1/30



B-B断面配筋図 S=1/30



B-B断面図 S=1/30



フローシート

ダイキアキス浄化槽	
型式	XJ-10
型式認定番号	8-24-H-003
仕様表	
分類	合併処理
処理計画人員	10人
処理計画汚水量	2.0 m ³ /日
流入水質	BOD 200mg/L
	COD 100mg/L
	SS 160mg/L
	T-N 45mg/L
放流水質	BOD 20mg/L
	COD 30mg/L
	SS 20mg/L
	T-N 20mg/L
処理方式	横向往来雑物除去接触ろ床循環方式
有効容量 (m ³)	
横向往来雑物除去槽	2.071
接触ろ床槽	0.681
処理水槽	0.291
消毒槽	0.021
放流ポンプ槽	0.040
電気機器仕様	
ブロウ	100V-単相-71W 1台
放流ポンプ	100V-単相-130W 2台

注記

スラブ荷重は、T-2とする。

コンクリート強度：F_c=21N/mm²とする。

開口部補強筋を設けること。

開口部補強筋の定着長さは、L=40dとする。

マンホールは、FRP製とする。

臭突工事は、処理槽工事外とする。

臭突横引き配管は、上り勾配施工とする。

流入・放流配管は、処理槽工事外とする。

処理槽流入部付近に給水栓を設けること。但し、処理槽工事外とする。

臭突管の工事ができない場所は、放流ポンプ槽から放流先に空気逃がし配管を行って下さい。

本図は、嵩上げ材H=300mmを設置した図面となります。

特 記		凡 例	東 洋 町			工 事 名	野根地区公衆トイレ等整備工事		
						構 造 図	浄化槽詳細図		
			製 図	検 印		2025.04.30	縮 尺 S=1:30	図 番	M-04